

# 第Ⅰ章 はじめに

## 第1節 調査体制

発掘調査（平成7年度）

調査主体 西合志町教育委員会

調査責任者 本田 孝（元教育長）

調査事務局 坂本 武夫（元社会教育課課長）

九重 光雄（元社会教育課課長補佐）

徳永 誠也（元社会教育係係長）

宮野 孝子（元社会教育係主幹）

調査担当者 浦田 信智（元社会教育課技師）

整理報告書作成（令和3年度）

調査主体 合志市教育委員会

調査責任者 中島 栄治（教育長）

調査事務局 岩男 竜彦（教育部部長）

飯開 輝久雄（生涯学習課課長）

山隈 和徳（生涯学習課課長補佐）

境 真奈美（生涯学習課主幹）

調査担当者 米村 大（生涯学習課文化財担当主査）

前田 純子（生涯学習課文化財担当主事）

調査指導者 木村 龍生（熊本県教育庁文化課）

調査協力者 神 啓崇（福岡市埋蔵文化財センター）

## 第2節 調査の経過

2月第1週（1～2日） 2～5号墓前庭部掘削

2月第2週（5～9日） 1～5号墓前庭部掘削、1～5号墓玄室掘削、1・2・4号墓遺物出土状況撮影、5号墓玄室写真撮影、2号墓実測図作成、地形測量

2月第3週（13～16日） 3・4・5号墓前庭部掘削、1・2・4号墓遺構実測図作成、5号墓玄室遺物出土状況撮影、6号墓調査前撮影、4号墓玄室撮影

2月第4週（19～23日） 3・5・6号墓前庭部・玄室、羨道部掘削、3～5号墓遺構実測図作成、1・2号墓完掘状況撮影、3号墓羨道部・玄室遺物出土状況撮影、4号墓完掘状況撮影、5号墓前庭部遺物出土状況撮影、5号墓遺物取り上げ

2月第5週（26～29日） 1～3・6号墓前庭部・玄室掘削、3・6・5号墓前庭部遺物出土状況実測図作成、5号墓玄室完掘状況・前庭部遺物出土状況撮影、3・6号墓玄室撮影、3号墓遺物出土状況撮影

3月第1週（1日） 3号墓前庭部遺物出土状況実測図作成、5号墓前庭部遺物取り上げ、5・6号墓前庭部掘削

3月第2週（4～8日） 3・5号墓前庭部遺物取り上げ、3・5・6号墓前庭部遺物出土状況撮影、6号墓玄室実測図作成、3・6号墓前庭部遺物出土状況撮影、3・5号墓玄室完掘状況撮影、横穴群空中写真撮影、1・3・4・5号墓土囊による養生、5号墓玄室埋め戻し、6号墓遺物取り上げ

3月第3週（12～14日） 6号墓前庭部・羨道部完掘状況撮影・羨門写真撮影、1・2・6号墓玄室土囊による養生、地形測量

## 第Ⅱ章 遺跡の環境

### 第1節 遺跡の位置と環境

合志台地は、阿蘇外輪山の西側斜面下にあり、阿蘇火碎流を基盤とする洪積世段丘である。この台地は、透水性が強く、雨水は地下に浸透することから、起伏の少ない傾斜の緩やかな地形である。菊池川水系である合志川は阿蘇外輪山の鞍岳を源とし、その合志川に流れ込む支流は台地を侵食する谷地形を形成している。本横穴は、この台地の北西に位置する。

台地上で営まれる農業は現在、水利が発達し水田化されるが、近年まで畑作地帯であった。水田化できるのは、わずかな谷地形に限られ、ほとんどは、火山灰より形成された肥沃ではない土地であった。そのため畑作主体の生業が営まれていたと考えられる。

荻迫横穴群は、合志川の支流である塩浸川左岸台地斜面にある阿蘇溶結凝灰岩の崖面を利用し、横穴が築造されている。周辺には、同じ塩浸川左岸に立地する立割横穴群、塚口横穴群があり、その西側台地上に黒松古墳群が位置している。本横穴群の対岸には、生坪古墳、発掘調査が行われた石立石棺、石立遺跡、八反原遺跡、八反田遺跡、迫原遺跡などの多くの古墳が展開する台地がある（第1図）。本横穴群は現在、埋め戻され看板が立っているのみであるが同じ崖面西側に横穴の残欠1基を見ることができる。

#### 縄文時代

本市では旧石器時代の遺跡は発見されていない。御手洗遺跡は、縄文時代後期「御手洗式土器」の標式遺跡である。二子山石器製作遺跡（国指定史跡）では、玄武岩質安山岩を母岩として打製石器を製作した痕跡が良好に遺存する。これまでには、金峰山系の安山岩と考えられてきたが、西原村の権現原に分布する高マグネシア安山岩（HMA）と極めて類似した特徴をもつことが指摘されている。須屋城跡発掘調査では、曾畠式土器に先行する野口式と考えられる土器群が出土している。

#### 弥生時代

平成元年から3年にかけて行なわれた生坪地区農業基盤整備事業に伴う発掘調査では、弥生時代後期の竪穴建物が複数の遺跡において確認された。各遺跡の軒数は、石立遺跡4軒、八反田遺跡15軒、八反畑遺跡5軒、八反原遺跡53軒である。八反原遺跡の竪穴建物からは、内行花文鏡が出土している。須屋付近でも弥生時代の集落が確認されており、宿の山遺跡では竪穴建物が検出され、また、宿の山遺跡、梨ノ木遺跡からは中期の甕棺が出土している。

塩浸川下流域の高木原台地には、3重の円弧を描く溝が検出された石立遺跡や、全長約70mの溝が検出された八反畑遺跡などがあり、環濠集落の可能性が考えられている。

#### 古墳時代

合志川流域には多くの古墳が存在している。八反田遺跡、八反畑遺跡、石立遺跡、迫原遺跡、八反原遺跡が本市で調査され、昭和63年に上生上ノ原遺跡が県文化課によって発掘調査された。

八反原遺跡は、方形周溝墓10基、円墳19基が検出されている。4世紀後半～末頃の方形周溝墓から5世紀前半以降の円墳へ推移する。八反原遺跡2・3号墳や上生上ノ原遺跡では、九州でも初期の馬具（轡）が出土した。<sup>註1)</sup>また、上生上ノ原遺跡では三角板鋲留短甲が出土している。八反原遺跡の6基の周溝からは、殉葬馬の可能性が高い馬骨が馬具とともに出土した。以上のように、黒松古墳群や生坪古墳のある合志川中流域左岸の台地周辺には、朝鮮半島の渡来文化が認められ、中央政権との強い結び付きを示している。<sup>註2)</sup>沖田遺跡では上生上ノ原遺跡と同様、古墳時代前期の竪穴建物が3軒検出された。

山本郡の分立した合志郡の範囲（合志・西合志・泗水・旭志・菊陽・大津町）には、前方後円墳が分布しておらず、この地域の特色が挙げられる。

## 古代

貞觀元（859）年合志郡から山本郡が分立し肥後国は14郡になる（『日本三代実録』卷2）。『和名類聚抄』によれば合志郡は合志郷、小川郷、山道郷、鳥嶋郷、口益郷、鳥取郷の6郷からなり比定地は諸説あり定まっていない。郡衙の推定地は小合志、高木原・千束遺跡、上鶴頭遺跡、住吉日吉神社が挙げられるが不明な点が多い。八反田遺跡、八反畠遺跡、八反原遺跡、迫原遺跡の発掘調査では、合計163軒の豊穴建物が確認されている。出土遺物は、墨書き土器や刻書き土器をはじめその他の遺物の年代から7世紀後半から9世紀前半に及ぶ。

千束遺跡では発掘調査の結果、方形に巡る溝、掘立柱建物、臓骨器、円面硯、輸入陶磁器が出土している。

熊本県教育委員会による出口遺跡、揚土遺跡、峠遺跡の発掘調査において墨書き土器が多数出土している。八反田A・B遺跡、八反畠遺跡、迫原遺跡、八反原遺跡においても墨書き土器が認められ、7世紀後半～9世紀後半の遺物が出土しており、8世紀後半～9世紀前半の遺物が主体である。<sup>註3)</sup>

## 中世

古代の律令体制は10世紀初頭には崩壊し、国司が徵税請負人となり地方政治を一任された。国司は郡司や有力農民に租税を請け負わせる方式を採った結果、次第に成長した開発領主は国司と対立を深め中央の貴族や社寺に土地を寄進することで領地の支配権を確立していく。この地域に関して「天満宮託宣記」に正暦3（992）年「合志荘」が大宰府安樂寺領となるとある。また、「東大寺諸荘園文書目録」に久安4（1142）年、觀世音寺に関係する荘園である「竹迫別符」をみることができる。

竹迫氏は12世紀末に合志郡地頭職として中原親能の四男中原師員が下向すると「肥後国誌」にある。また、竹迫氏は豊後の大友、肥後の鹿子木、三池氏と同族関係として家系図にある。さらに「妙正寺文書」では、貞和年間の14世紀半ばに鹿子木貞基から種継に代わり、竹迫を名乗るともあり、定説をみない。

合志氏は菊池系合志、中原系合志、佐々木系合志の3系統に別れるようであるが系譜を追える史料は確認できない。

合志郡半郡の地頭職となった佐々木系合志は南北朝時代に北朝方として菊池氏と対峙し、武勇の優れた合志幸隆は大友氏とともに菊池城を攻め一時、陥落させる。天正13（1585）年合志氏は島津氏に降伏し、高重は薩摩羽月で殺害され、親為は幽閉後帰路の途中八代郡大野で死去したとされる。天正15（1587）年豊臣秀吉の九州平定が行われる。

須屋氏については、南北朝期の興国3（1342）年、菊池氏の武士起請文に須屋刑部という名がみられ、菊池氏の支配下にあったことがわかる。16世紀に合志氏が竹迫城跡に拠点を移し、家臣の財産を整理したと考えられる厳照寺文書「社寺方并侍中坪付写」には、須屋新九郎という人物がみられることから合志氏の家臣であったことが窺える。

平成17年合志小学校新築事業に伴う陣ノ内遺跡発掘調査では、14世紀～16世紀の複数の堀が検出され、館跡の区画が存在したことが判明した。報告書では、文献調査なども合わせ竹迫氏の館跡から合志氏の菩提寺である清寿院跡に変る遺跡との位置付けを行っている。また、文献調査において竹迫城絵図の描かれた背景なども判明した。中世において稻作に適さない台地の生業に関して、大山氏は、肥後の大宰府天満宮の「御燈油料所」を旧合志郡内の「富納」、「片俣」にあったことを確認し、荏胡麻の栽培を背景とした油の生産が合志氏の経済力を支える一部であったことを指摘している。<sup>註4)</sup>

須屋城跡では、発掘調査の結果、現存していたL字状の土塁の外側に幅約3m、深さ約2mの堀が南北方向に56m、また、東西に並行する長さ90mの2条の堀が確認された。これらの堀は、城域をT字状に区画する。土塁の出土遺物からは、14世紀～15世紀頃に築造された可能性が高い。<sup>註5)</sup>

## 註

註1) 桃崎 祐輔 2007「馬具からみた中期古墳の編年」『九州島における中期古墳の再検討』九州前方後円墳研究会

註2) 杉井 健 2010「肥後地域における首長墓系譜変動の画期と古墳時代」『九州における首長墓系譜の再検討』九州前方後円墳研究会

註3) 浦田 信智 1995「第7章 山本郡の独立」『西合志町史』

註4) 大山智美 2008「戦国期国衆の存在形態—肥後国合志氏を素材として—」熊本史学第89・90・91合併号

註5) 浦田 信智 2013「須屋城跡」合志市文化財調査報告書 第2集



第1図 合志市遺跡地図

第1表 合志市遺跡一覧表

番号	県遺跡番号	名 称	時代	種別	所在地	備考
1	405-001	中林古墳	古墳	古墳	栄・中林	円墳2基、うち1基は勢将塚と呼ばれている。
2	405-002	中林遺跡	縄文	包蔵地	栄・中林	御領式土器
3	405-003	中林西原	弥生	包蔵地	栄・西原	東遺跡 県調査平成3年、円面鏡出土
4	405-004	後川辺原	古墳	包蔵地	栄・後川辺	権現原、南原、西原遺跡、県調査 昭和63年、野辺田式土器
5	405-005	ヤボシ塚古墳	古墳	古墳	栄・村園	円墳
6	405-006	千束城跡	中世	城	栄・城山	
7	405-007	千絆塚遺跡	弥生・他	包蔵地	上庄・千絆塚	県調査、昭和61年
8	405-008	野付遺跡	縄文・他	包蔵地	福原・野付	押型文、黒髮式遺物
9	405-009	医翁寺跡	中世	寺社	竹迫・屋敷	古塔、一字・石経塔
10	405-010	陣の内遺跡	弥生・他	集落	幾久富・陣の内	豪族、環濠集落
11	405-011	宮の前遺跡	弥生	包蔵地	上庄・宮の前	須玖式・黒髮式土器・土師器
12	405-012	小園遺跡	縄文～弥生	包蔵地	豊岡・小園	御領式土器・石器・弥生土器
13	405-013	竹迫城跡	中世	城	上庄・城山	中世城
14	405-014	木瀬遺跡	弥生	包蔵地	上庄・木瀬	堅穴式住居跡、S字文鏡、垂弧文式土器・石包丁
15	405-015	虚空巖横穴	古墳	古墳	上庄・東谷	近世の岩窟?
16	405-016	御手洗遺跡	縄文・他	包蔵地	幾久富・乙丸	縄文後期・御手洗式土器・土師器
17	405-017	原口新城跡	中世	城	豊岡・宮の本	県調査
18	405-018	桑鶴遺跡	縄文～弥生	包蔵地	福原・出分	昭和50年圃場整備、盛土で残す
19	405-019	八久保遺跡	縄文	包蔵地	竹迫・八久保	阿高式・御領式
20	405-020	竹迫宇津遺跡	縄文	包蔵地	竹迫・宇津	県調査、三万田式、弥生中期
21	405-021	群山遺跡	古代・中世	包蔵地	豊岡・群山	骨器
22	405-022	飯高山遺跡	弥生	包蔵地	福原・飯高	
23	405-023	御領遺跡	縄文・他	包蔵地	竹迫・福原	土偶・御領式土器・豪族よりゴホウラ製貝輪
24	405-024	轟遺跡	弥生	包蔵地	竹迫・福原	押型文、黒髮式土器
25	405-025	豊岡宮本横穴群	古墳	古墳	豊岡・宮本	12基、平成16年調査
26	405-026	国泰寺跡	中世	寺社	上庄	
27	407-001	上生遺跡	弥生	埋葬	上生・北野	
28	407-002	城遺跡	古墳	包蔵地	上生・城敷	野辺田式土器・『日本書記』誌石の本塙
29	407-003	沖田遺跡	縄文・他	包蔵地	野々島・沖田	丸木船・御領式・野辺田式・土師器・石器
30	407-004	黒松原遺跡	縄文	集落	合生・黒松	表面に土器細片散布・石斧出土
31	407-005	黒松萩の浦遺跡	弥生	包蔵地	合生・萩の浦	
32	407-006	北野靈翁精道跡	弥生	埋葬	上生・北野	
33	407-007	聖寿寺跡	中世	寺社	上生・城	
34	407-008	上原遺跡	縄文～奈良	包蔵地	上生・上原	
35	407-009	城塚遺跡	縄文～古代	包蔵地	上生・城敷	
36	407-010	精霊城跡	中世	城	上生・城敷	
37	407-011	城敷古墳	古墳	古墳	上生・城敷	
38	407-012	アダメ遺跡	縄文～古代	包蔵地	野々島・前畑	
39	407-013	延壽寺遺跡	縄文～古代	包蔵地	野々島・古閑	
40	407-014	巡烟遺跡	縄文～古代	包蔵地	野々島・巡烟	
41	407-015	永田支石墓	弥生	埋葬	野々島・永田	支石墓
42	407-016	永田石棺	古墳	埋葬	野々島・永田	
43	407-017	瀬吐古墳	古墳	古墳	野々島・瀬吐	
44	407-018	塙家櫻古墳	古墳	埋葬	上生・塙家	
45	407-019	笹家遺跡	弥生・古墳	包蔵地	上生・笹家	市指定 笹塙古墳
46	407-020	永田遺跡	弥生・古墳	包蔵地	野々島・永田	
47	407-021	向原遺跡	弥生・古代	包蔵地	上生・向原	
48	407-022	アソード遺跡	弥生	包蔵地	上生・池尻	
49	407-023	岡原遺跡	縄文～古代	包蔵地	合生・岡原	
50	407-024	古闘原遺跡	弥生・古墳	包蔵地	野々島・古闘原	
51	407-025	城塚群	弥生	埋葬	上生・城	
52	407-026	中尾遺跡	縄文～古墳	包蔵地	野々島・中尾原	縄文・弥生・古墳期土器片
53	407-027	黒松古墳群	古墳	古墳	合生・萩の追	
54	407-028	生坪古墳群	古墳	古墳	合生・生坪	市指定 生坪塙山古墳
55	407-029	八反田遺跡	弥生	埋葬	合生・八反田	旧西合志町調査、豪族・壺・鉢・石斧
56	407-030	立割横穴群	古墳	古墳	合生・立割	横穴数基から成る
57	407-031	小合志古墳	古墳	古墳	合生・小合志	円墳・巨石横穴石室消滅、副葬品多数
58	407-032	弘生原遺跡	弥生・古墳	城	合生・弘生	弥生・野辺田式・土師器・須恵器土器
59	407-033	迫原ハママ古墳	古墳	古墳	合生・迫原	円墳・箱式石棺・鐵鍛・文字ある土師器
60	407-034	江良遺跡	古墳	集落	合生・江良	野辺田式・土師器・須恵器片多数出土
61	407-035	迫原長塚古墳	古墳	古墳	合生・迫原	箱式石棺
62	407-036	高木原遺跡	縄文～奈良	包蔵地	合生・高木	縄文後期・奈良時代・出土品大量
63	407-037	合志都家跡推定地	古代	包蔵地	合生・玉蓮寺	
64	407-038	玉蓮寺跡	中世	寺社	合生・玉蓮寺	
65	407-039	弘生城跡	中世	城	合生・弘生	
66	407-040	塚口横穴群	古墳	古墳	合生・塚口	
67	407-041	八反原遺跡	弥生・古墳	集落	合生・弘生	旧西合志町
68	407-042	野々島遺跡	弥生・他	包蔵地	野々島・北	煙火、弥生・野辺田式土器・土師器
69	407-043	八反畠遺跡	縄文～弥生	包蔵地	野々島・八反畠	旧西合志町調査、縄文～弥生土器・中央小校庭
70	407-044	ガヨ塚古墳	古墳	古墳	野々島・天神免	円墳
71	407-045	枇杷田遺跡	縄文	包蔵地	野々島・中原	縄文早期
72	407-046	西合志中学校敷地遺跡	縄文・古墳	包蔵地	野々島・中原	野辺田式・土器・古式勾玉・野辺田式・須恵器
73	407-047	野々島・星跡	中世	包蔵地	野々島・八通丸	
74	407-048	花園遺跡	縄文～古代	包蔵地	野々島・花園屋敷	
75	407-049	野田原遺跡	弥生・古墳	包蔵地	野々島・芝原	
76	407-050	駄朝塚遺跡	古代	包蔵地	野々島・駄朝塚	
77	407-051	弁天山蜜座遺跡	古代	祭祀	野々島・野々島	
78	407-052	愛樂寺跡	中世	寺社	野々島・外園	
79	407-053	花園土塙跡	中世	包蔵地	野々島・花園屋敷	
80	407-054	二子山土器製作遺跡	縄文	包蔵地	野々島・天神免	石器各種・原石
81	407-055	中原支石墓	弥生	埋葬	野々島・中原	
82	407-056	丸の内遺跡	縄文	包蔵地	野々島・丸内	
83	407-057	笛山遺跡	縄文	包蔵地	御代表・大池	
84	407-058	小合志原遺跡	縄文	包蔵地	合生・辻久保	
85	407-059	辻久保遺跡	縄文	包蔵地	合生・辻久保	
86	407-060	若原石棺	古墳	埋葬	野々島・若原	石棺群あり
87	407-061	中野遺跡	縄文～古代	包蔵地	野々島・中野	
88	407-062	木原遺跡A・B	縄文	包蔵地	野々島・沖野	石鐵
89	407-063	宿の山遺跡	弥生	埋葬	須屋・宿の山	弥生合口豪族・土師器片一括
90	407-064	製の木遺跡	縄文	包蔵地	須屋・製ノ木	
91	407-065	向島遺跡	縄文	包蔵地	須屋・向島	
92	407-066	須屋城跡	縄文・古墳・古代・中世	城	須屋・下屋敷	合志市調査・中世城跡
93	407-067	妙泉寺跡	中世	寺社	須屋・宿の山	骨器
94	407-068	レ・觀音古墳	古墳	古墳	合生・鬼塚	
95	407-069	巡烟遺跡	弥生・古墳	包蔵地	野々島・巡烟	
96	407-070	船入遺跡	縄文・中世	館	須屋・船入	須屋・宿の山
97	407-071	抜迫横穴群	古墳	古墳	合生・萩ノ追	旧西合志町調査
98	407-072	豆ノ房遺跡群	縄文	包蔵地	上庄・豆ヶ原	県調査 平成元年
99	407-073	上庄遺跡	古代	集落	上庄・上庄	県調査 平成元年
100	407-074	桜山遺跡	古代	包蔵地	上庄・桜山	骨器
101	407-075	岬遺跡	古代	集落	上庄・岬	県調査 平成3年
102	407-076	出口遺跡	古代	集落	上庄・出口	県調査 平成3年
103	407-077	揚土遺跡	古代	集落	上庄・揚土	県調査 平成3年
104	407-078	中野遺跡	縄文	包蔵地	上庄・中野	縄文晚期
105	407-079	天神木遺跡	古代	埋葬	豊岡・天神木	不時差見・豪族器上り火葬骨・唐式鏡出土
106	407-080	今町遺跡	中世	埋葬	幾久富・今町	旧合志町役場跡・現町営住宅付近
107	407-081	寺崎城跡	中世	城	上庄・寺崎	中世城跡の可能性
108	407-082-1	生坪塙山古墳	古墳	古墳	合生・漆崎	
109	407-083	蛇ノ尾城跡	弥生・中世	包蔵地	上庄・東谷	堅穴式住居跡・中世城の可能性
110	407-084	虚空藏さん	近世	祭祀	上庄・東谷	
111	407-085	竹迫城忽橋え跡	中世	城	上庄・竹迫	



## 第Ⅲ章 調査とその成果

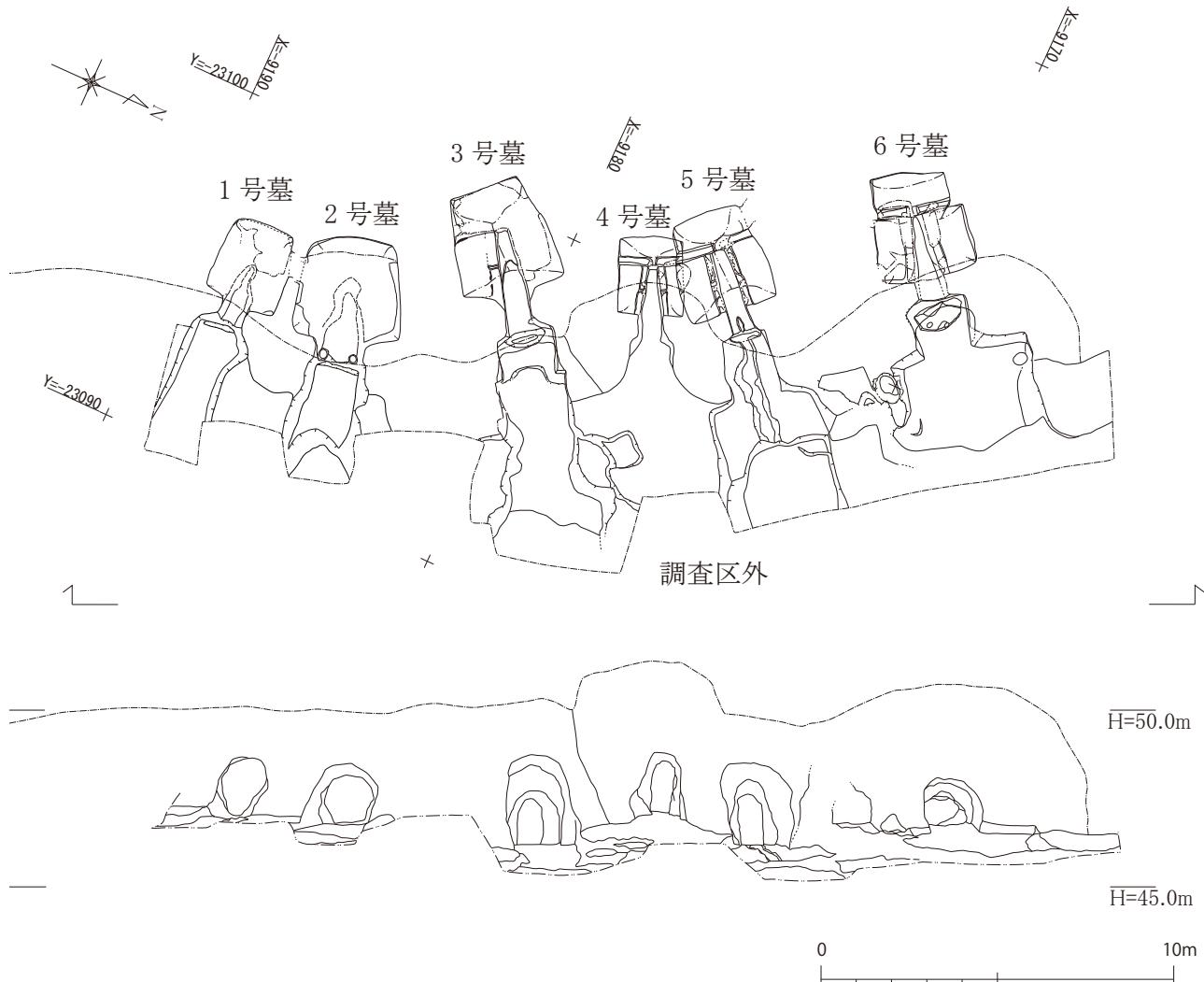
### 第1節 遺跡の概要

荻迫横穴群は、合志市大字合生に所在する。塩浸川左岸台地の斜面に位置し、周辺には黒松古墳群をはじめ塚口横穴群や立割横穴群が存在する。さらに、塩浸川対岸の台地上には、生坪塚山古墳、八反原遺跡など、多くの古墳が集中する地域である。

本横穴群は、立割地区農業基盤整備事業に伴う発掘調査が、西合志町教育委員会により平成8年2月から3月にかけて実施された。発掘調査の結果、6基の横穴が確認された。6号墓のみ閉塞石が残存していたが、開口しており、6基全て、発見時において既に開口していた。

調査の結果、6基は、開口していたものの盗掘は免れたとみられる。6基は、複数の段を形成するものではなく、ほぼ一列に並ぶ配置であった。墓室の位置にほぼ高低差はなく、開口方向は概ね北東である。

1・2・3号墓の墓室は、残存状態が不良であった。1・2号墓は戦時に防空壕として利用されていたためか側壁の穴が空き、繋がっていた。日誌に、2号墓は、昭和4年に井上氏等によって調査が行われ、その際に屍床部を掘り下げられた記載があった。3号墓は、天井部の一部に、崩落が認められ、屍床部は排水溝1条のみを残し、仕切りは残存していなかった。残存状況の悪い1・2・3号墓に対し、4・5・6号墓は比較的、残存状況が良好であった。特に、



第2図 荻迫横穴群遺構配置図 (S = 1/200)

5号墓の玄室からは赤色顔料が確認された。人骨に関しては、ほぼ確認できなかったが、6号墓の通路部から奥歯が1本出土している。墓室の構造や規模は異なり、第IV章まとめにおいて若干の検討を行った。

前庭部は、埋没していた状況にあったが、玄室内の堆積状況は、1・2号墓の屍床面に約3cmの堆積が認められ、3号墓の玄室通路は、埋没していた。また、4号墓の羨門から玄室通路にかけて埋没し、屍床面に約3cmの堆積が確認された。5号墓は、玄室内に約50cm、屍床面に約5～10cmの土砂が堆積していた。6号墓では、玄室通路がほぼ埋没し、屍床面において約3～5cmの堆積であった。

前庭部から羨道部にかけては、須恵器・土師器等の多量の土器類、馬具・刀子等の鉄製品、耳環等が出土した。3・5号墓の玄室からは、馬具や刀子等の鉄製品、土製丸玉・ガラス製小玉等の玉類、耳環等の副葬品が出土した。これらの出土状態の類型から第IV章まとめでは葬送儀礼について検討を行っている。

## 第2節 遺構の名称

当該地域における横穴の特徴である玄室方形の平面プラン・コ字形屍床配置は「肥後型」と規定され、横穴式石室の影響が指摘される。<sup>註1)</sup>

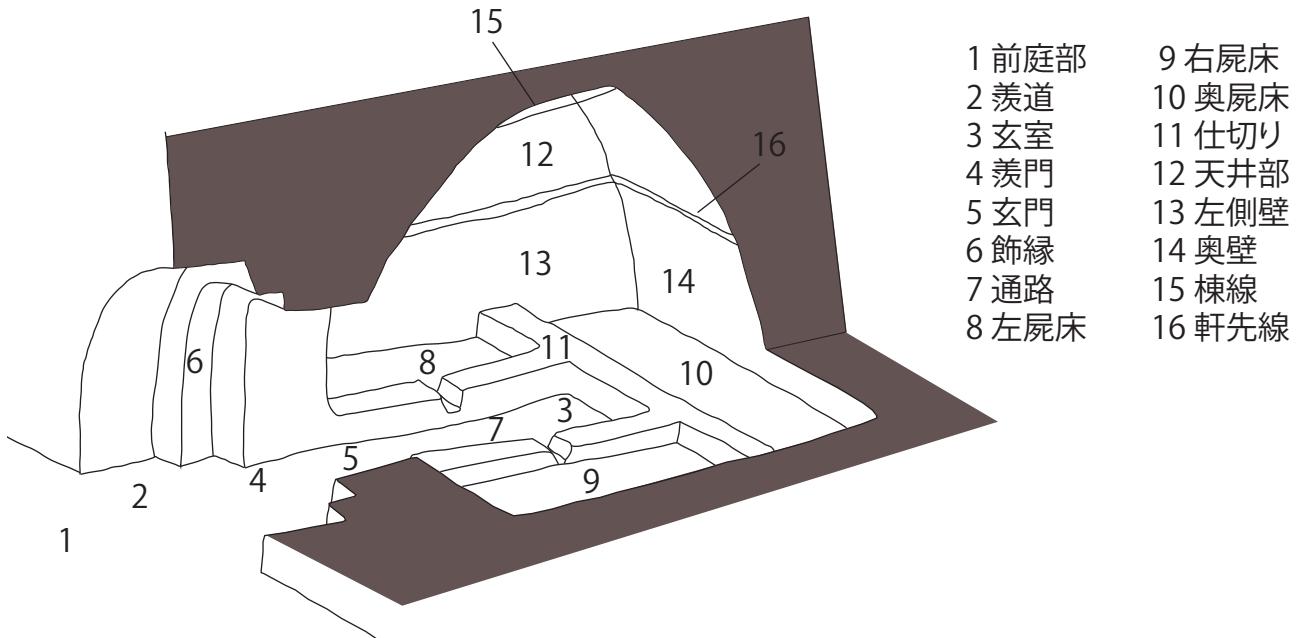
前庭部は墓の入口部前方に設けられた空間で葬送儀礼などを行ったと考えられている。

<sup>註2)</sup> この前庭部は地域によって構造が異なることから名称は定まっていない。「つつじヶ丘横穴群」報告書において当該地域の横穴は前庭部と羨門とのアーチ状の天井に覆われた空間が存在し、これを「羨門」と呼称する点が他地域と異なることから、他地域で呼ばれる「羨道」は当該地域の羨門～玄門にあたるとし「羨門～玄門通路」と呼称したいとあり、本報告書もこれに倣いたい。屍床部の名称は羨門の入口側から左右屍床と奥屍床と呼ぶ。本報告書では、利用する部分名称について第3図を参照されたい。

### 註

註1) 小田富士夫 1975 「九州の横穴墓序説」『九州考古学研究 古墳時代編』

註2) 池上悟 1984 「横穴墓」『考古学ライブラリー』



(松本健郎・西住欣一郎 1989 『北上原古墳・瀬戸口横穴群』を転載)

第3図 横穴の部分名称

### 第3節 調査の成果

#### 1号墓

##### 規模・構造（第4図）

前庭部は、残存する奥行3.10m、最大幅1.85mを測る。平面形は、右壁面が屈曲するのに対し、左壁面が直線的である。羨門は、幅1.04m、崩落により高さ不明である。羨門～玄門通路は、奥行0.51mを測り、幅は、羨門側1.06m、玄門側0.84m、高さは、羨門側約2.16m、玄門側1.74mである。羨門～玄門通路の横断面は崩落により上部が不明であるが縦長の半円形であったと推測される。閉塞石は検出されなかったが、閉塞石の掘方と推定される部分に奥行0.18m、幅0.89m、深さ0.13mの落ち込みが認められた。玄門は、幅0.86m、高さ1.50mである。羨門～玄門通路及び玄室通路は残存状況が悪いが、僅かに残る痕跡から規模を推定でき、奥行1.73m、幅0.44mである。基底面は緩やかに傾斜する。

玄室の主軸方向は、N88°Eで東に開口する。規模は奥行2.80m、幅2.64mを測り、平面形は長方形に近い形状を呈する。天井部は一部崩落し、隅線及び棟線は不明瞭であるが、四隅に残る棟線から切り妻の屋根型ではないかと推測される。残存する痕跡から、天井横断面はドーム形であったと考えられ、天井高は推定1.6mを測る。天井奥壁の縦断面は、直立に近い角度で短く立ち上がり、天井部へ緩やかに続く。左右の壁面も直立に近い角度で立ち上がる。屍床部は、残存状況が悪く、規模は不明である。

#### 2号墓

##### 規模・構造（第5図）

前庭部は、残存する奥行2.64m、幅1.86mを測る。羨門は、幅0.86m、崩落により高さ不明である。羨門～玄門通路は、奥行0.62m、幅は、羨門側1.40m、玄門側1.50m、高さは、羨門の崩落により不明で、玄門側1.32mである。羨門～玄門通路の横断面は縦長の方形である。羨門付近の玄室側において柱穴2基が両隅に認められ、閉塞石の掘方を検出した。

玄室の主軸方向は、N75°Eで北東に開口する。規模は奥行3.02m、幅2.90mを測り、平面形は台形を呈する。天井部の隅線及び棟線は不明瞭であるが、四隅に残る棟線から切り妻の屋根型に近い形状であったと推測される。天井横断面はアーチ状を呈し、天井高は1.78mを測る。天井奥壁の縦断面は、直立に近い角度で立ち上がり、天井部へ緩やかに続く。左右の壁面も直立に近い角度で立ち上がる。玄室通路は残存状況が不良で、推定される奥行1.88m、幅1.02mで奥屍床へ向かい窄まる。通路基底面は、比較的緩やかに傾斜する。屍床部は、残存状況が悪く、規模は不明である。

#### 3号墓

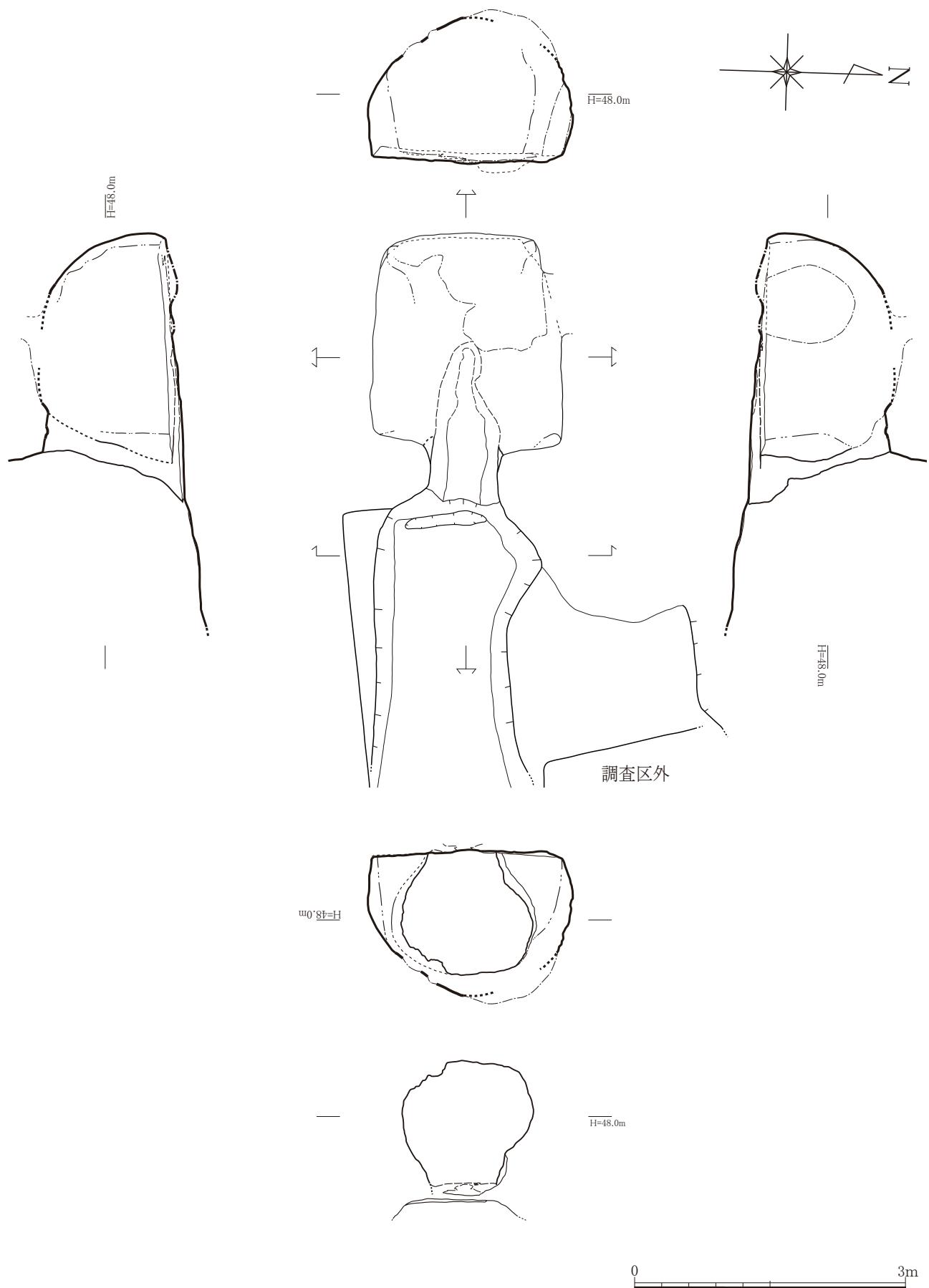
##### 規模・構造（第6図）

前庭部は台形を呈し、手前側の右壁面下端は、羨道に向かう途中で屈曲することから幅広い空間が存在する。羨道側の左右に棚状施設を伴い、右側の施設は上下2段に平坦面が認められる。上段は奥行0.82m、幅0.70m、下段は奥行1.66m、幅0.82m、前庭部基底面からの高さは0.30～0.59mを測る。左側の棚状施設は、奥行2.48m、幅0.92～1.06m、前庭部基底面からの高さは0.28～0.50mを測る。

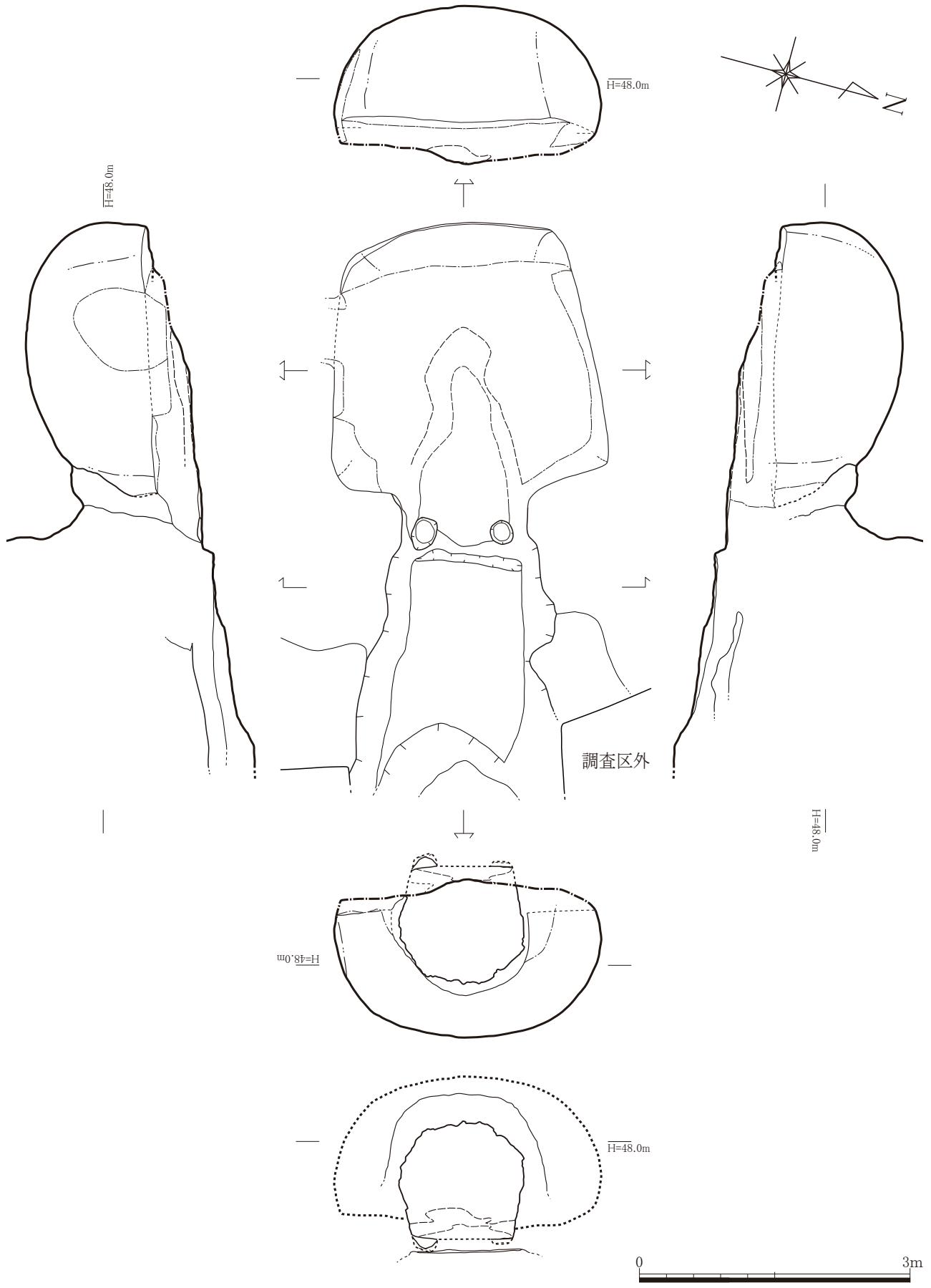
飾縁は、横断面は半楕円形である。規模は、幅約1.6～2.0m、前庭部側の高さは、2.45mを測る。羨道の奥行は2.75mである。羨門は、幅0.94m、高さは1.65mである。羨道の平面は、羨門から前庭部にかけて両壁面が途中で外側に開き、飾縁を形成する。

羨門～玄門通路の奥行きは、1.20m、高さは、1.59mを測る。羨門～玄門通路の横断面は、縦長の半円形である。閉塞石の掘方と推定される部分において奥行0.44m、幅1.19m、深さ0.04mの落ち込みが認められた。

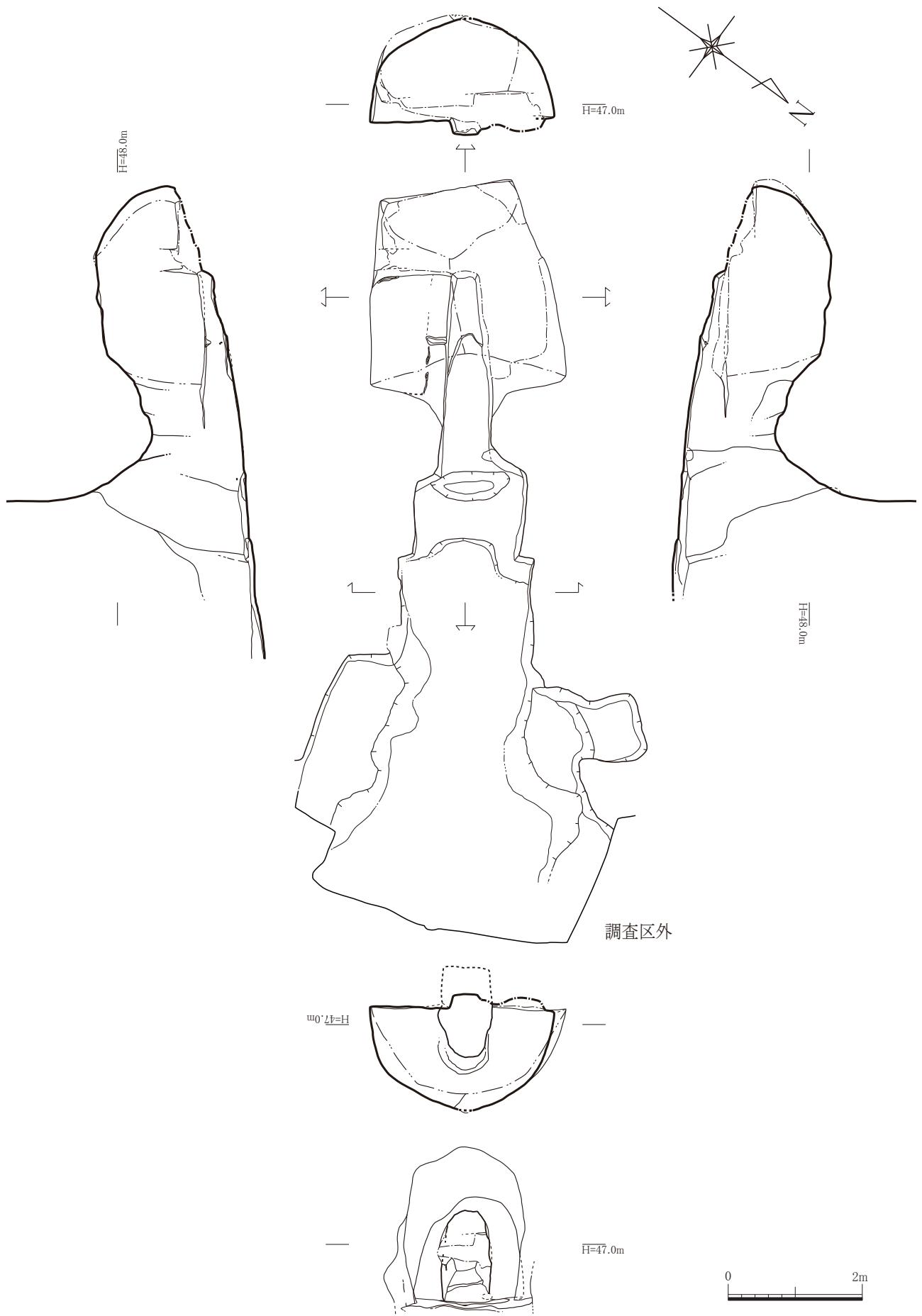
玄室の平面形は、台形状を呈し、規模は奥行3.1m、玄門側の幅2.90m、奥壁側の幅1.95mを測る。主軸方向は、N53°Eで北東に開口する。天井の形態は切妻の屋根型に近く、棟線は、玄室主軸よりややずれる。天井高は1.70～1.85mを測る。天井部の棟線及び隅線は比較的明瞭で、天井奥壁の縦断面は内傾しており、天井横断面はアーチ



第4図 1号墓 ( $S = 1/60$ )



第5図 2号墓 ( $S = 1/60$ )



第6図 3号墓 ( $S = 1/80$ )

形を呈する。

屍床部は残存状況が悪く、奥屍床の左側壁端に僅かに残存する仕切りと通路部左屍床の排水溝1条のみが残存しております。推定される左屍床の規模は、奥行1.89m、幅0.80mである。通路部は上下2段になっており、緩やかに傾斜し、通路基底面から残存する仕切り上端面までの高さは、0.22～0.46mを測る。

#### 出土状況（第7図）

前庭部右側棚状施設の上段平坦面からは、須恵器5点がまとめて出土した。器種は、壺蓋（No.150）、俵壺形の器形の土師器（No.152）、壺身（No.153）、台付小型壺（No.151・154）である。これらは、基底面から僅かに浮いた状態で出土した。完形の壺身は、内面が上を向いた正置の状態であり、その壺身直上から俵壺形の器形の土師器が横に倒れた横位の状態で出土した。半分が残存する壺蓋は、内面を下に伏せた正置の状態であった。また、完形の台付小型壺は、右に傾いた状態で出土した。

左側棚状施設からは、壺蓋（No.30・31・76）が3点、壺の口縁（No.29）が1点の計4点が出土した。これらは、基底面から約20cm浮いた状態で出土し、壺蓋3点は内面が上を向いた逆位であった。左右棚状施設の出土状況は、原位置を留めているものと考えられるが、祭祀行為のどの段階を示しているかは、判断が困難である。

前庭部基底面から約5～30cm上の位置に多くの遺物が散在する状況が認められるなか、中央部出土の壺身（No.34・91・92）、高壺（No.89）からなる一群を想定した。その他にもまとまりを抽出する作業を試みたが、推測は困難であった。遺物の器形は、壺の蓋と身が多く、蓋と身の割合はほぼ同じである。壺身（No.112・100）、壺蓋（No.115・111）の出土状況は、逆位であるのに対し、壺身（No.35・68・82・91・92・116・144）、壺蓋（No.85・93）は、正置である。逆位の遺物が出土した範囲は、手前側の幅広い右壁面に存在する空間に収まる傾向がみられた。この空間には、甕（No.130）、壺（No.127）、甕の破片とみられるNo.40、94など大形の共用器が出土した。さらに甕（No.130）が割れた状態で出土しており、破碎行為の可能性がある。高壺（No.89・136）、躰（No.123）、平瓶（No.39）の出土状況は、横位であった。

羨道下段の左壁面隅において壺身（No.54）、提瓶（No.55・57）、躰（No.56）が出土し、その状況は、再配置の可能性を示す。躰は、逆位での出土であって、前庭部の躰（No.123）と共に通する。

鉄製品の出土状況は、玄室の通路から前庭部にかけて散在する。馬具である鐙のセット関係と考えられる3セットの6点（羨門～玄門通路No.22と前庭部No.142、羨門～玄門通路No.21と前庭部No.97、羨道部No.52と前庭部No.120）は、離れた位置から出土しており、散在する状況を示している。また、羨門に位置する閉塞石の掘方から鉄製品（No.24～26）が出土した。古代から中世の遺物として土師器の皿、壺、高台付壺（No.8・9）が出土しており、追善供養が行われていたことが考えられる。

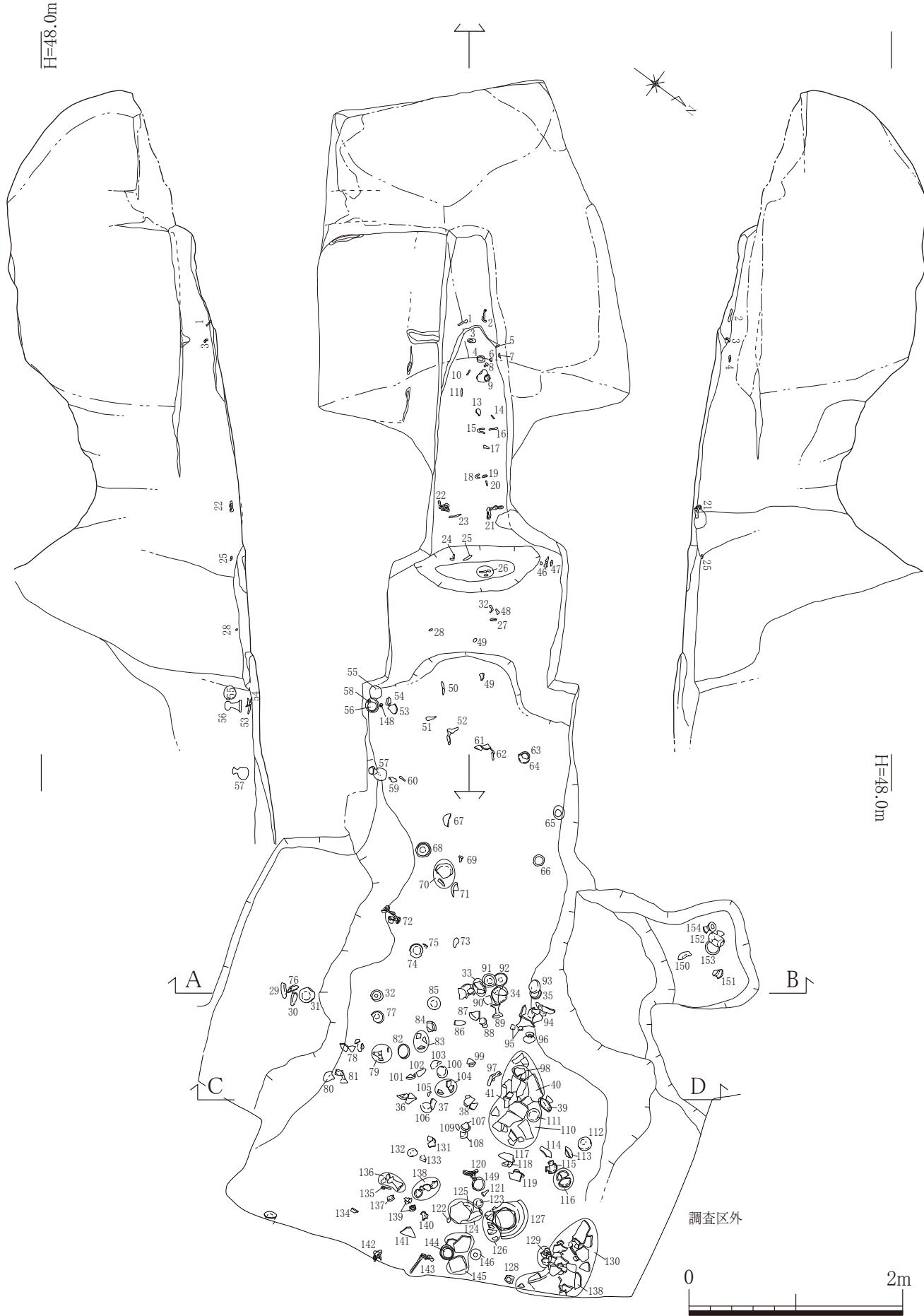
接合関係について離れた位置関係にあるのは、躰（No.123・79）、壺身（No.61・71）、躰の口縁～頸部（No.36・通路）、壺蓋（3号墓一括・6号墓一括）、壺身（3号墓一括・4号墓一括）が挙げられる。次に近距離の位置関係は、壺身（No.83・101）、壺身（No.104・108）、壺蓋（No.85・130）、壺蓋（No.131・132）、壺身（No.137・139）、壺蓋（No.86・87）、提瓶（No.88・95）などであった。

#### 4号墓

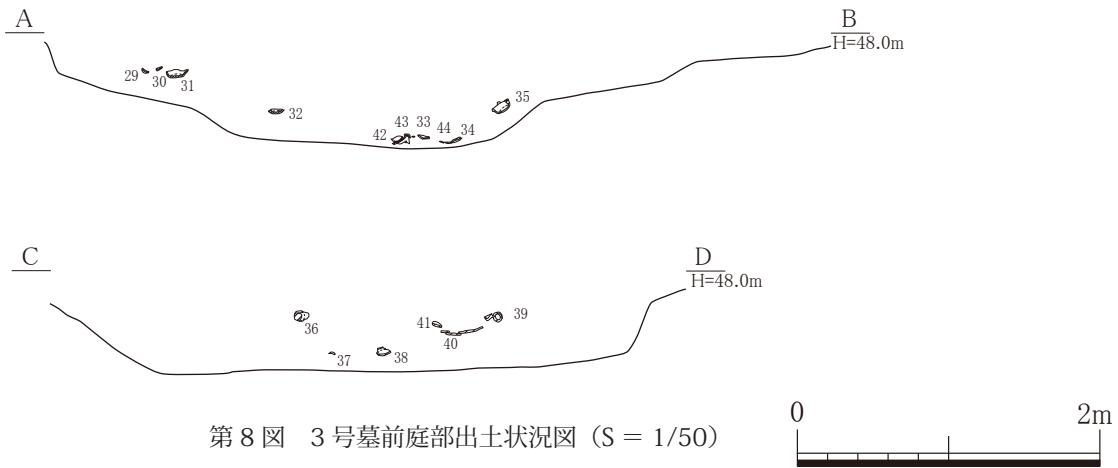
##### 規模・構造（第9図）

前庭部の規模は、奥行約1.6m、幅1.25mを測る。羨門～玄門通路は、奥行約0.6m、幅0.70mを測る。羨門は、幅0.80m、高さは、天井の崩落により不明である。羨門の横断面は縦長の円形である。閉塞石の掘方は検出されなかった。玄門は、幅0.70m、高さ1.45mである。基底面は、玄門付近を境に傾斜が急になり下がる。

玄室の主軸方向は、N66°Eで北東に開口する。平面は長方形を呈し、規模は奥行2.22m、幅1.82mを測り、本横穴群において小規模である。天井部の崩落により隅線及び棟線は不明瞭であるが、四隅に残る棟線から切り妻の屋根型に近い形状であったと推測される。天井横断面はアーチ形を呈し、天井高は1.46mを測る。天井奥壁の縦断面は、やや内傾し短く立ち上がり、天井部へ緩やかに続く。左右の壁面も直立に近い角度で立ち上がり、一部が崩落する。通路部は幅約0.3～0.7mと狭く、奥行1.28mを測り、奥屍床の方向へ窄まる。通路基底面から奥屍床仕切り上端



第7図 3号墓出土状況図 (S = 1/50)



第8図 3号墓前庭部出土状況図 ( $S = 1/50$ )

部までの高さは、0.45 mである。

屍床部仕切りは、残存状況が比較的良好で、左右屍床、奥屍床に排水溝が設けられる。屍床面の高さは、奥屍床が最も高く、次いで、右屍床、左屍床の順となる。奥屍床の仕切り上端面は、両端が緩やかに上がる。右屍床奥行 1.44m、幅 0.50m、左屍床奥行 1.36 m、幅 0.66 m、奥屍床奥行 1.78m、幅 0.62 mを測る。

## 5号墓

### 規模・構造（第10図）

前庭部は僅かに台形状を呈し、奥行 3.84m、最大幅 3.48m である。前庭部から羨道にかけて排水溝が設けられ、その規模は、奥行 3.25m、最大幅 0.74m、深さ 0.02 ~ 0.07 mを測る。排水溝北東端の位置で前庭部の基底面は、段が設けられる。この下段右上に棚状施設が認められ、奥行 0.52 m、幅 0.90 m、基底面からの高さは 0.18 mを測る。

飾縁は、比較的残存状況が良く、横断面は、縦長の半円形で、幅 1.20 ~ 1.70 m、高さ 2.40m、である。羨道は、奥行き 1.86 mを測り、基底面は、ほぼ平坦である。羨門～玄門通路は、奥行 0.70m、幅は、羨門側 0.71m、玄門側 0.60m、高さは、羨門側 1.74m、玄門側 1.30m を測る。羨門～玄門通路の横断面は縦長の半円形である。

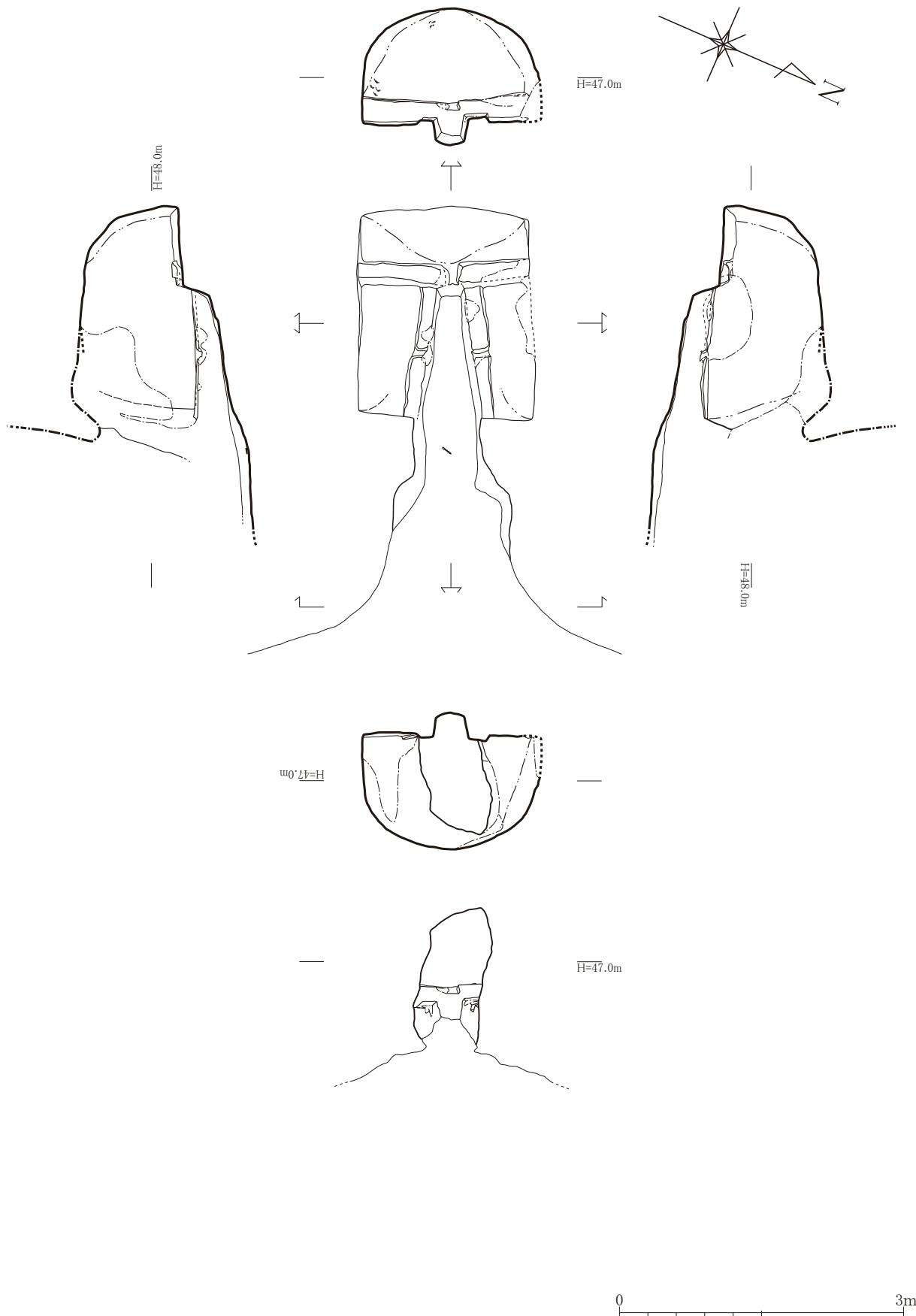
閉塞石の掘方と推定される部分に奥行 0.25m、幅 0.89m、深さ 0.16 mの落ち込みが認められた。また、閉塞石の掘方に連続して付随する玄門側の排水溝は、奥行 0.46 m、幅 0.20 m、深さ 0.08 mを測る。玄門は、最大幅 0.64m、高さ 1.29m を測る。

玄室の主軸方向は、N50° E で北東に開口する。平面は台形状を呈し、規模は奥行き 2.95m、幅 2.64m を測る。天井の形態は家形に近いが、左側天井部と右側天井奥壁に一部、崩落が認められる。棟線は、玄室主軸から左へ僅かにずれており、天井高は 1.66m を測る。天井部の棟線及び隅線は明瞭で、天井奥壁の縦断面は、緩やかに内傾しており、天井横断面はアーチ形を呈し、左右壁面は垂直に近い角度で立ち上がる。奥屍床天井部壁面及び奥屍床仕切り中央付近に一部、赤色顔料が残存していた。通路部は幅 0.35 ~ 0.53 mと狭く、通路基底面から残存する奥屍床左側仕切り上端面までの高さは、0.62m である。床面の傾斜は、玄門付近を境にして傾斜がややきつくなる。屍床部は、比較的残りは良いが、奥屍床右側及び左右屍床の仕切りの一部は、残存状況が不良である。奥屍床仕切り上端面の両端は緩やかに上がる。屍床面の高さは、奥屍床が最も高く、次いで、左屍床、右屍床という順になっており、奥屍床奥行 2.04 m、幅 0.90 m、左屍床奥行 1.79m、幅 0.90m、右屍床奥行 1.79m、幅 0.82 mを測る。

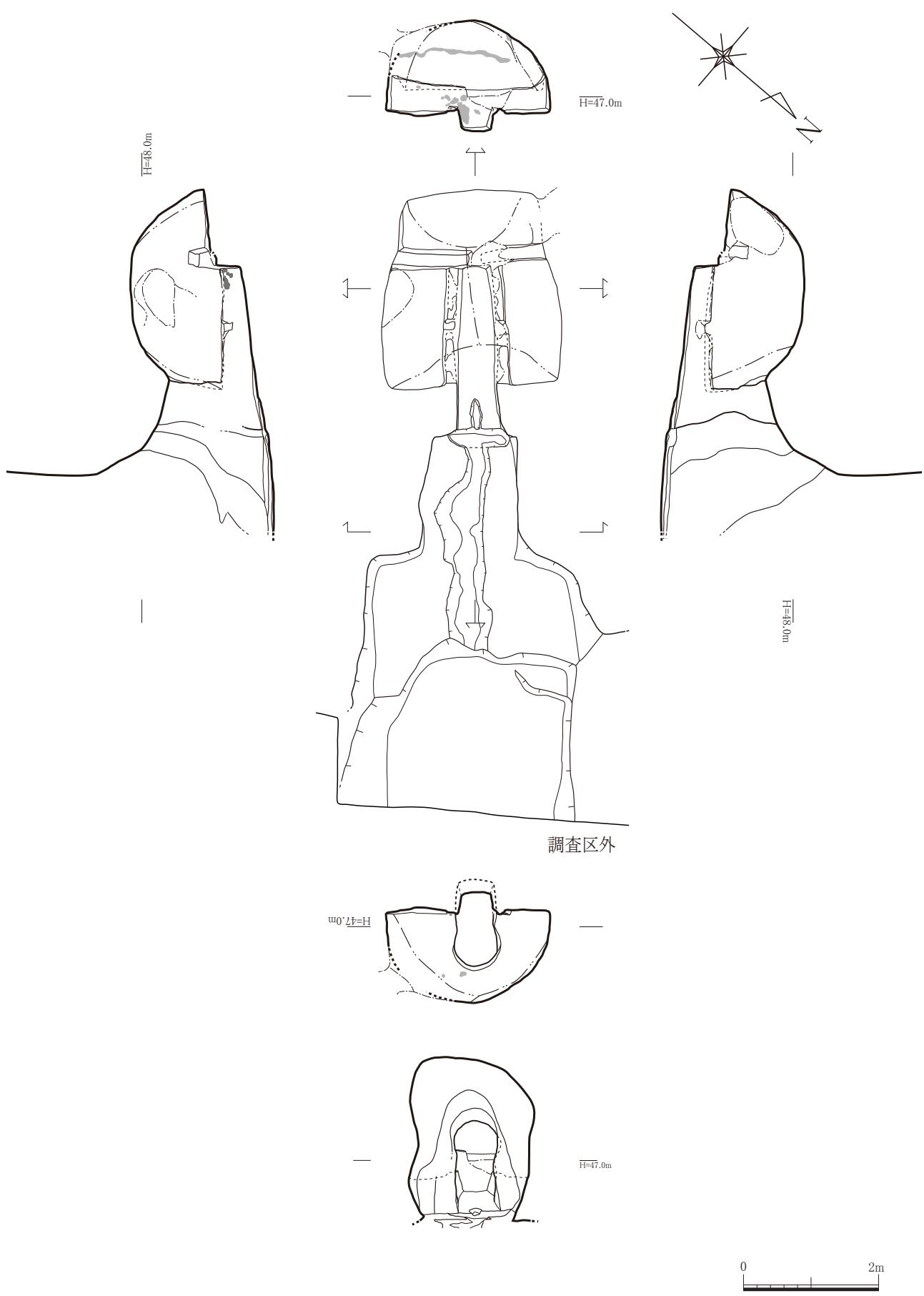
### 出土状況（第11図）

前庭部から多量の遺物が出土した。遺物は、土器 88 点、鉄製品 6 点、耳環 3 点が出土している。遺物は、前庭部左壁面側に集中する。遺物の器形は、壺身と壺蓋が最も多い。

前庭部左壁面南西側において壺身（No. 26）を中心とした一群と壺身（No. 32）を中心とした一群が認められた。前



第9図 4号墓 ( $S = 1/60$ )



第10図 5号墓 ( $S = 1/80$ )

者は、坏身 14 点、坏蓋 7 点、壺 2 点、甕 1 点、高坏 3 点があるのに対して後者は、坏身 6 点、坏蓋 4 点、壺 1 点、高坏 2 点である。この二群は、前庭部の上段に位置する。前者の一群は、断面 (A - B) において出土レベルが、左壁面より中央にかけてやや下方向に傾斜する。甕 (No. 59) の直上より出土した坏身 (土師器 No. 58) は正置さらに、坏身 (No. 57)、坏蓋 (No. 48・92) も正置であった。これらに対して、坏身 (No. 26・27) は、逆位であった。後者の一群は、下段の壁面にかけて広がるが、断面 (C - D) において遺物の出土レベルは、揃うことから下段が埋没した後にまとめて置かれたことが分かる。また、坏身 (No. 29・30・32・94・95)、坏蓋 (No. 31・33) は、重なった状態で出土しており、再配置の可能性が考えられる。これらの坏は、坏身が正置であるのに対し、坏蓋 1 点のみは、逆位の状態であった。

前庭部左壁面北東側の断面 (E - F) は、下段にあたり埋没後に置かれた状況が認められ、坏身 (No. 44) と坏蓋 (No. 43・45) が逆位であった。前庭部下段左壁面の下端からは、甕 (No. 73) 1 点と高坏 (No. 74) 3 点がまとまって出土した。前庭部の右側棚状施設付近からは、甕 (No. 96～98) 3 点が横位の状態で出土した。

玄室の右屍床からは耳環 1 点、鉄製品 19 点の計 20 点と唯一、須恵器の甕口縁部破片 (一括) 1 点が出土した。鉄製品は、長頸鎌が主で、轡の引手 2 点、素環状鏡板 1 点、刀子 1 点であった。

## 6 号墓

### 規模・構造 (第 12 図)

前庭部は、北東側の調査区外に延び、長方形を呈し外側にわずかに開く形状である。その規模は、奥行 2.90m、最大幅 4.38m である。北東側左壁面に僅かな屈曲が認められる箇所の上面には棚状施設が存在する。

飾縁は、頂部に崩落がみられるものの、比較的良好で原形を留めていた。規模は、奥行 1.83 m、幅 1.80 m、高さ 1.30 m である。横断面は、半円形である。羨道は、奥行 1.28 m、幅は前庭部側 1.68 m、羨門側 1.72 m を測る。

羨道部と前庭部の基底面は、ほぼ平坦である。羨門は、幅 0.82 m、高さ 0.80 m を測る。羨門～玄門通路は、奥行 0.50m、幅は、羨門側 0.84m、玄門側 0.85m、高さは、羨門側 0.81m、玄門側 0.90m を測る。羨門～玄門通路の横断面は縦長の半円形である。閉塞石は、前庭部側へ斜めに倒れた状態であった。閉塞石は、幅 1.36 m、高さ 0.86 m、厚さ 0.18 m で幅の広い安山岩製の板石である。閉塞石の位置する玄門付近の基底面に 0.08 m の段差があり、閉塞石の設置を目的とした段差の可能性が考えられる。

玄室の主軸方向は、N52° E で北東に開口する。平面は、奥屍床側が狭く、やや左寄りの特徴を有し、縦位に長い台形状を呈する。規模は、奥行 3.12m、幅は玄門側 2.75 m、奥壁側 2.10m を測る。天井部の崩落により隅線及び棟線は不明瞭であるが、四隅に残る棟線から切り妻の屋根型ではないかと推測される。天井横断面はアーチ形を呈し、天井高は 1.56m を測る。天井奥壁の縦断面は、直立に近い角度で短く立ち上がり、天井部へ緩やかに続く。左右の壁面も直立に近い角度で立ち上がる。天井部や壁面は、ノミの痕跡が残らない程、丁寧に仕上げているのに対し、屍床切りや、屍床面、通路には、ノミの痕跡が残存する。通路は、玄門側で 0.55 m、奥屍床側 0.28 m と狭く、奥屍床へ向かい窄まる。通路基底面から残存する奥屍床左上端面までの高さは、0.90m を測る。屍床部は、残存状況が悪いなか、奥屍床の仕切りが比較的良好に残存し、仕切り上端面の両端が緩やかに上がる。左右屍床の仕切りは、一部が残存するのみである。残存する部分から屍床部の規模が推定でき、右屍床奥行 1.82m、幅 0.86m、左屍床奥行 1.95 m、幅 0.79 m、奥屍床奥行 2.10m、幅 1.00 m である。屍床面は、奥屍床が最も高くなっている、次いで、右屍床、左屍床の順となる。

### 出土状況 (第 13 図)

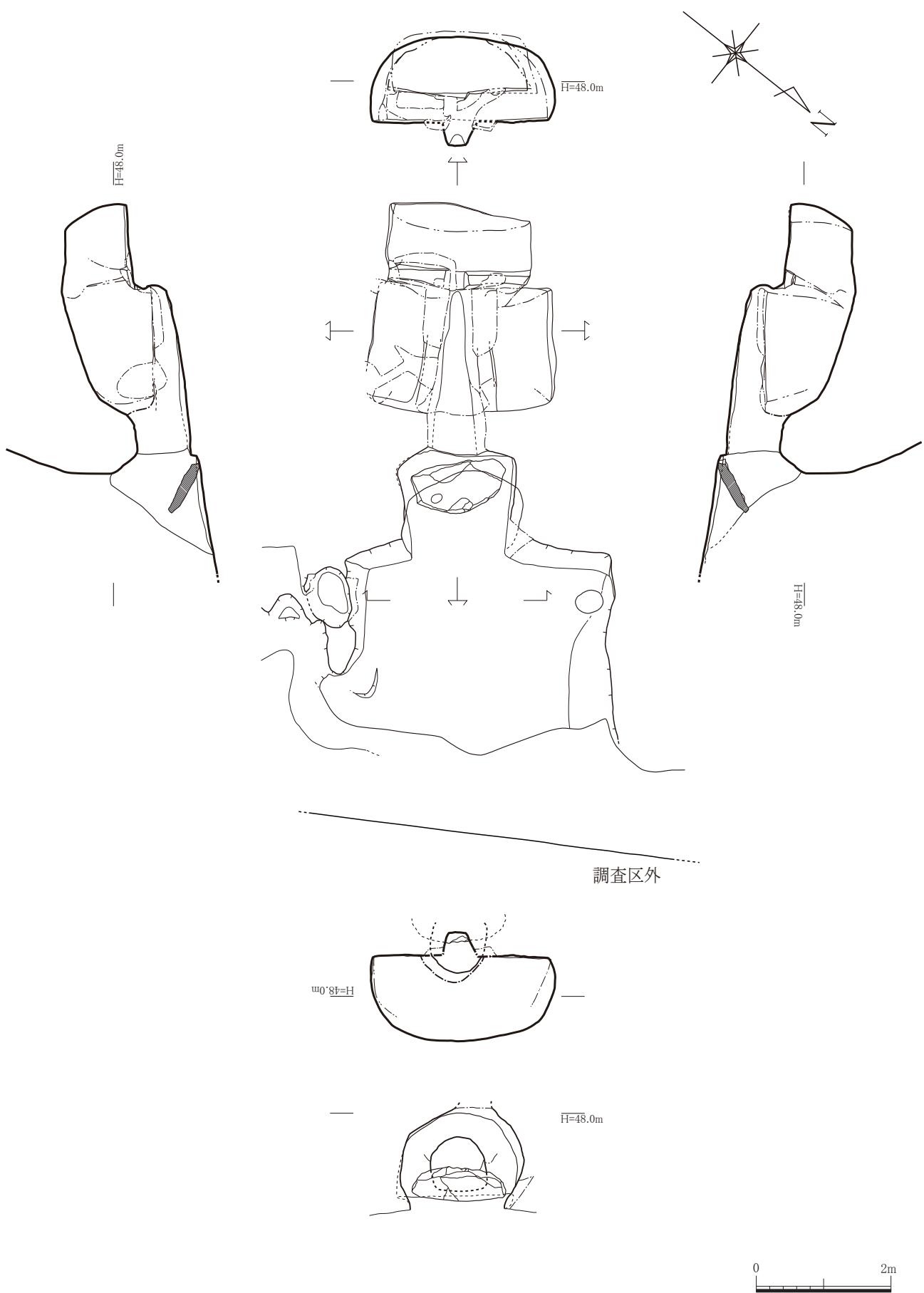
前庭部からは、土器 27 点、鉄製品 2 点が出土した。遺物は、主に前庭部右側壁面と左壁面側に集中する。遺物の器形は、高坏が 9 点と最も多い。

前庭部右壁面西側において甕 (No. 10・49)を中心とした一群、左側壁面東側付近には、甕 (No. 11)を中心とした一群、さらに左側壁面東側の一群が認められた。

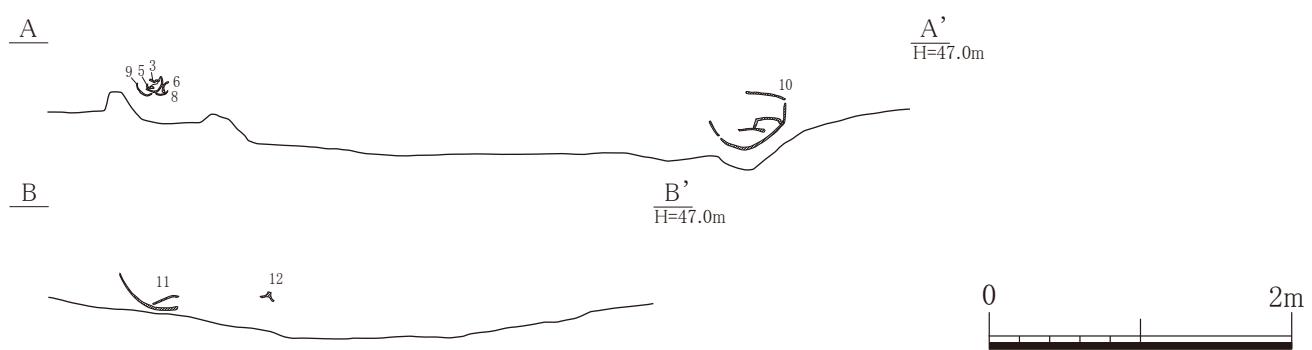
甕 (No. 10・49) 2 点を中心とした一群は、甕 2 点、高坏 2 点、壺 1 点という構成である。甕 (No. 10) は、掘り込みから破片の状態でまとめて出土した。甕 (No. 10・49) 2 点は並ぶ位置で底部が据わった状態であった。甕 (No.



第 11 図 5 号墓出土状況図 (S = 1/50)



第12図 6号墓 ( $S = 1/80$ )



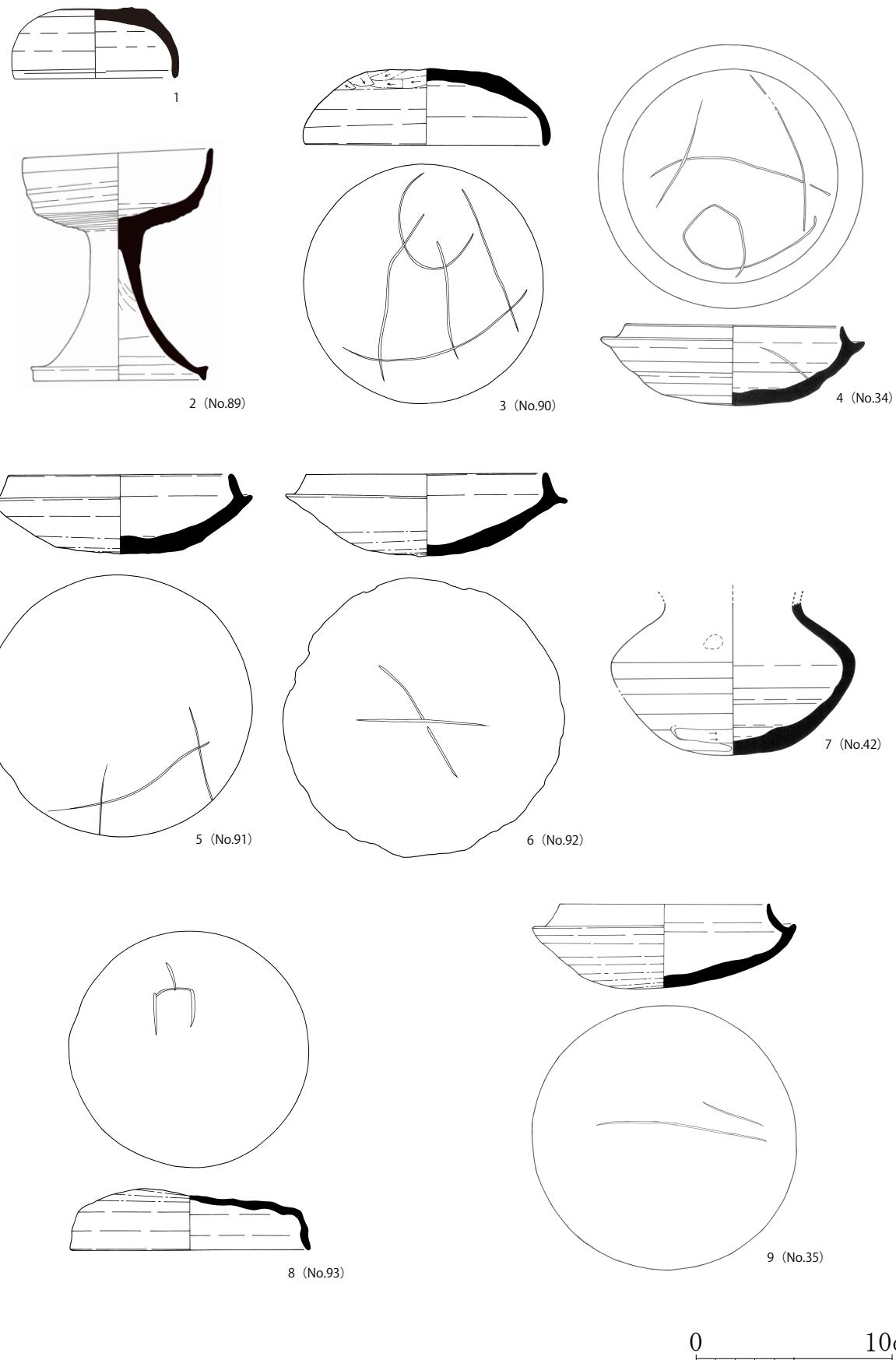
第13図 6号墓出土状況図 (S = 1/50)

49) は、掘り込みを伴う甕 (No.10) の基底と同じレベルで出土している点や写真の確認により窪みがあることから、埋納された可能性が高いことを指摘できる。壺 (No.41～43) は、破片の状態でまとめて出土していることから意図的な破碎の可能性があると思われる。高坏は、脚部のみが横位の状態で出土した。

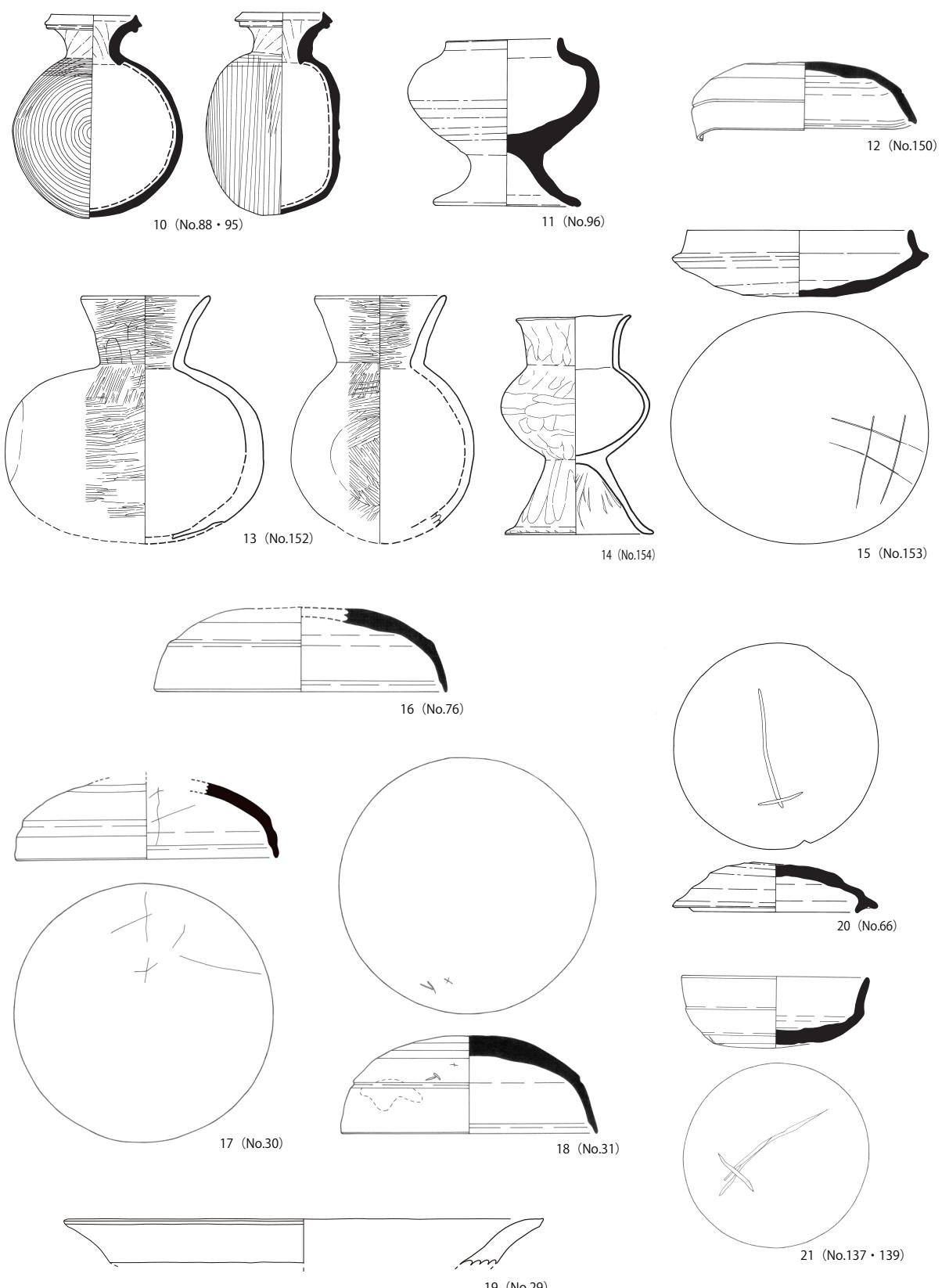
甕 (No.11)を中心とした一群は、須恵器の坏蓋 1 点、坏身 1 点、頸 1 点、土師器の壺 1 点、高坏 3 点、甕 1 点という構成である。左側壁面東側付近から出土し、遺物の出土レベルは基底から 2～20cm 浮いた位置である。壺や甕が割れた破片の状態で、まとめて出土していることや、比較的分散して出土している点から、壺 (No.41) と同様、破碎の可能性が考えられないだろうか。また、高坏は坏部のみが伏せられた逆位の状態で、頸部がない頸は横位で出土している。

前庭部左棚状施設における掘り込みの中から坏蓋 1 点、坏身 1 点、高坏 1 点が出土し、出土レベルは、基底面から 28cm 上位にある。この一群も埋納と判断される。

羨道部閉塞石近くからは、耳環 1 点、閉塞石の下からは、耳環 2 点、緑色のガラス製丸玉 1 点が出土している。通路からは、耳環 1 点、濃緑色のガラス製丸玉 1 点、ガラス製丸玉 3 点、土製小玉 36 点、奥歯 1 本、鉄片 1 点が出土している。これらは追葬時に掻き出されたものであると考えられる。右屍床からは、緑色のガラス製丸玉 1 点、土製小玉 2 点、左屍床からは、耳環 3 点、ガラス製丸玉 1 点、土製小玉 6 点、奥屍床からは、緑色のガラス製丸玉 1 点の出土が確認された。

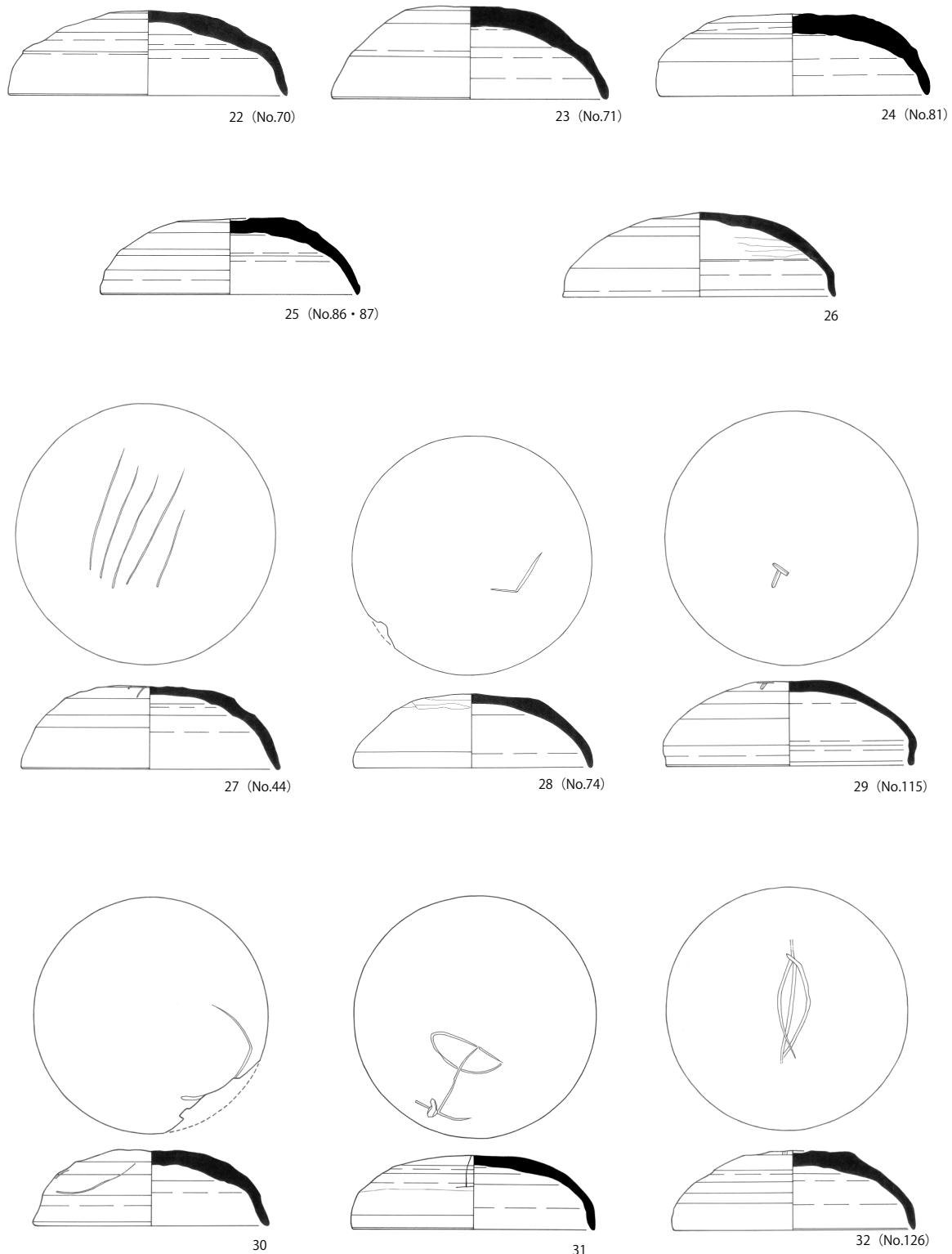


第 14 図 1・3 号墓前庭部出土遺物



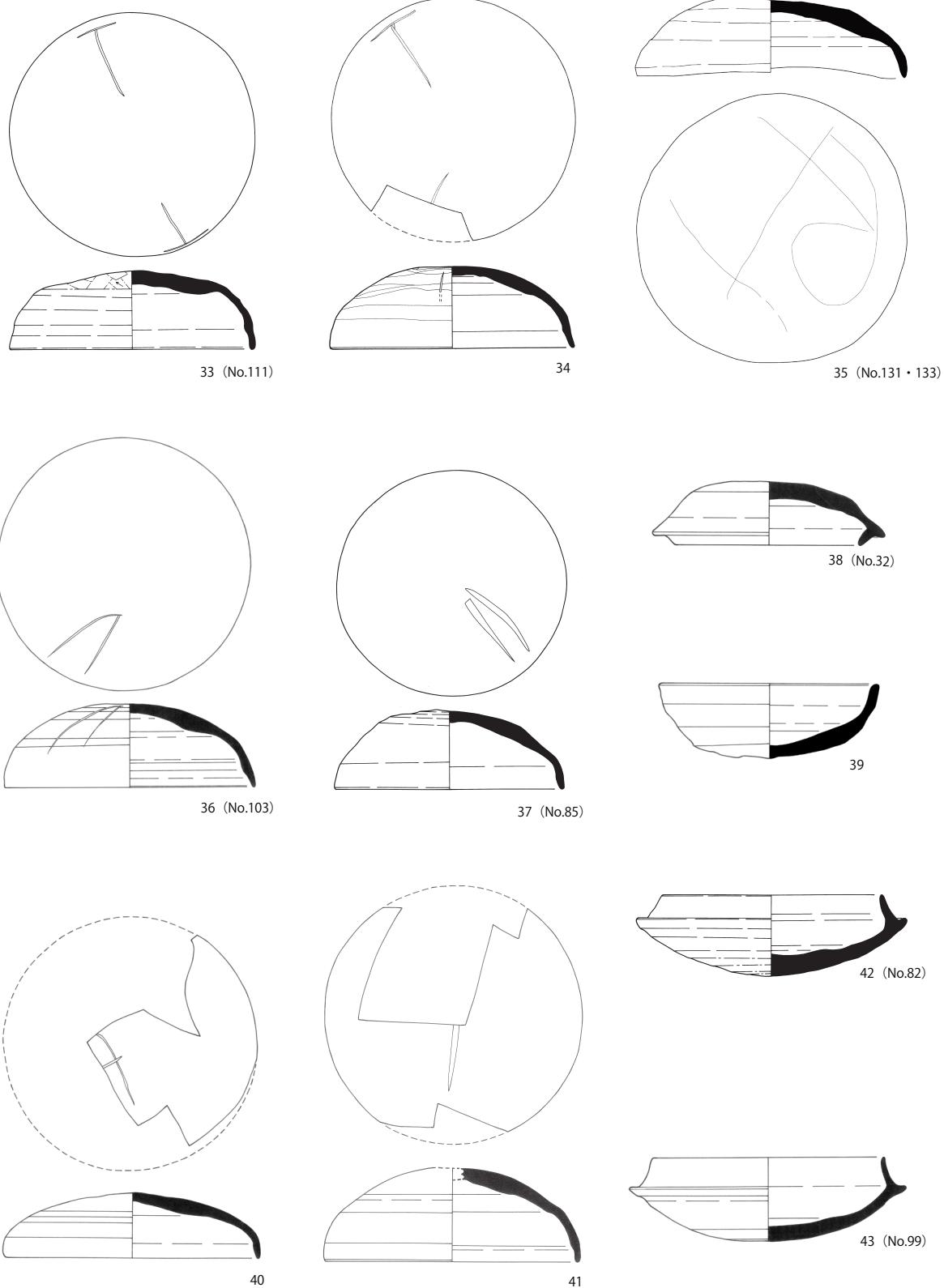
0 10cm

第15図 3号墓前庭部出土遺物



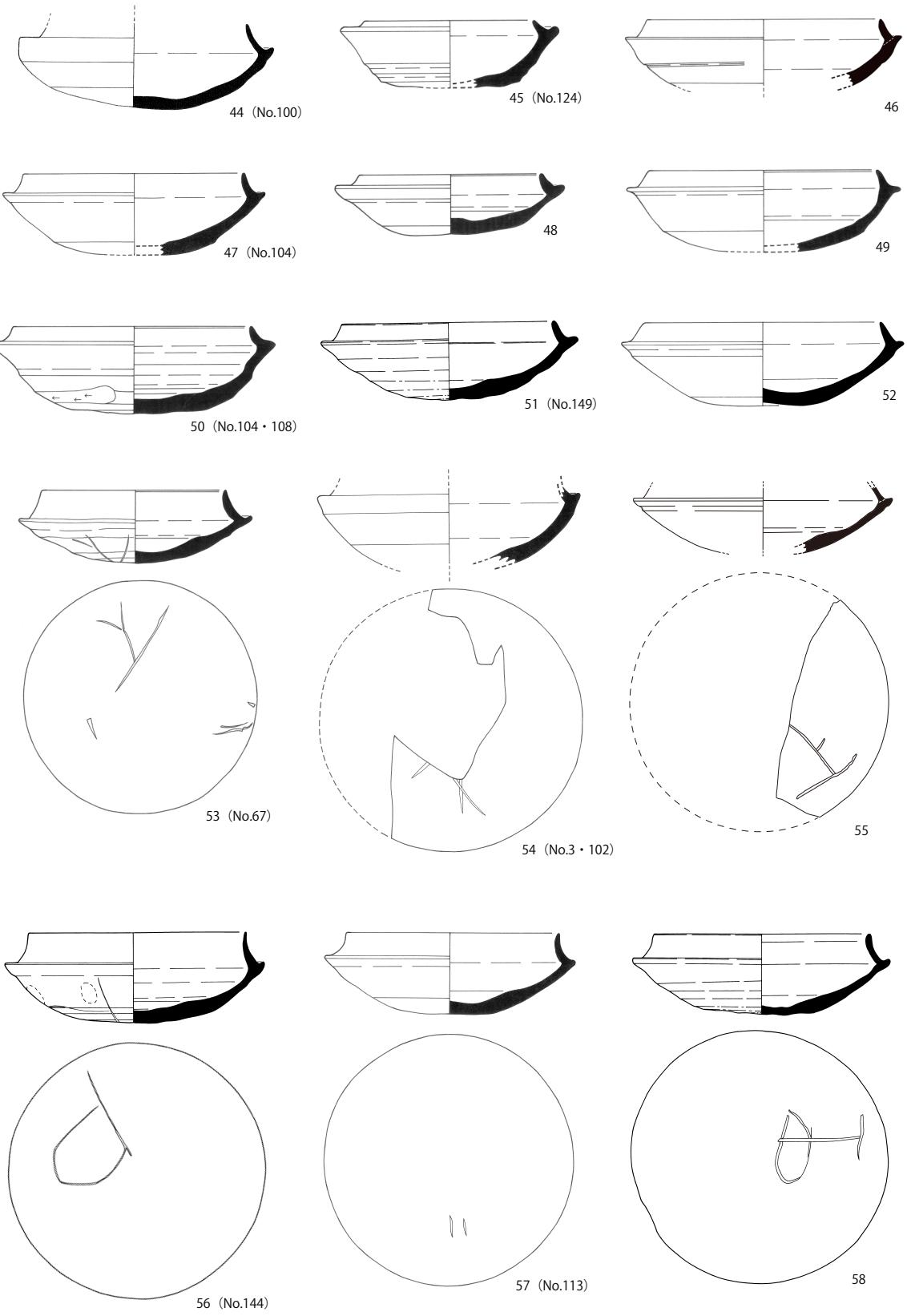
0 10cm

第16図 3号墓前庭部出土遺物



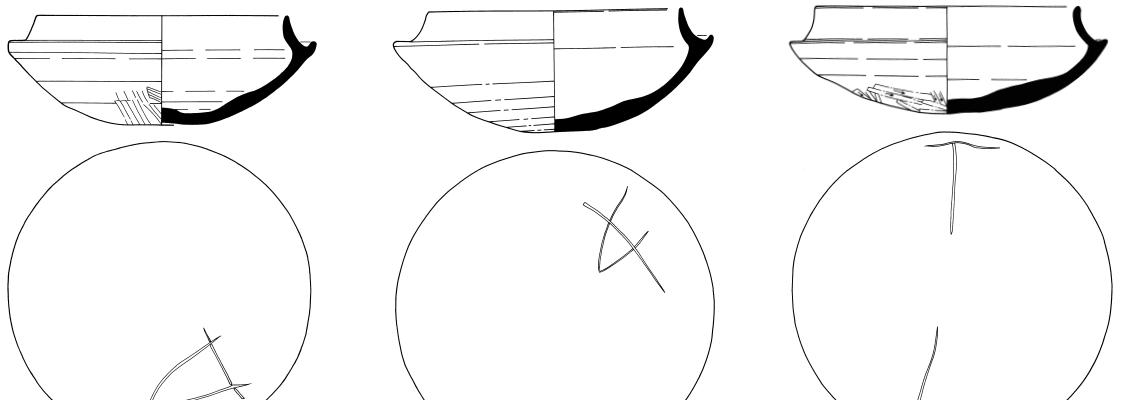
0 10cm

第17図 3号墓前庭部出土遺物



0 10cm

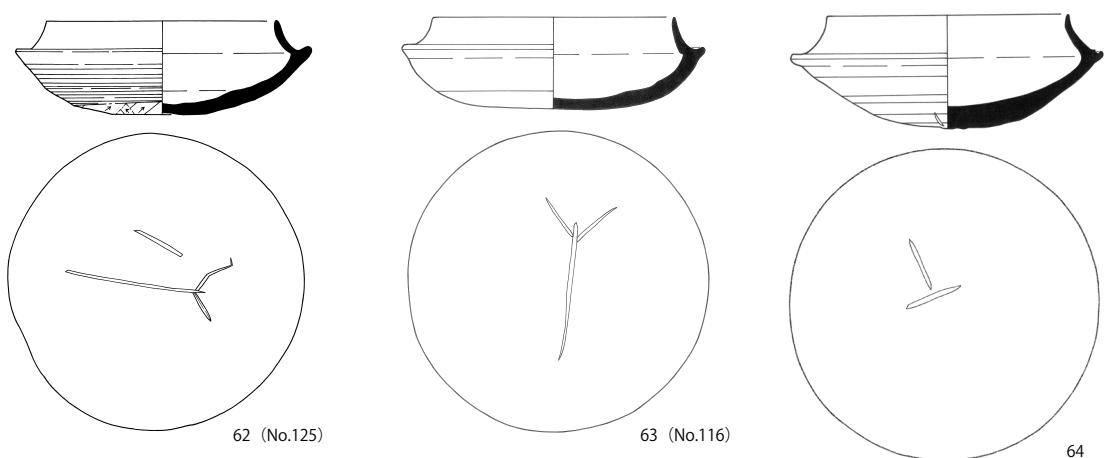
第18図 3号墓前庭部出土遺物



59 (No.83・101)

60 (No.106)

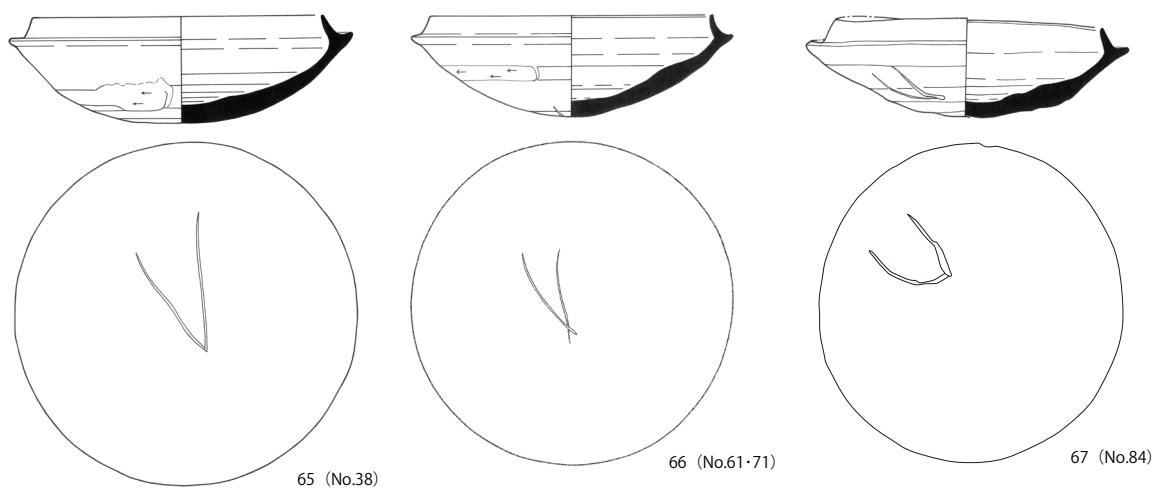
61 (No.112)



62 (No.125)

63 (No.116)

64



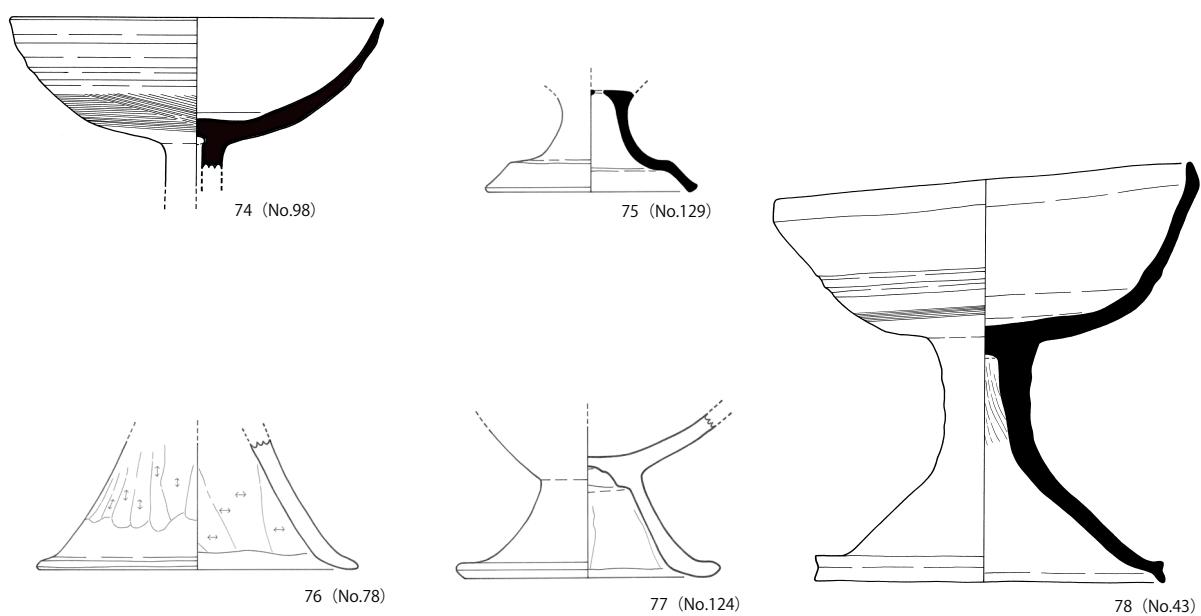
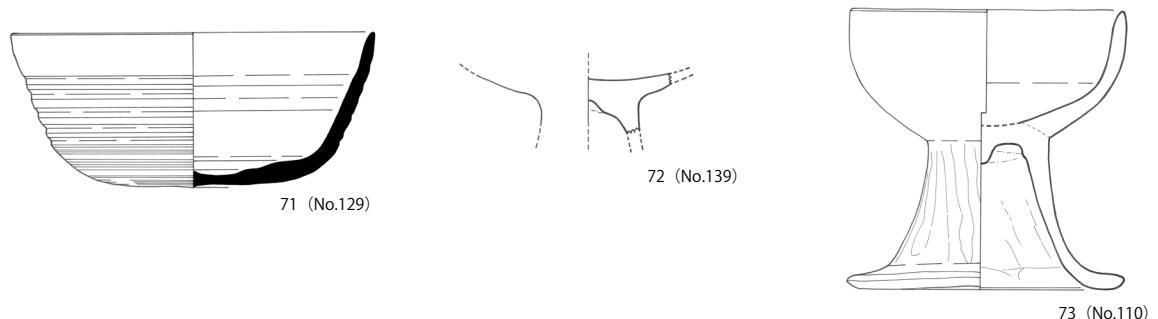
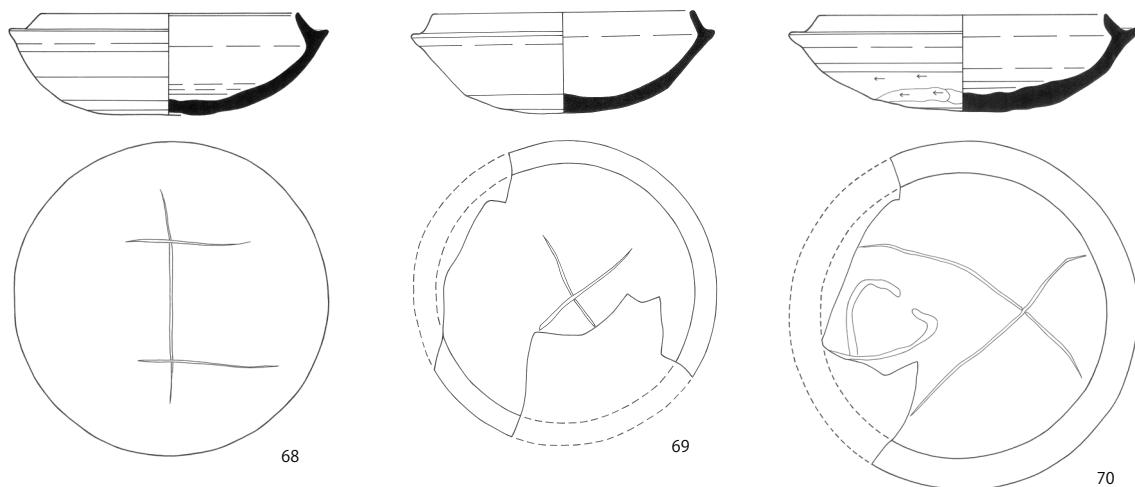
65 (No.38)

66 (No.61-71)

67 (No.84)

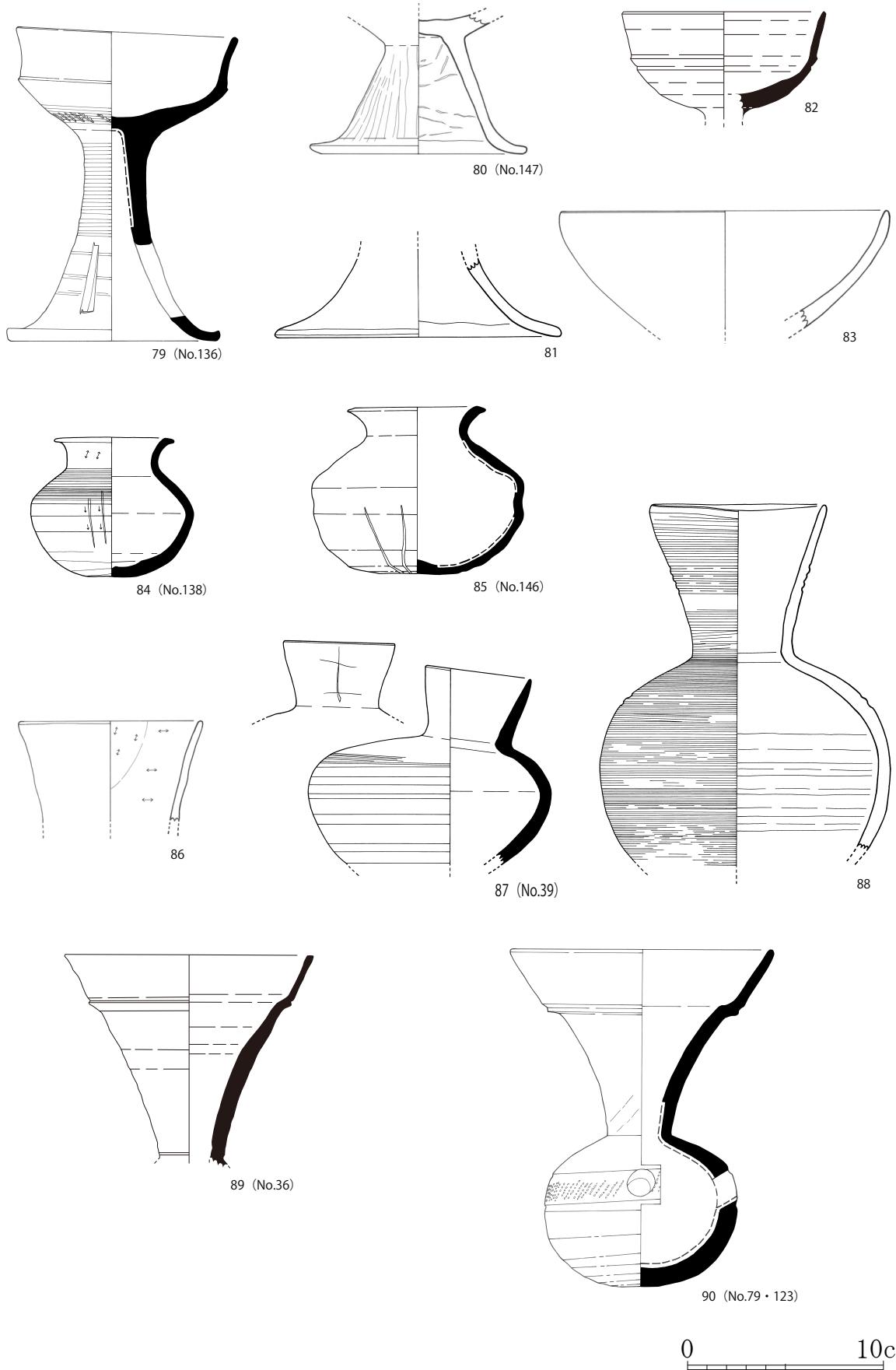
0 10cm

第19図 3号墓前庭部出土遺物

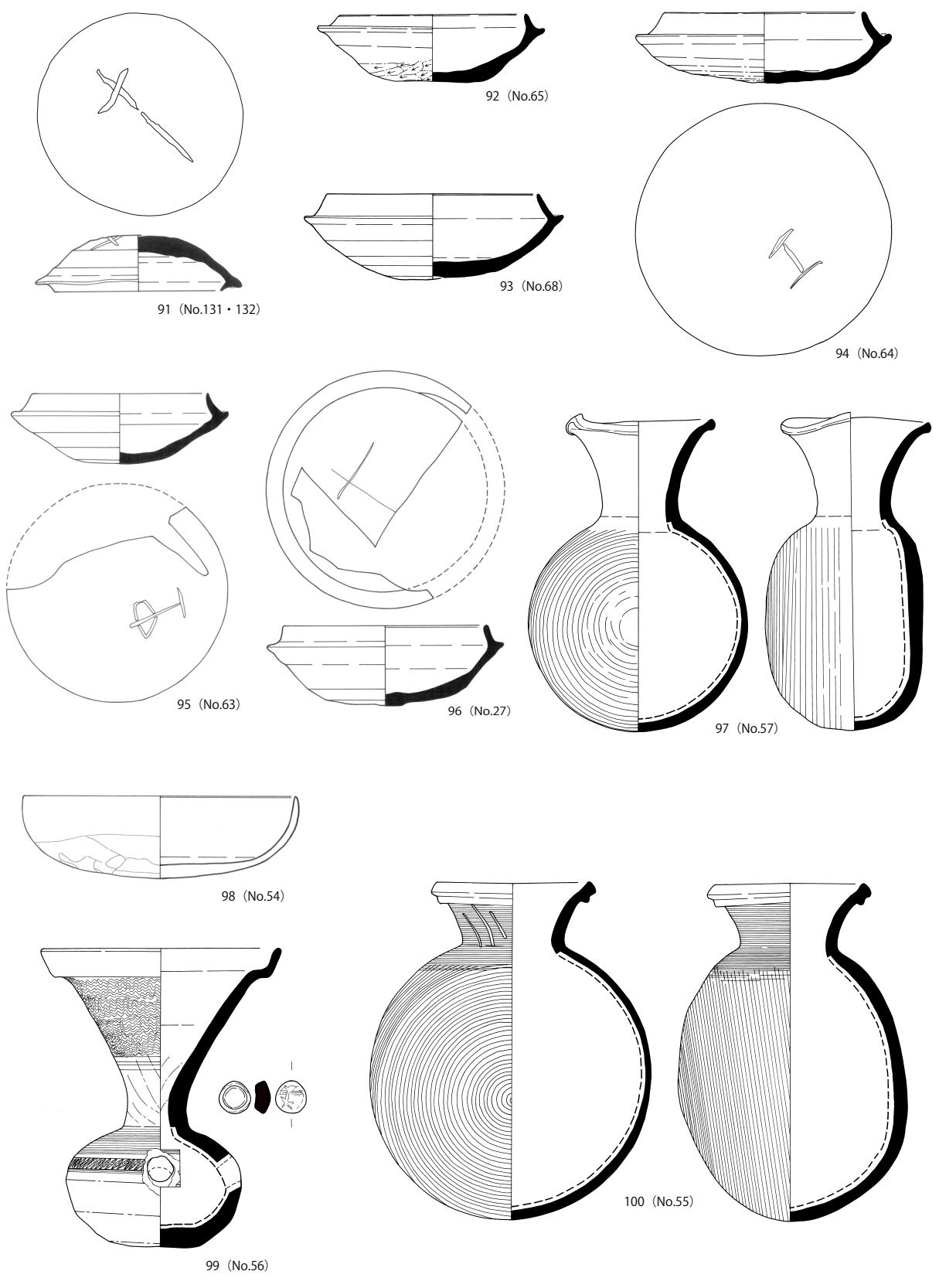


0 10cm

第 20 図 3 号墓前庭部出土遺物

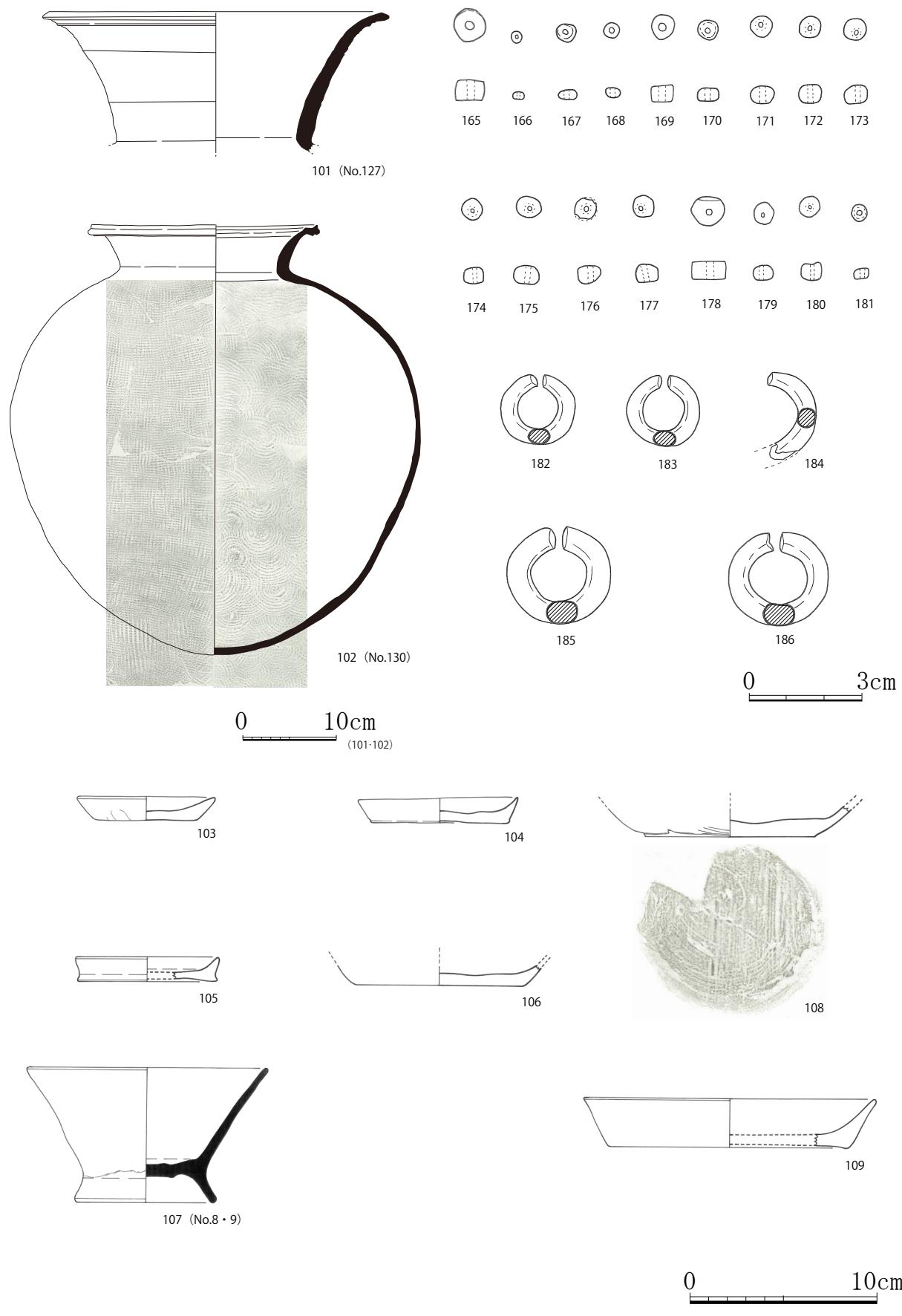


第21図 3号墓前庭部出土遺物

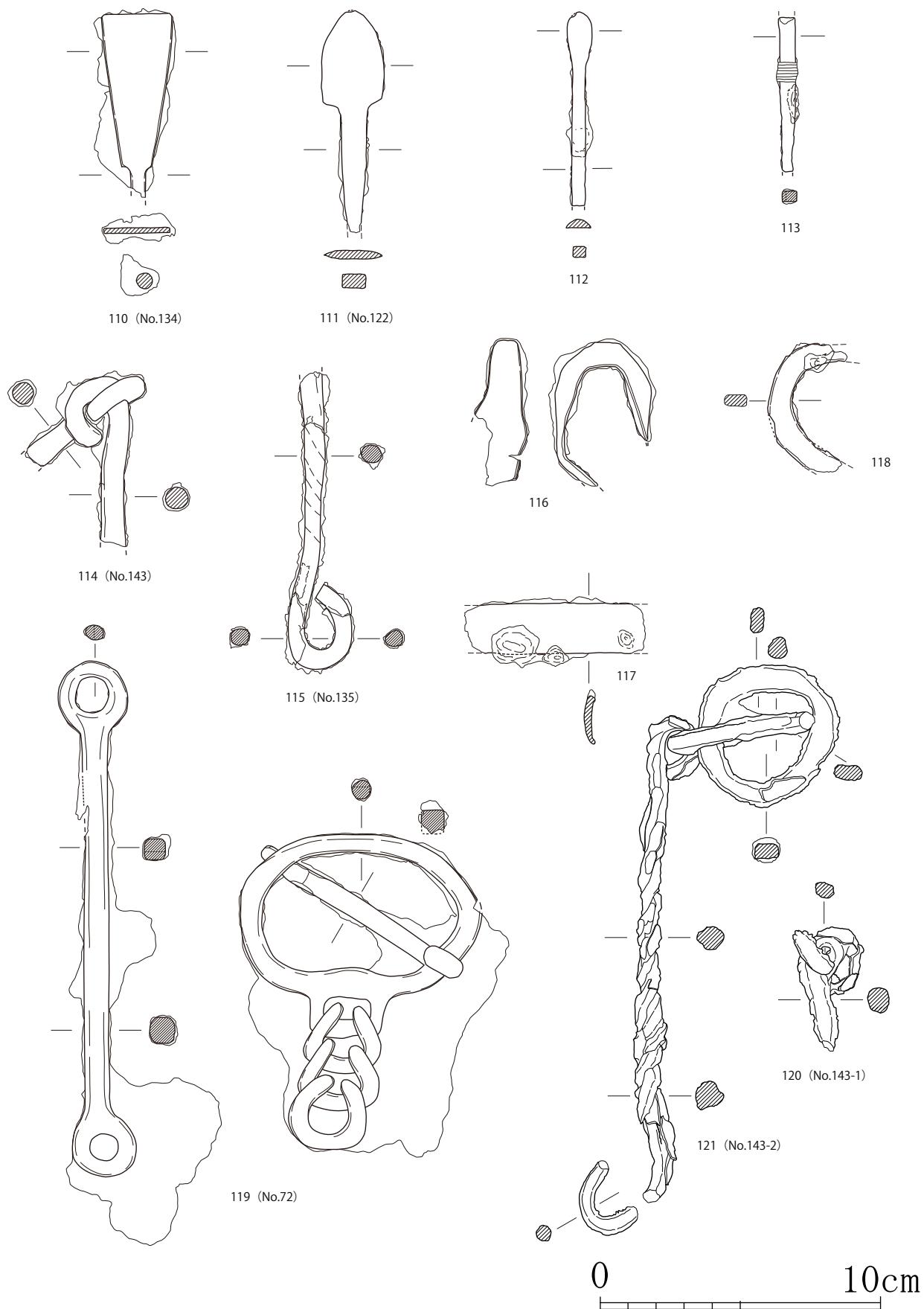


0 10cm

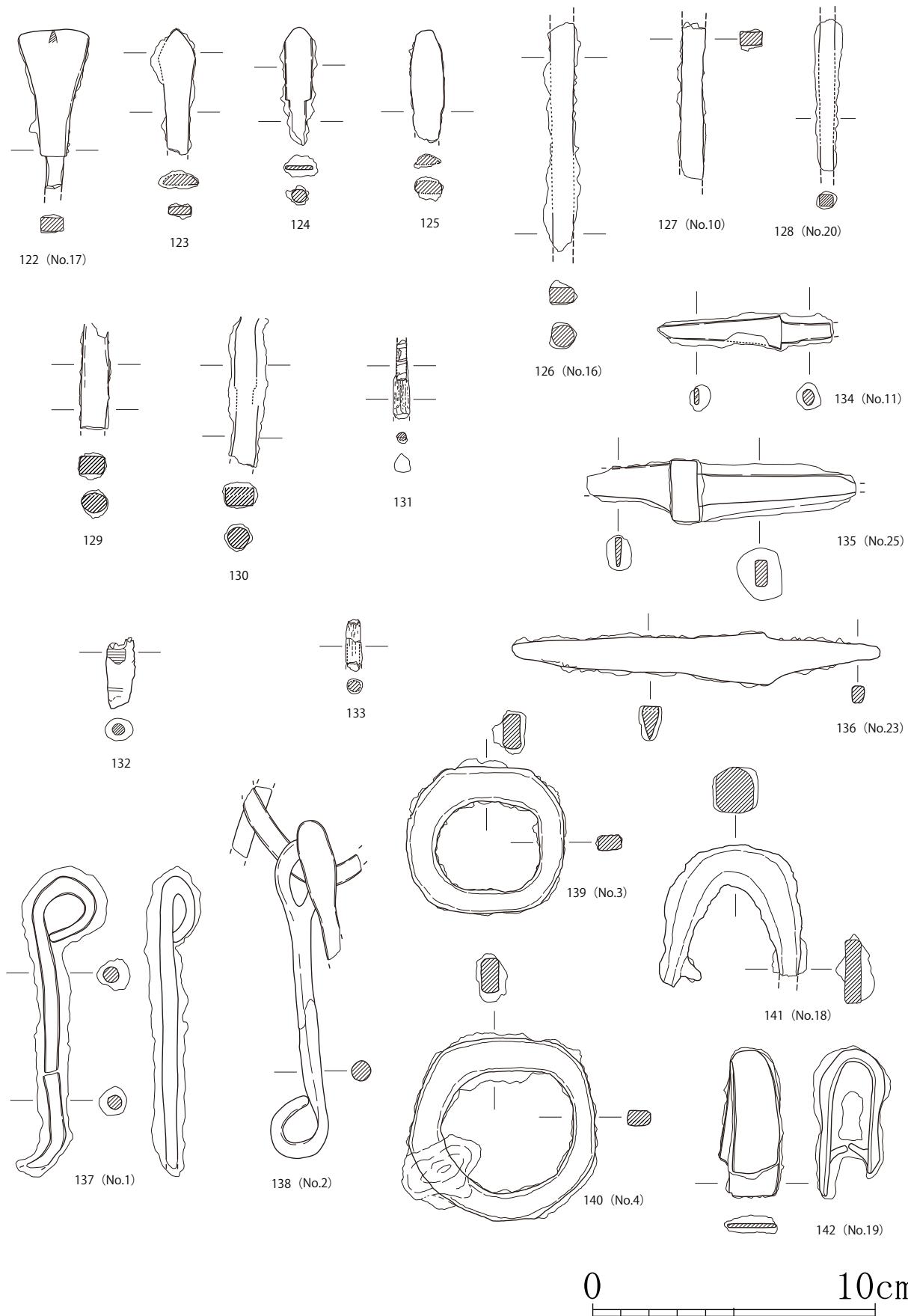
第22図 3号墓羨道部出土遺物



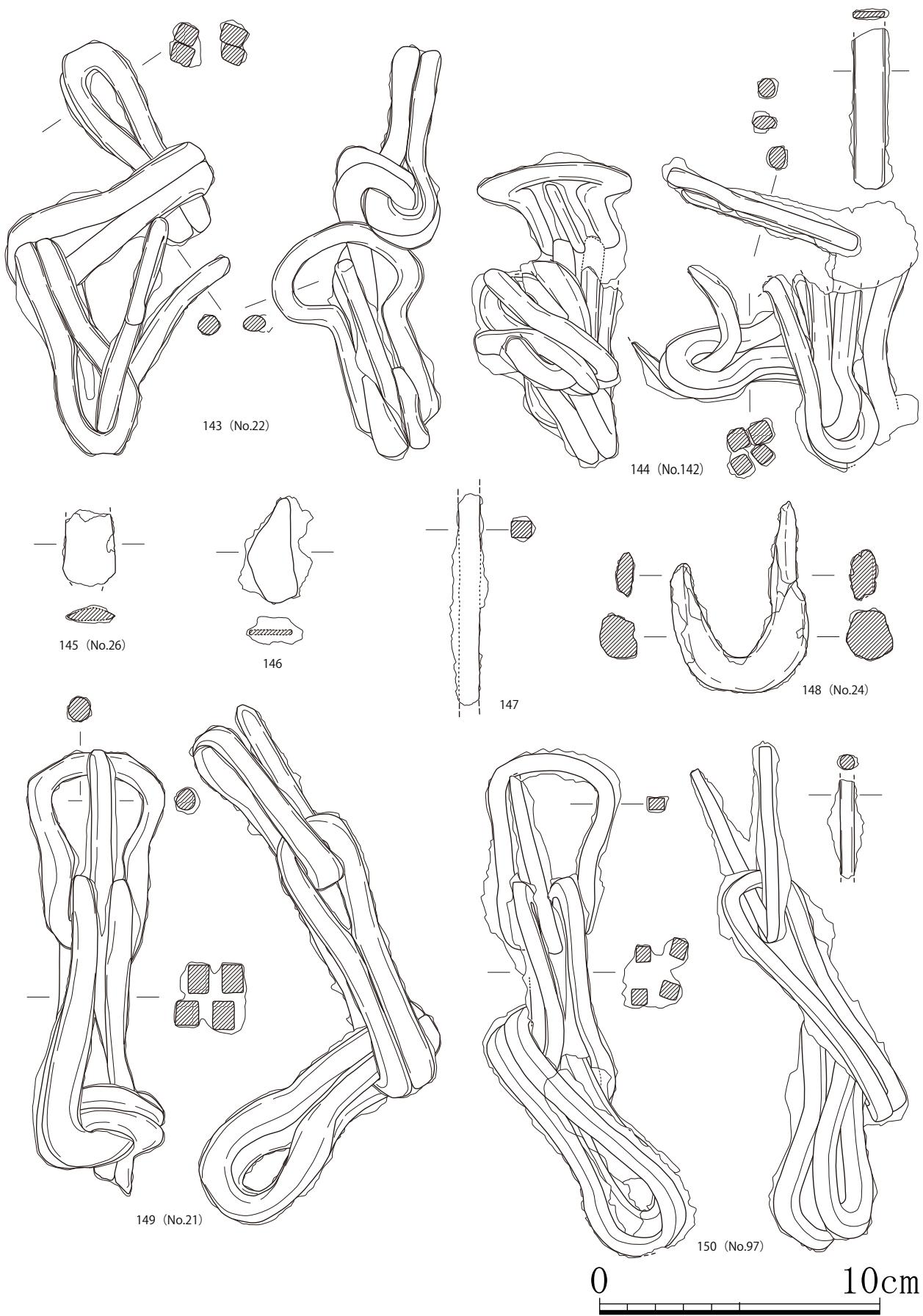
第23図 3号墓前庭部・通路出土遺物



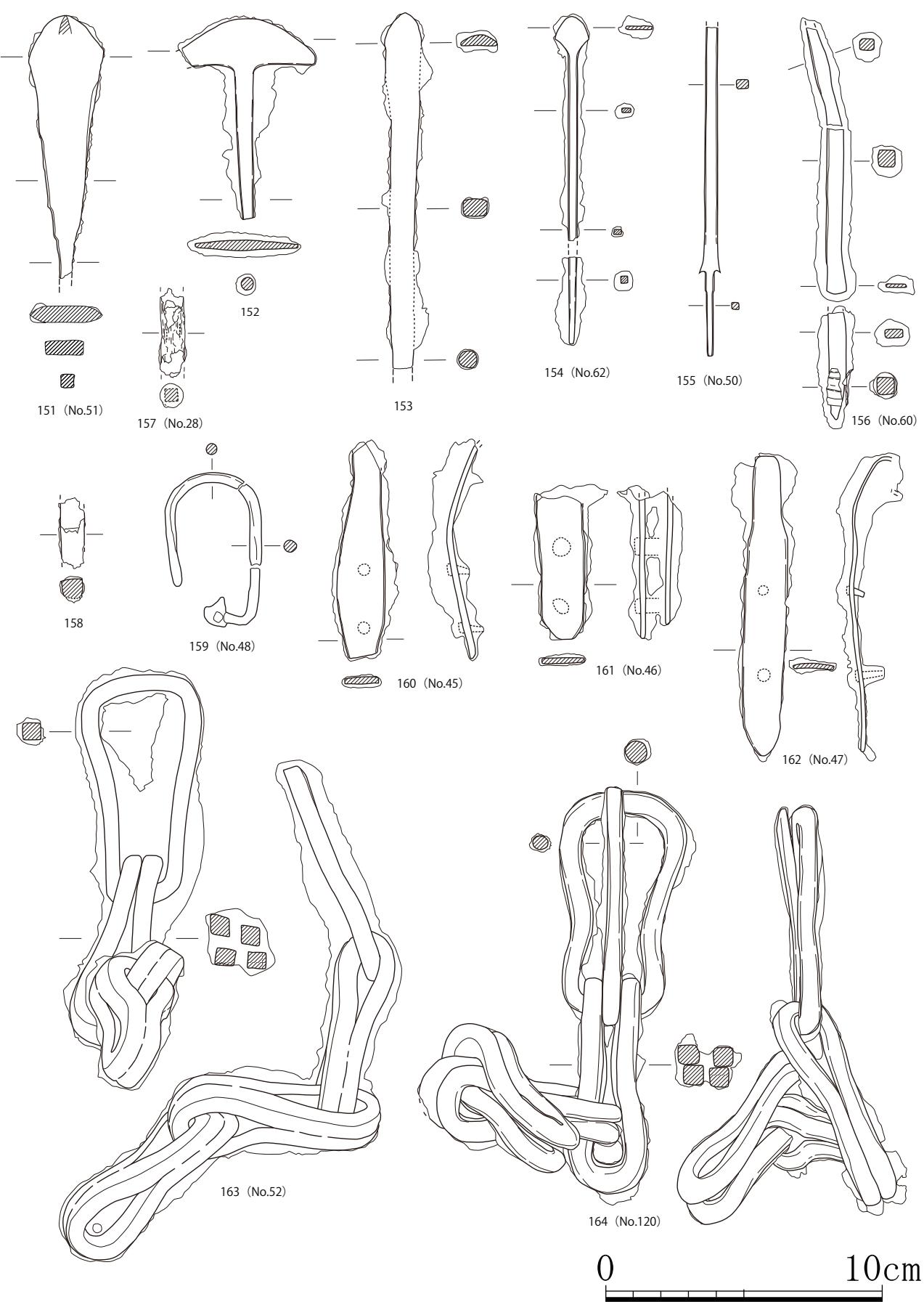
第24図 3号墓前庭部出土遺物



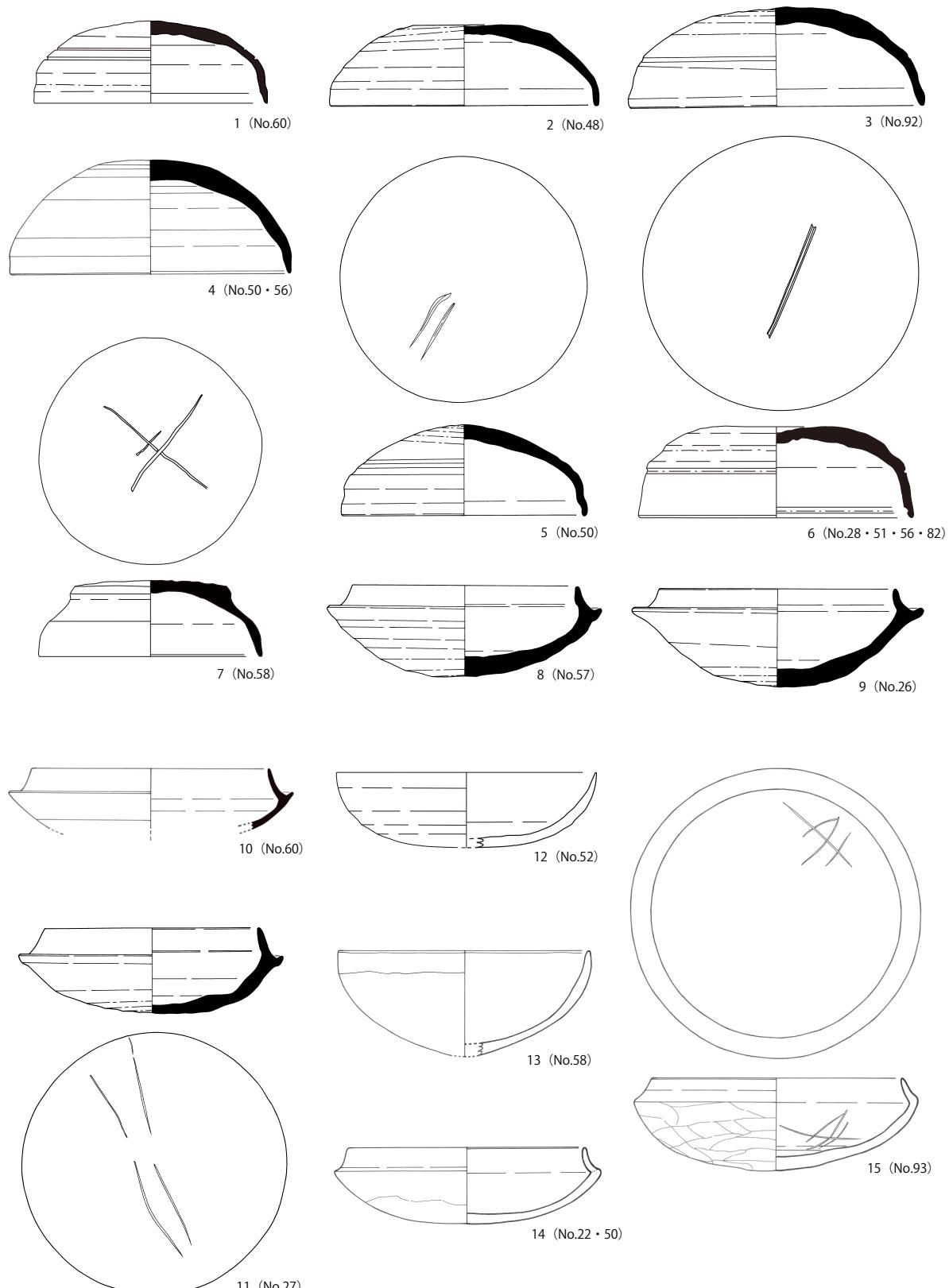
第25図 3号墓羨門～玄門通路・通路出土遺物



第 26 図 3 号墓前庭部～通路～玄室出土遺物

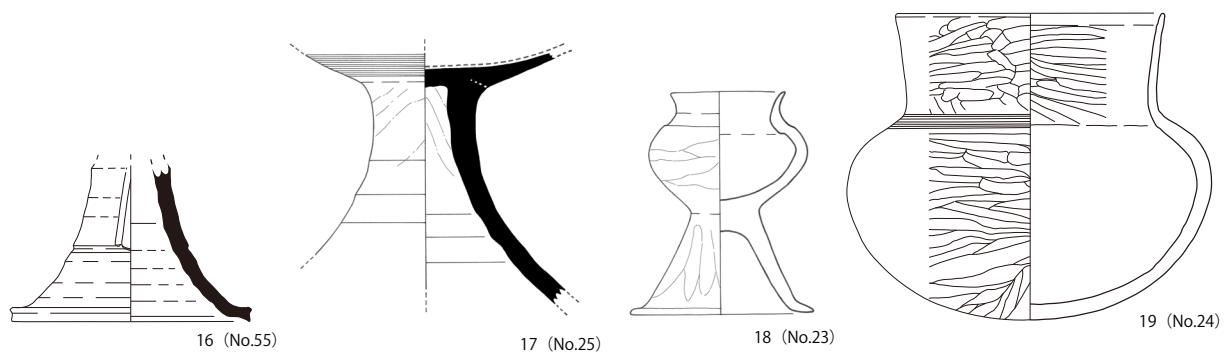


第27図 3号墓前庭部～羨道部・玄門通路出土遺物

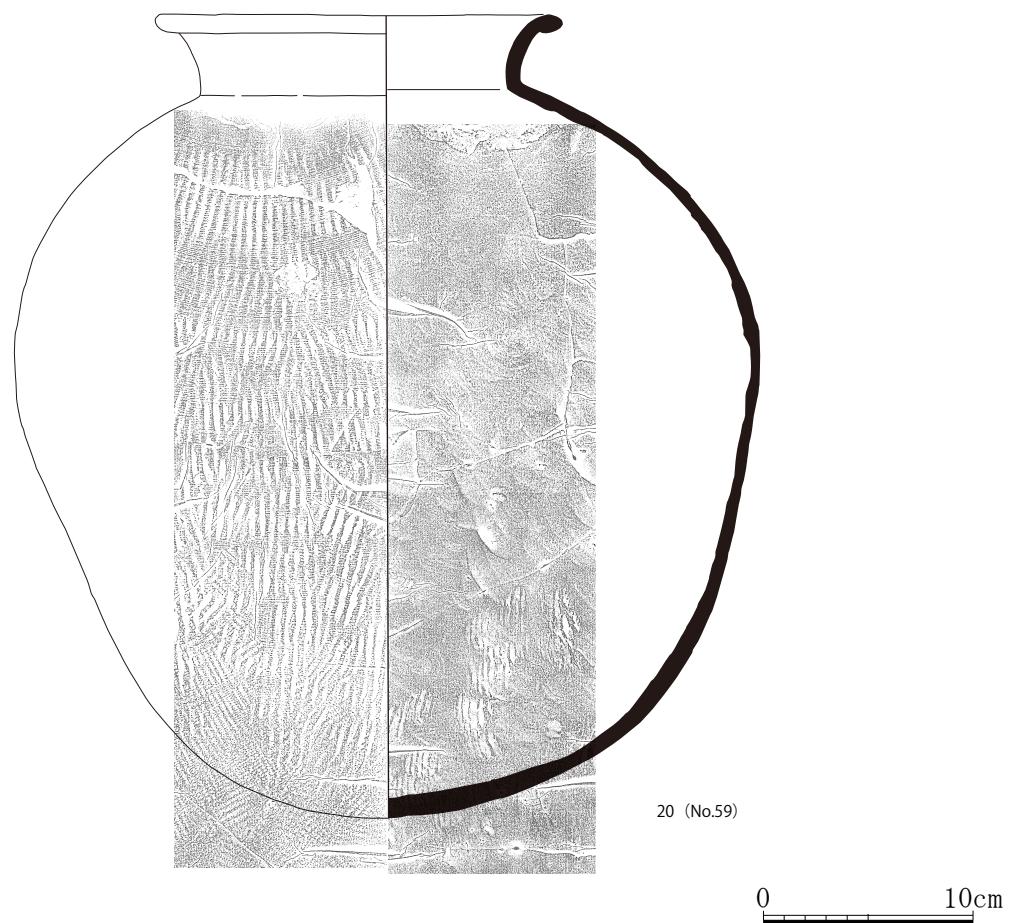


0 10cm

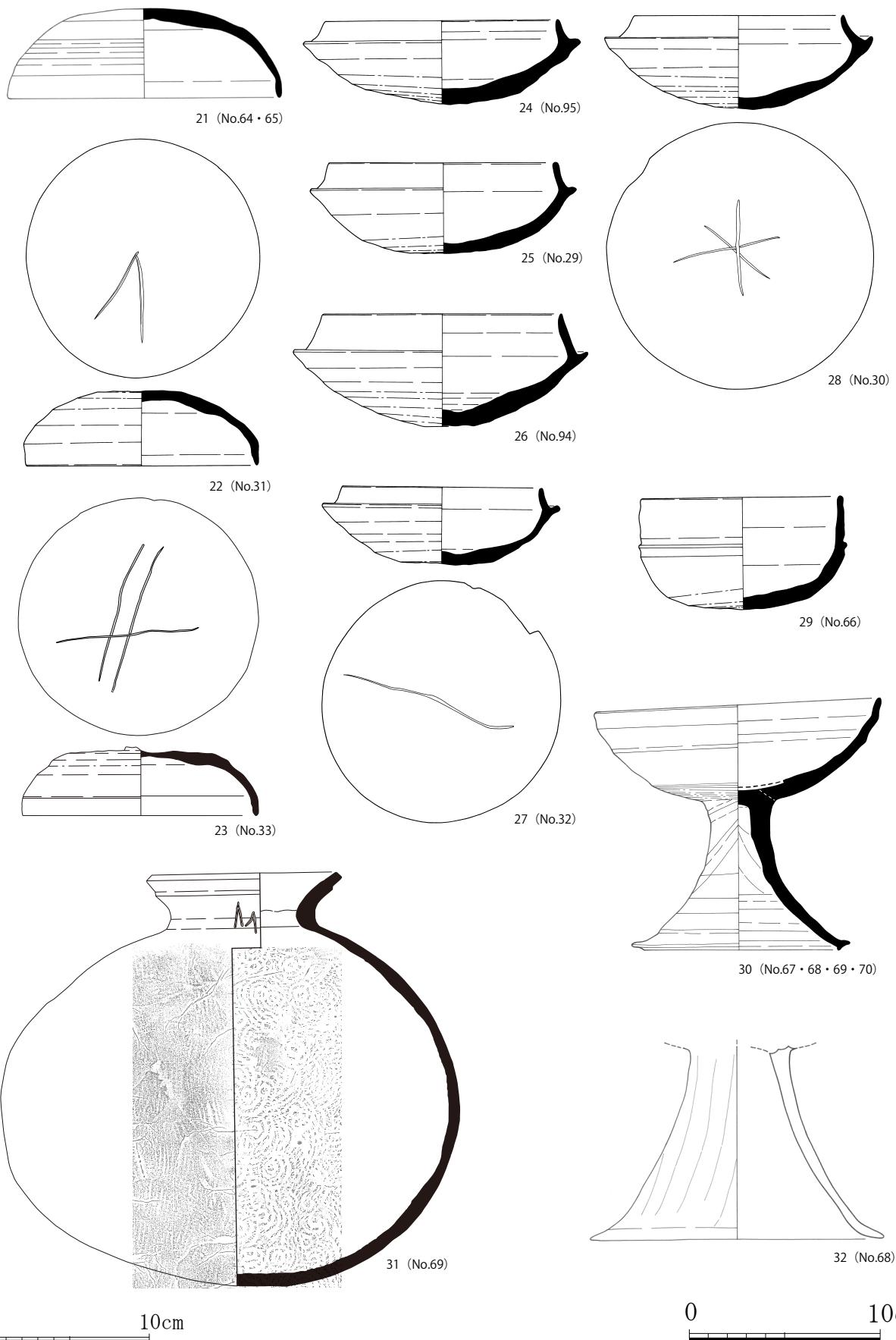
第28図 5号墓前庭部出土遺物



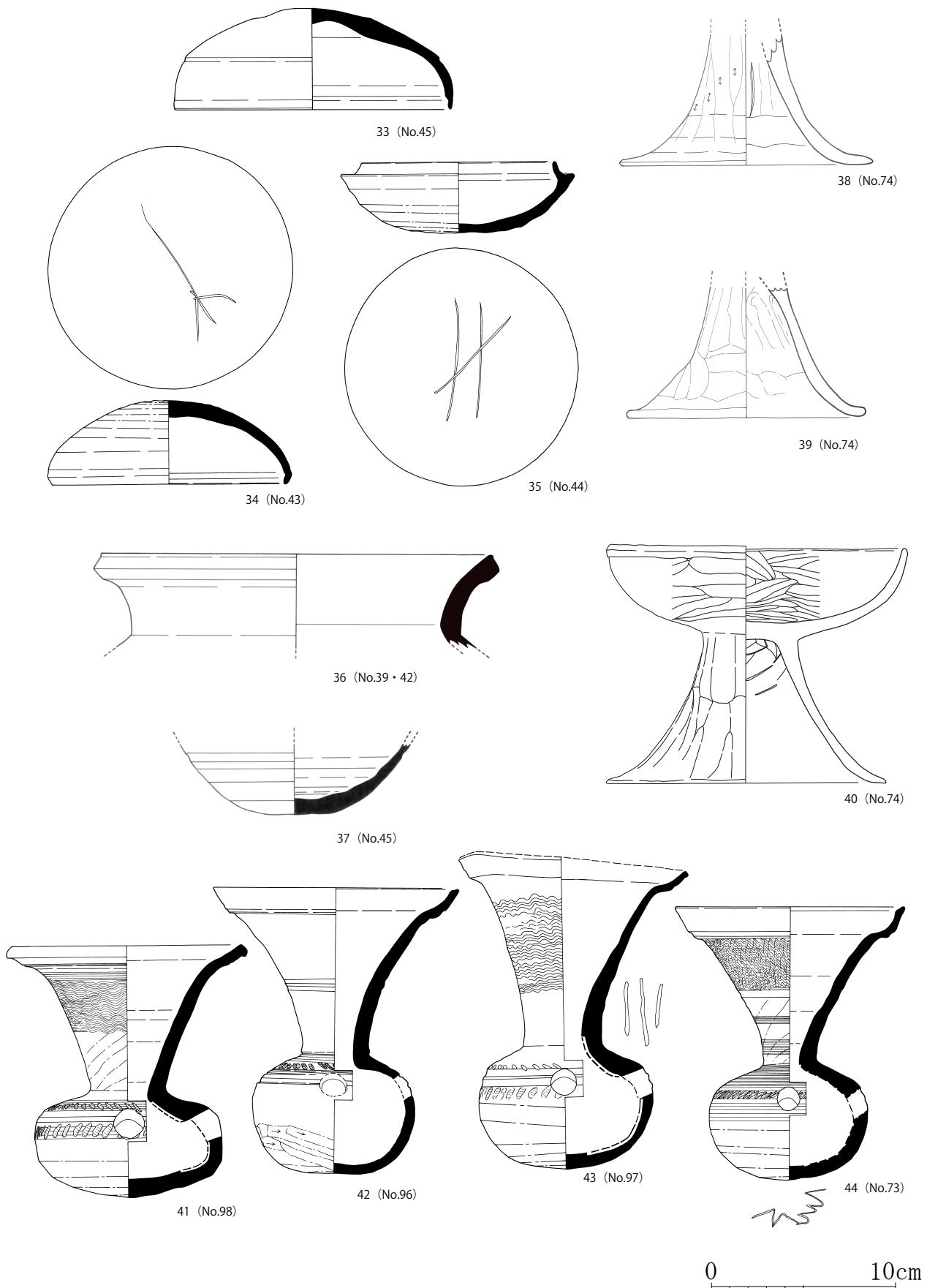
0 10cm



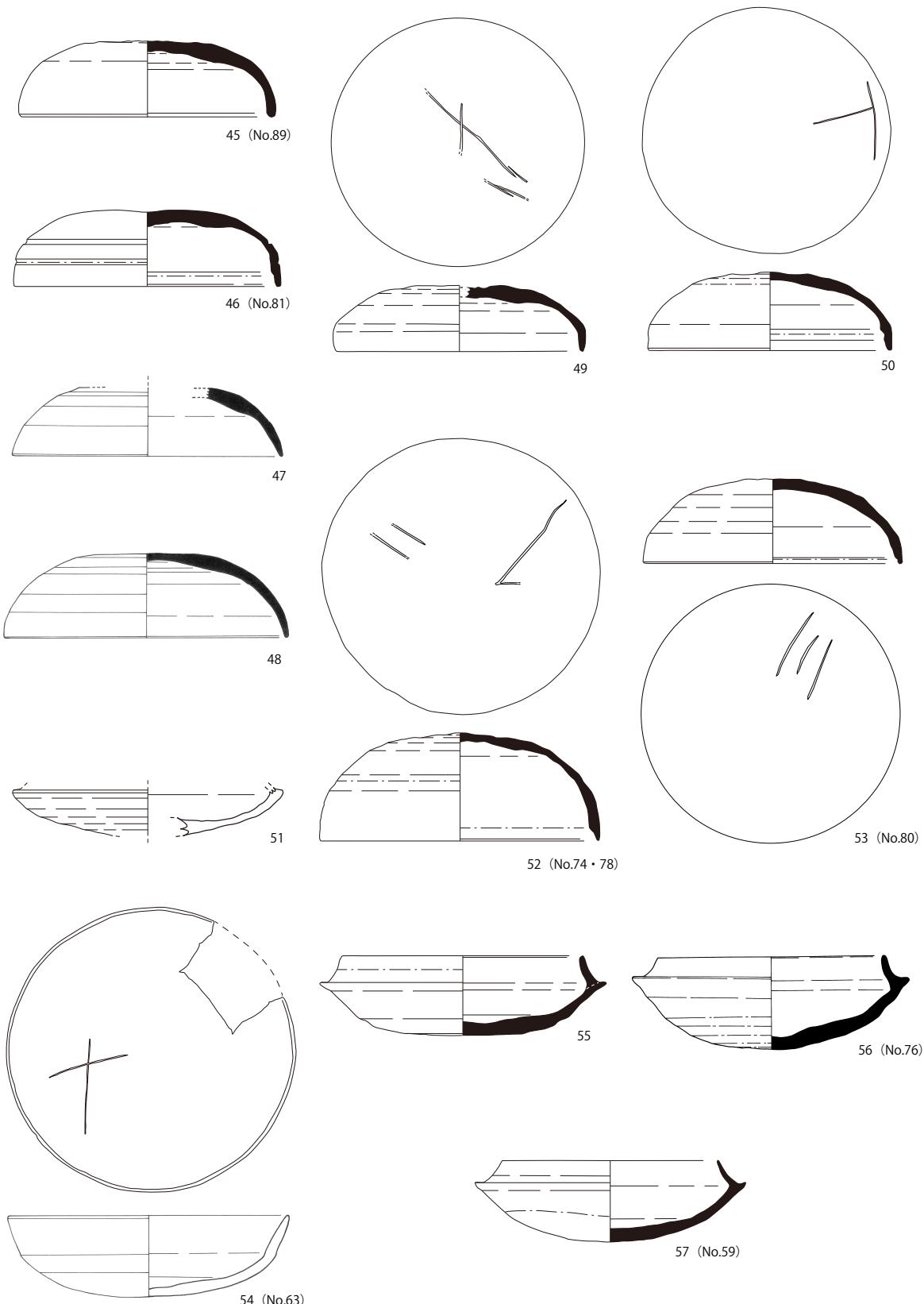
第29図 5号墓前庭部出土遺物



第30図 5号墓前庭部出土遺物

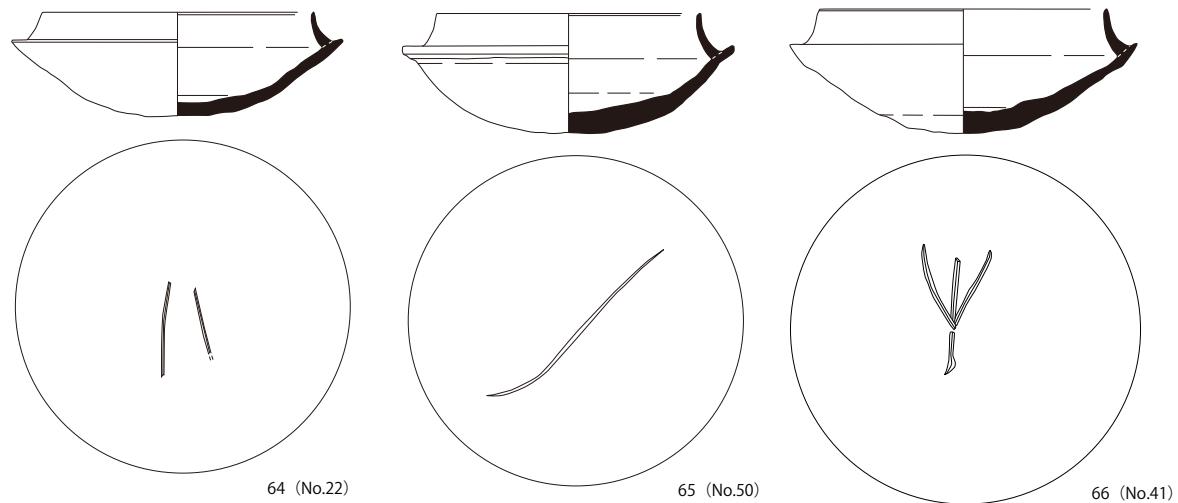
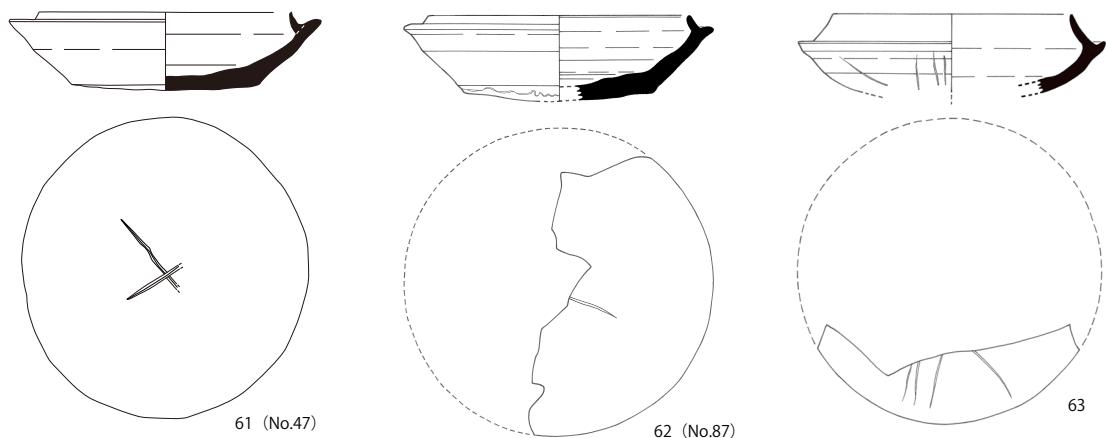
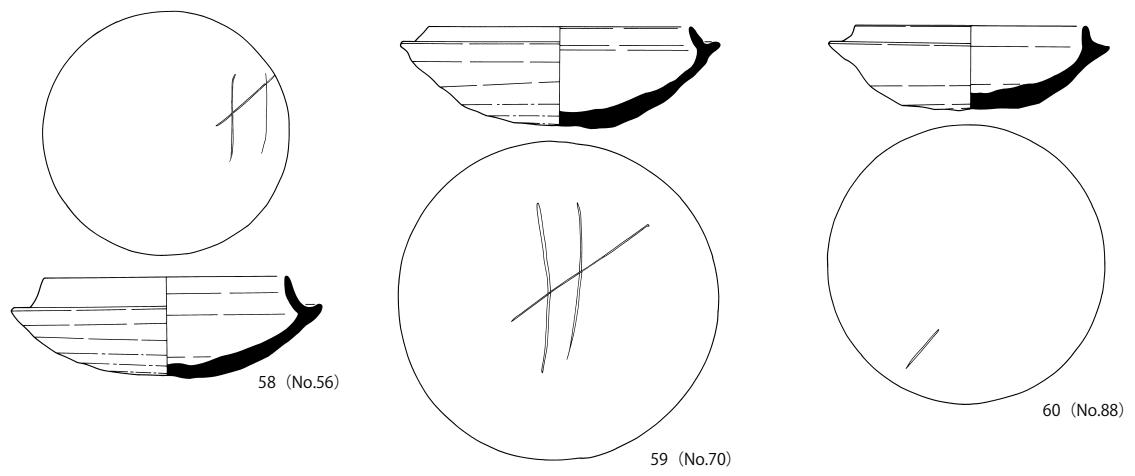


第31図 5号墓前庭部出土遺物



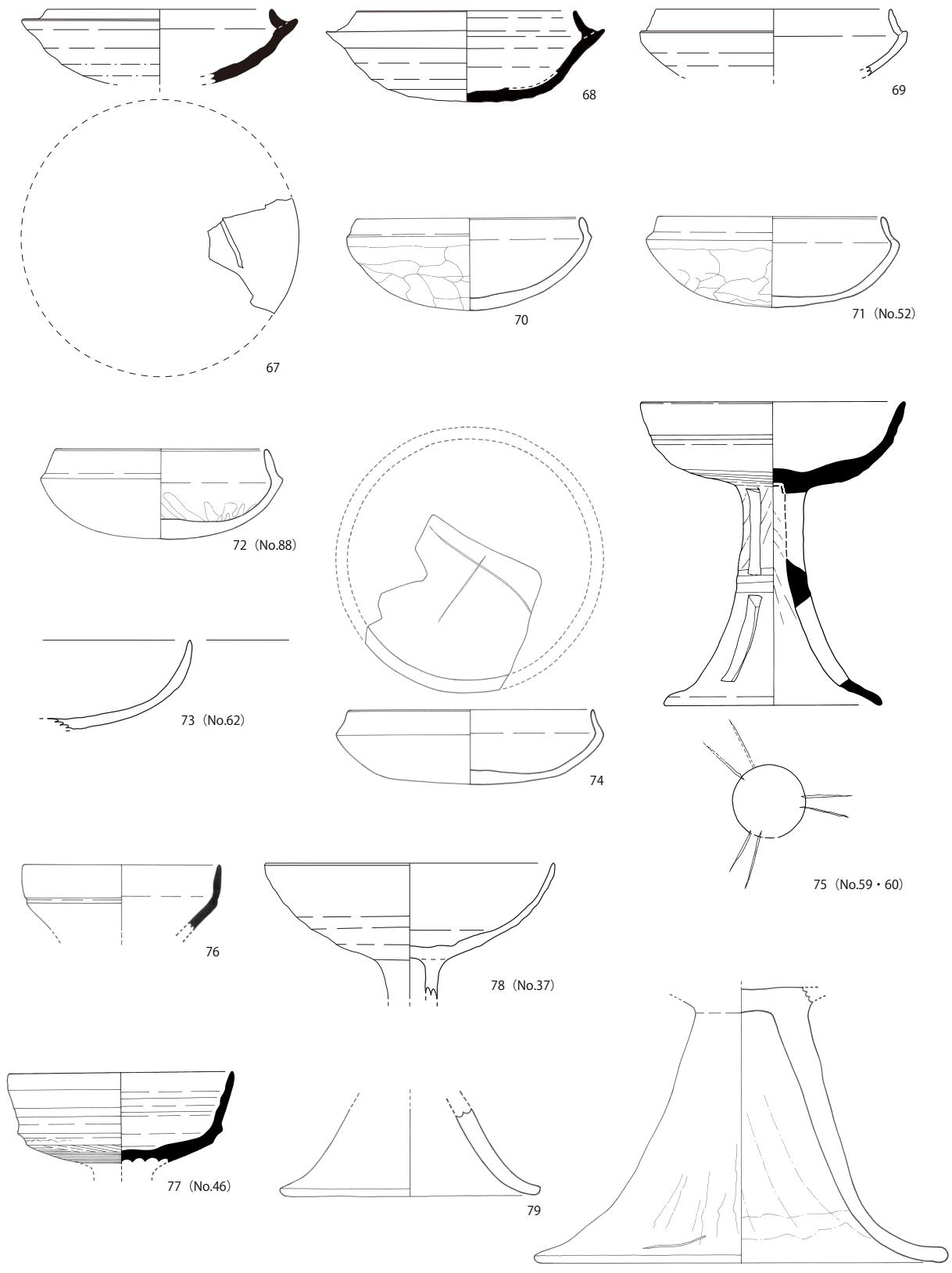
0 10cm

第32図 5号墓前庭部出土遺物

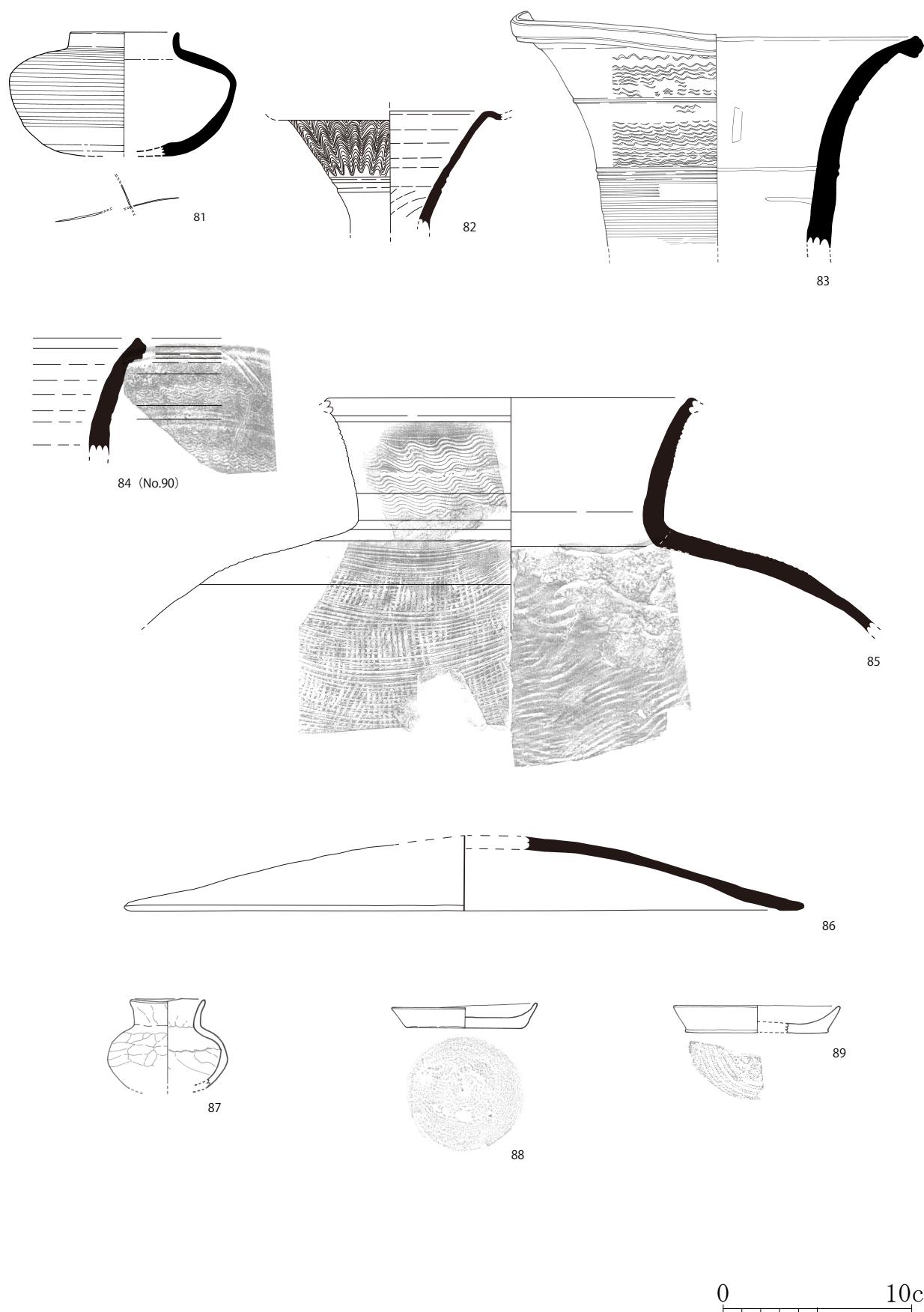


0 10cm

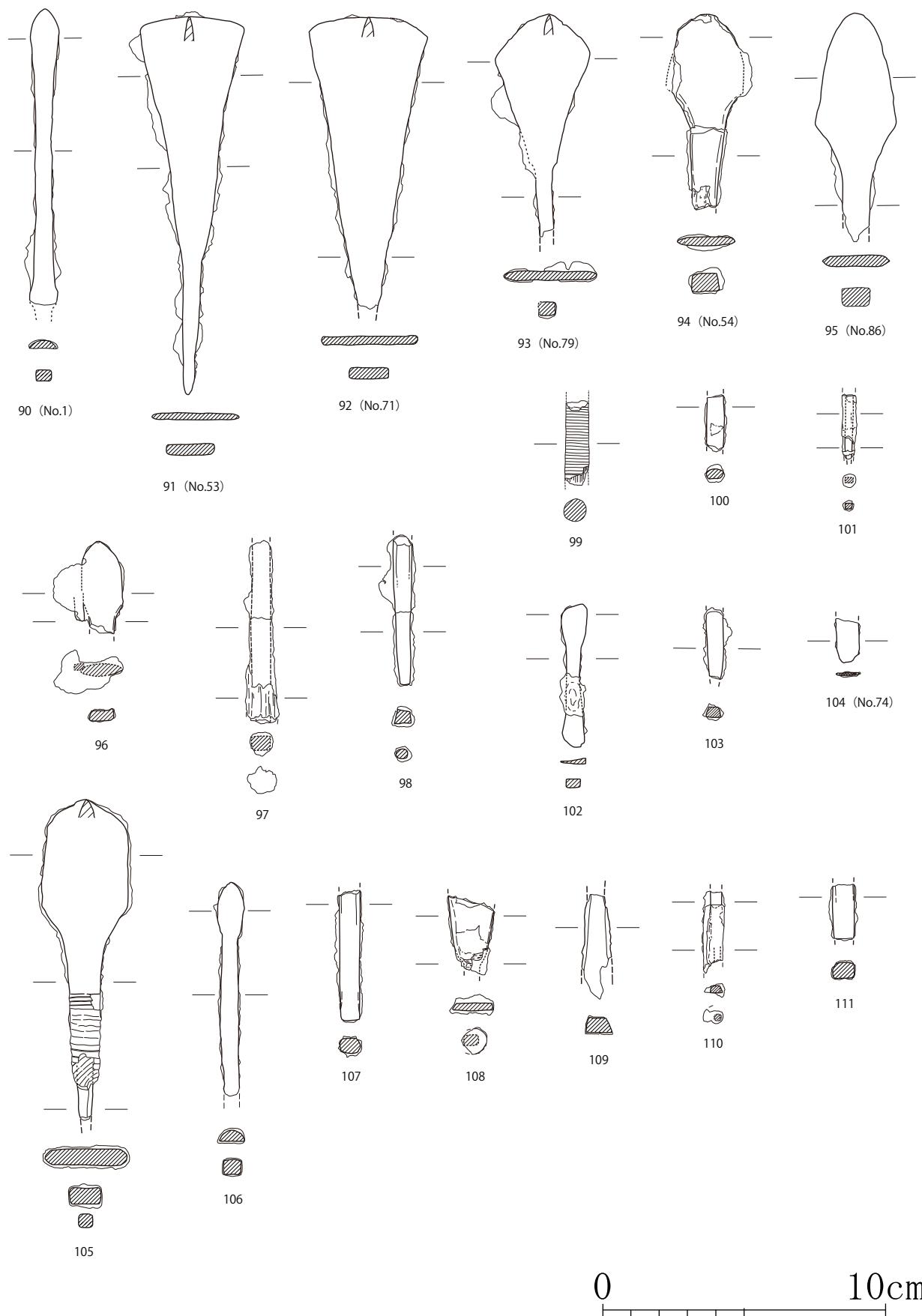
第33図 5号墓前庭部出土遺物



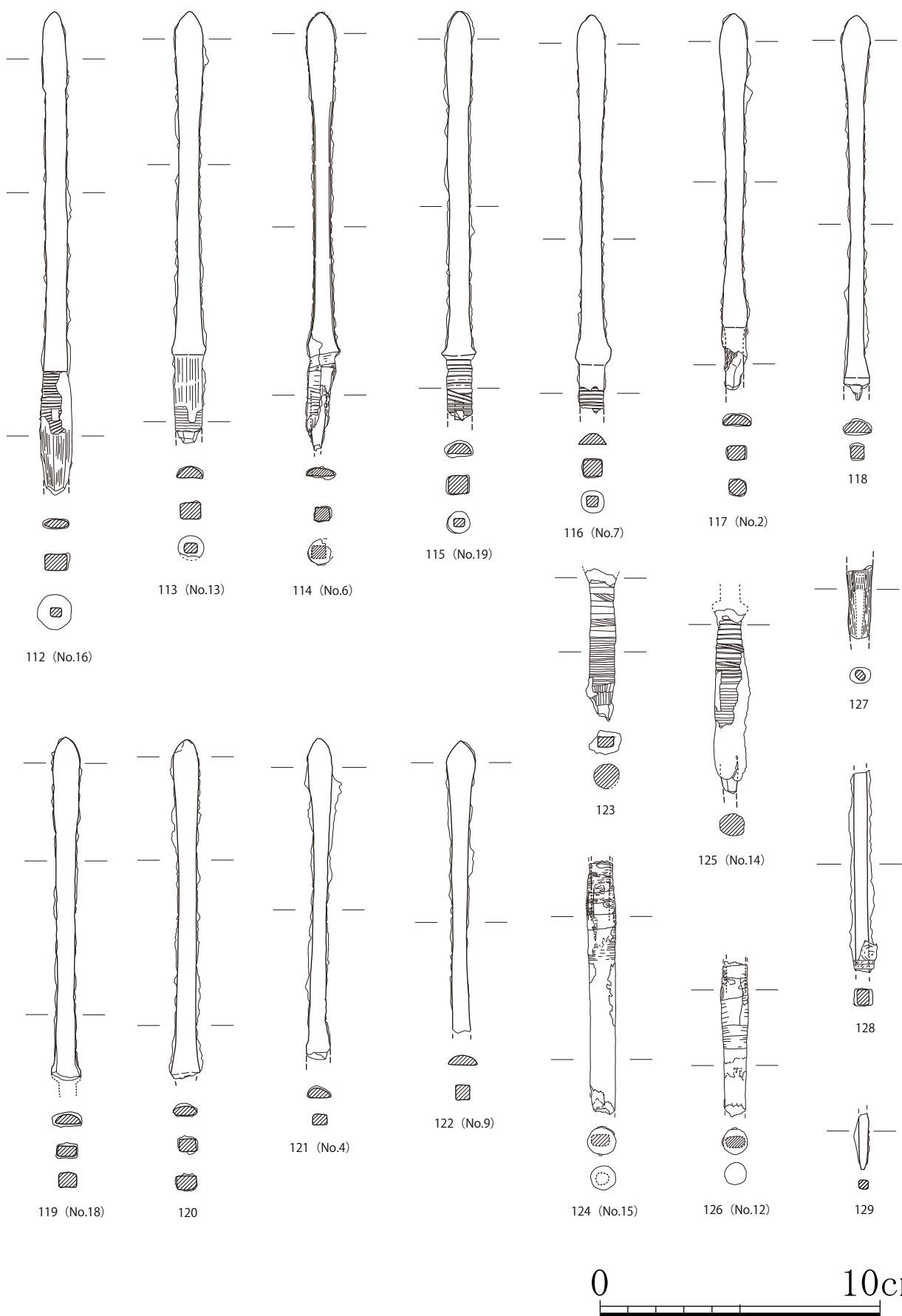
第34図 5号墓前庭部出土遺物



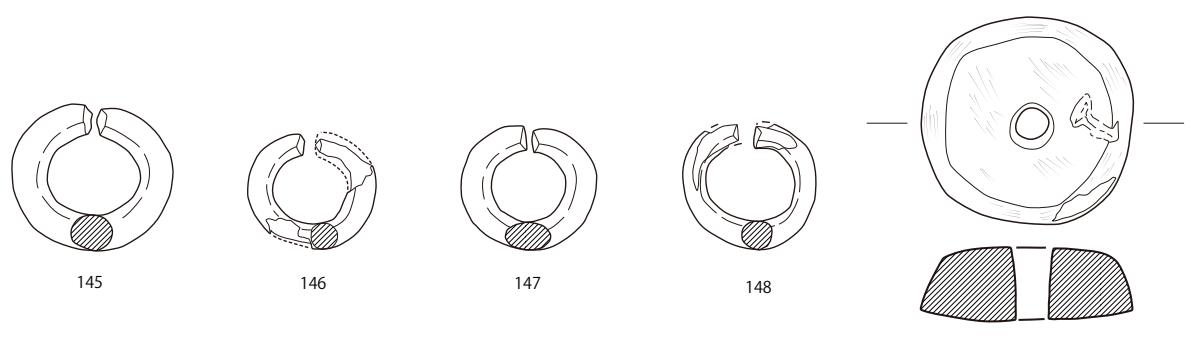
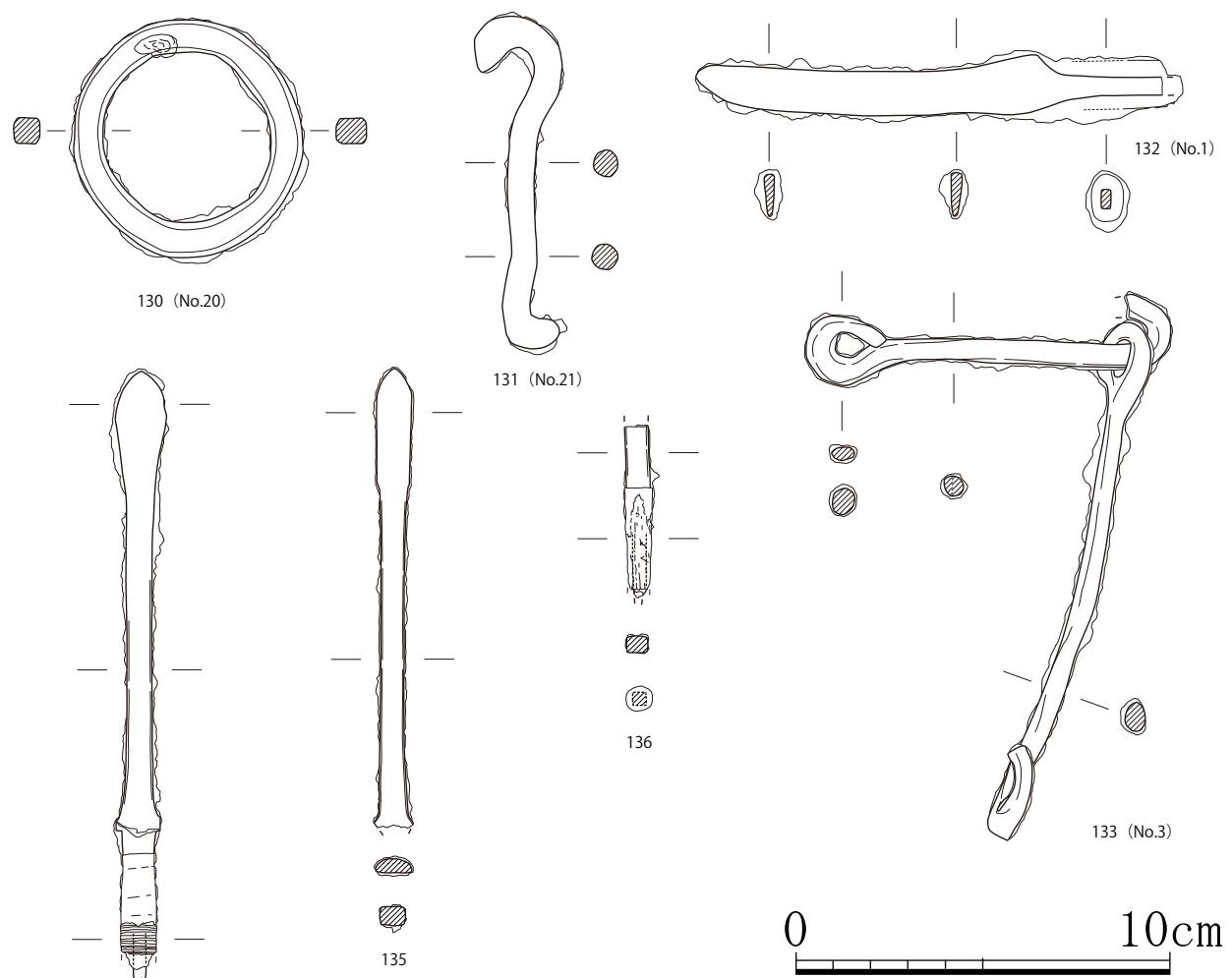
第35図 5号墓前庭部・玄室出土遺物



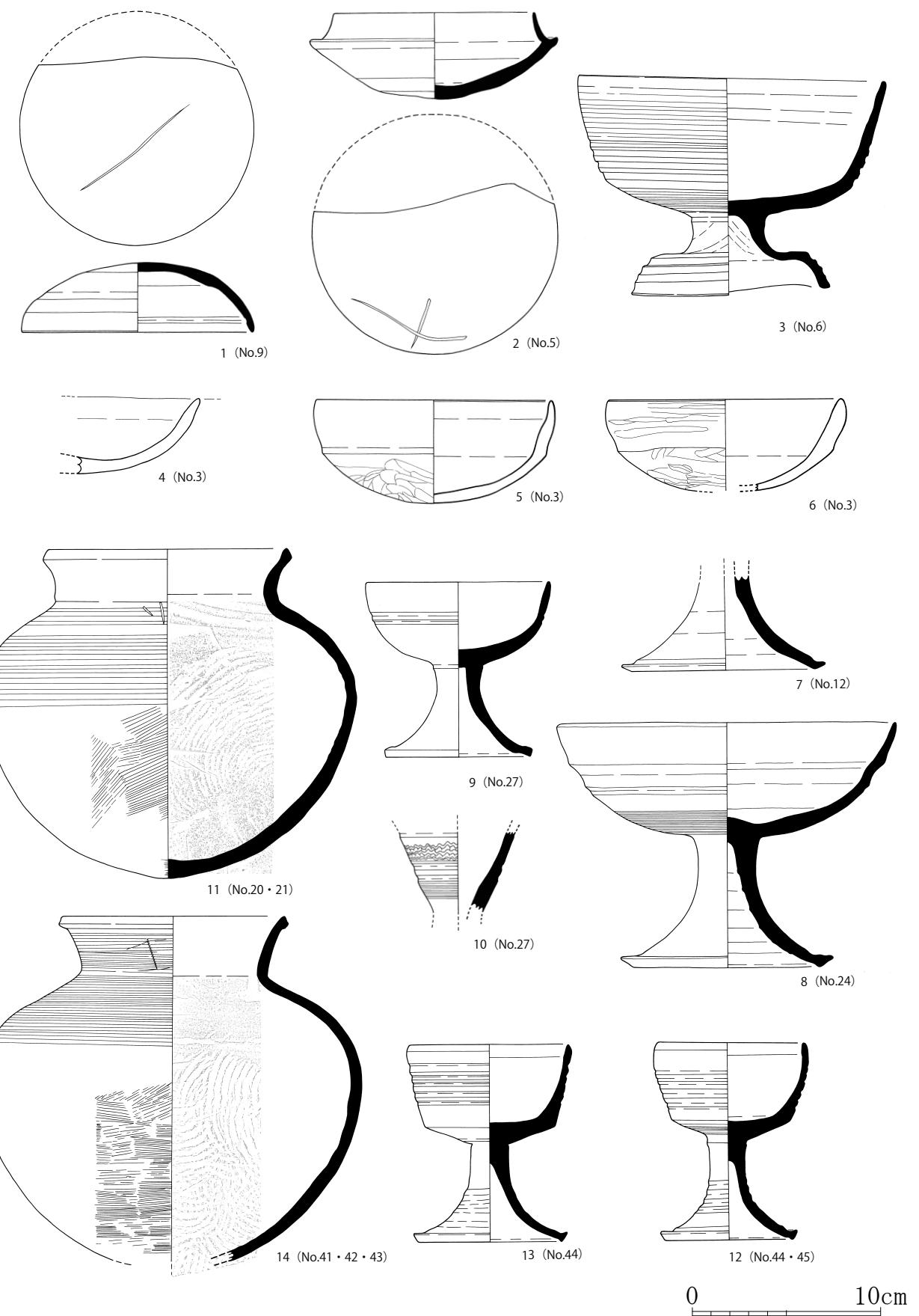
第36図 4・5号墓前庭部・通路出土遺物



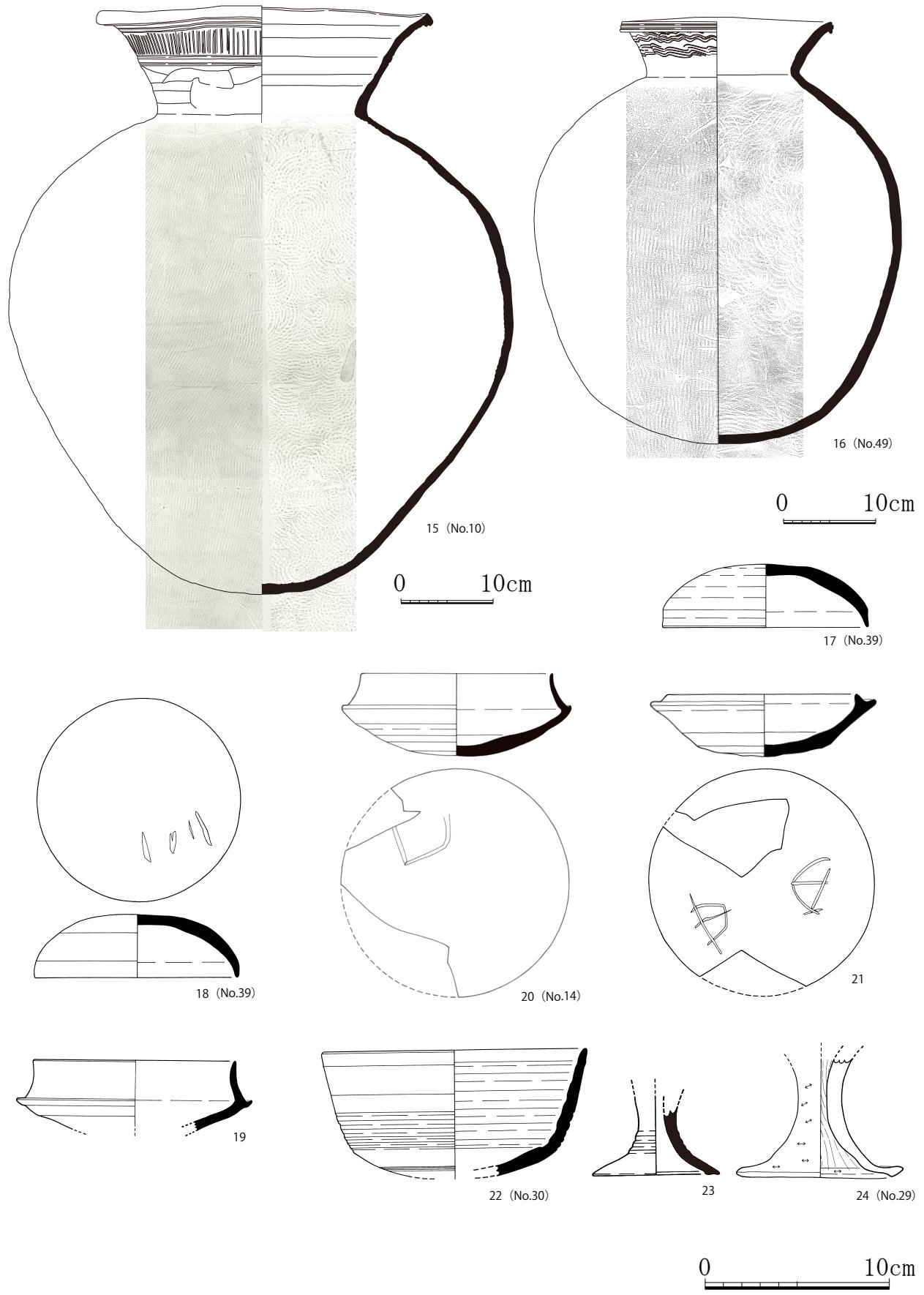
第37図 5号墓玄室出土遺物



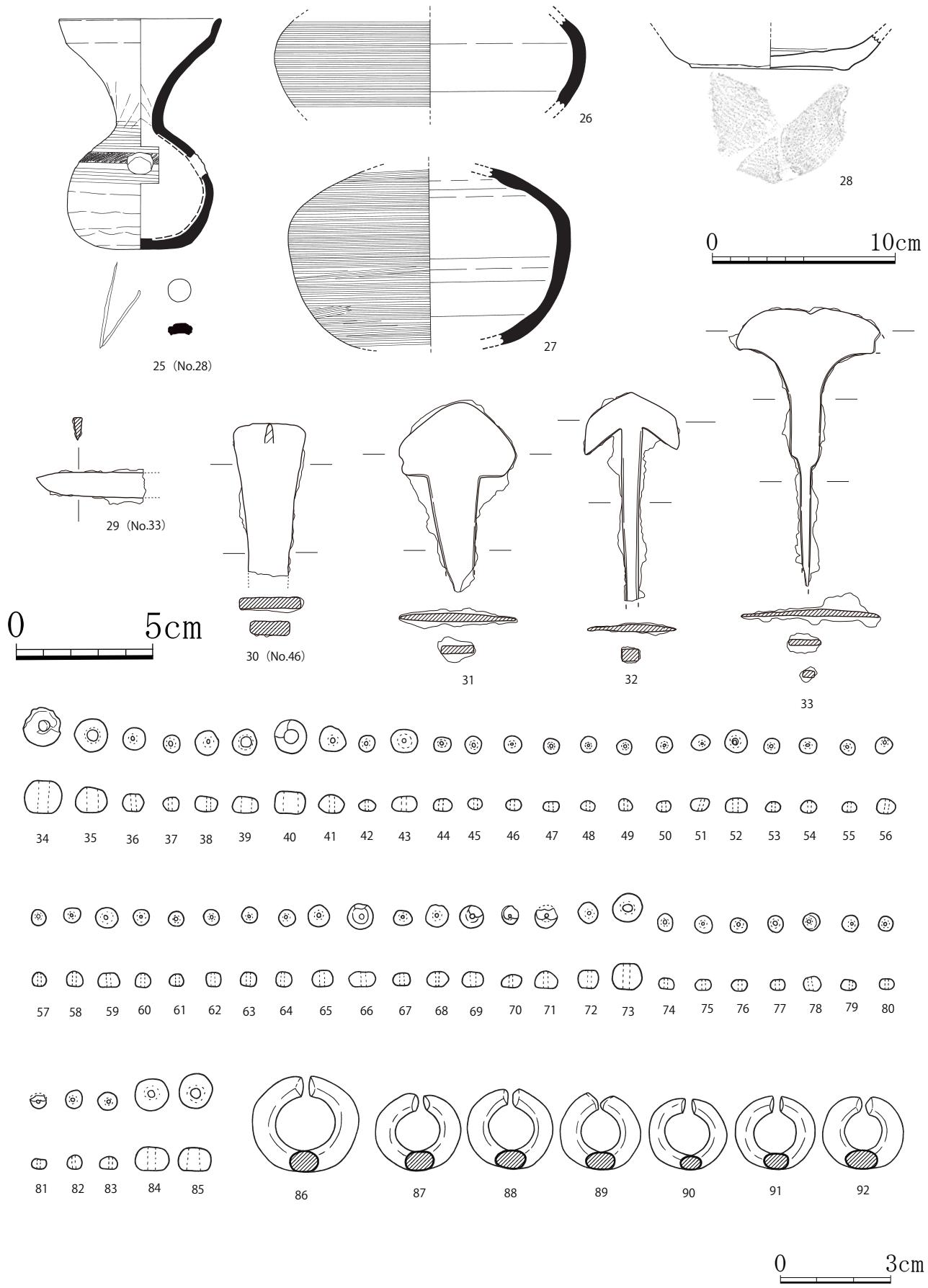
第38図 5号墓前庭部・玄室出土遺物



第39図 6墓前庭部出土遺物



第40図 6 墓前庭部・羨道部出土遺物



第 41 図 6 墓前庭部・通路・玄室出土遺物

第2表 土器観察表

1号墓 土器観察表										備考			
神図番号	遺物番号	出土地点	器種	器形	法量	胎土	焼成	色調					
								外 面	内 面				
第14回	1	一括	1号墓 前底部	須恵器	壺	口径8.1 器高3.6 底径4.6 石英(少)	細砂粒(少) 良石(少) 良石(少)	褐色	灰	回転ナデ ヘラケズリ後 ナデ	短縫の蓋の可能性有り 切り離し痕は回転ヘラ切後ナデ ロクロ右回り ほぼ完形 TK209並行期		
3号墓 土器観察表													
神図番号	遺物番号	出土地点	器種	器形	法量	胎土	焼成	色調	調 整	備考			
外 面	内 面	外 面	内 面										
第14回	2	No.89	3号墓 前底部	須恵器	高环	口径9.7 器高11.8 底径8.8	細砂粒(少) 角閃石(少) 小石粒(少) 雲母(少)	良	褐	性	回転ナデ カキ目 シボリ痕有り	完形	
第14回	3	No.90	3号墓 前底部	須恵器	环蓋	口径12.4	細砂粒(少)	やや良	灰白	灰白	回転ナデ ヘラケズリ 回転ナデ ナデ	体部内面にヘラ記号有り ロクロ右回り 完形 TK43並行期 模倣酒器	
第14回	4	No.34	3号墓 前底部	須恵器	环身	口径11.0 器高4.1	細砂粒(少) 白色粒(多)	良	灰オリーブ	灰	回転ヘラケズリ後回転ナ デ	体部内面にヘラ記号有り 切り離し痕は回転ヘラ切後ナデ ロクロ打こ欠き ほぼ完形 TK209並行期	
第14回	5	No.91	3号墓 前底部	須恵器	环身	口径11.5 器高4.0	細砂粒(少) 白色粒(多)	やや良	灰白	灰白	回転ナデ ヘラケズリ 回転ナデ ナデ	体部外面にヘラ記号有り 切り離し痕は回転ヘラ切り ロクロ右回り ほぼ完形 TK43並行期	
第14回	6	No.92	3号墓 前底部	須恵器	环身	口径12.3 器高4.2	細砂粒(少) 赤褐色粒(少) 雲母(少)	不良	灰白	淡黄橙	回転ナデ ヘラケズリ 回転ナデ ナデ	体部外面にヘラ記号有り ロクロ右回り 口縁部の数ヶ所がわ ざに欠損 TK43並行期	
第14回	7	No.42	3号墓 前底部	須恵器	壺	胸部深(12.4) 底径8.7+ 残存高7.7+	細砂粒(少) 良石(多) 白色粒(少)	良	灰オリーブ	灰	回転ナデ 回転ヘラケズリ リ後回転ナデ	切り離し痕は回転ヘラ切り後ナデ 脚部に指捺 压痕 口縁部へ横筋欠損 脚部1/3以下	
第14回	8	No.93	3号墓 前底部	須恵器	环蓋	口径12.2 器高3.1	細砂粒(少)	やや良	灰白	灰白	回転ナデ ヘラケズリ 回転ナデ ナデ	体部外面にヘラ記号有り 切り離し痕は回転ヘラ切り ロクロ右回り ほぼ完形 TK209並行期	
第14回	9	No.35	3号墓 前底部	須恵器	环身	口径10.7 器高4.3	細砂粒(少)	やや良	灰白	灰白	ヘラケズリ後ナデ 回転ナデ ナデ	体部外面にヘラ記号有り 一部に指捺压痕有り ロクロ右回り ロクロ打こ欠き ほぼ完形 TK43-209並行期 八女産?	
第15回	10	No.88, 95	3号墓 前底部	須恵器	罐瓶	口径4.9 胸部深8.6 器高10.3	細砂粒(少)	良	灰オリーブ	カキ目 シボリ痕有り	回転ナデ シボリ痕有り	外側に自然釉付着 ロクロ右回り	
第15回	11	No.96	3号墓 前底部	須恵器	脚付壺	口径8.5 器高8.5 底径7.4	細砂粒(少)	やや良	灰	灰	回転ナデ ヘラケズリ 回転ナデ ナデ	笠原部に脚を接合した際の強いナデの痕が見られる ロクロ右回り 完形	
第15回	12	3号墓 No.150 4号墓 一括	3号墓 前底部	須恵器	环蓋	口径10.9~12.1 器高4.0	細砂粒(少) 良石(少) 角閃石 (少) 白色粒(少)	良	灰黒	灰	回転ヘラケズリ後回転ナ デ	切り離し痕は回転ヘラ切り後ナデ ロクロ打こ欠け 脚部に歪み ほぼ完形 牛頭產?	
第15回	13	No.152	3号墓 前底部	土師器	タル型罐	口径6.4 胸部深13.0 残存高11.6+	細砂粒(少)	良	にぶい穂	にぶい穂	ケズリ後磨き	外側に磨き 磨き	
第15回	14	No.154	3号墓 前底部	土師器	台付小型壺	口径5.9 器高11.1 底径7.5	細砂粒(少) 角閃石(少) 良石(少) 雲母(多)	良	にぶい穂	にぶい穂	ヘラケズリ後ヨコナデ ヘラケズリ後ヨコナデ	完形	
第15回	15	No.153	3号墓 前底部	須恵器	环身	口径11.4 器高3.3	細砂粒(少)	やや良	灰白	灰白	回転ナデ ヘラケズリ 回転ナデ ナデ	体部外面にヘラ記号有り 口縁部付近に自然釉付着 ロクロ右回り 完形 TK209並行期	
第15回	16	No.76, 一括	3号墓 前底部	須恵器	环蓋	口径14.8 器高4.2	細砂粒(少) 白色粒(少)	良	にぶい穂	淡黄	回転ナデ ヘラケズリ 回転ナデ ナデ	ロクロ打こ欠け 体部に脚部一部欠損 一部に指捺 ロクロ右回り 完形	
第15回	17	No.30	3号墓 前底部	須恵器	环蓋	口径13.4 残存高8.3+	細砂粒(少) 霧母(多)	良	にぶい穂	淡黄橙	回転ヘラケズリ 後ナデ 回転ナデ	体部中面にヘラ記号有り 外面に黒ウルシを塗布した様な部分 がまばらに有る 口縁部1/4程度残存	
第15回	18	No.31	3号墓 前底部	須恵器	环蓋	口径13.0 器高5.0	細砂粒(少) 良石(少)	良	灰 黄	にぶい穂	回転ヘラケズリ後回転ナ デ	体部外面にヘラ記号有り 切り離し痕は回転ヘラ切り後ナデ ロクロ打こ欠け 体部一部欠損 一部に指捺	
第15回	19	No.29	3号墓 前底部	土師器	壺	口径12.4 残存高2.2+	細砂粒(少) 角閃石(少) 赤褐色粒(少) 雲母(少)	良	褐色	褐色	にぶい穂	ナデ	口縁部のみ残存
第15回	20	No.66	3号墓 鎮道部	須恵器	环蓋	口径10.4 器高2.5	細砂粒(少)	やや良	赤褐	赤褐	回転ナデ ヘラケズリ 回転ナデ	体部外面にヘラ記号有り ロクロ右回り ほぼ完形 7世紀後半 No.21とセット	
第15回	21	No.137, 139	3号墓 前底部	須恵器	环身	口径9.6 器高3.6	細砂粒(少) 良石(少) 角閃石 (少) 小石粒(少) 白色粒(少)	良	にぶい穂	青褐	回転ナデ ヘラケズリ後回転ナ デ	体部外面にヘラ記号有り 切り離し痕は回転ヘラ切り後ナデ ロクロ打こ欠け 7世紀後半 No.20とセット	
第16回	22	No.70	3号墓 前底部	須恵器	环蓋	口径13.6 器高4.1	細砂粒(少) 小石粒(多)	やや良	にぶい穂	にぶい穂	回転ヘラケズリ後回転ナ デ	ロクロ打こ欠け 7世紀後半 No.20とセット	
第16回	23	No.71	3号墓 前底部	須恵器	环蓋	口径13.4 器高4.5	細砂粒(少) 角閃石(少)	良	灰	灰	回転ヘラケズリ後回転ナ デ	切り離し痕は回転ヘラ切り後ナデ ロクロ打こ欠け 7世紀後半 No.20とセット	
第16回	24	No.81	3号墓 前底部	須恵器	环蓋	口径13.2 器高4.0	細砂粒(少) 白色粒(少)	良	灰	褐色	回転ヘラケズリ後回転ナ デ	切り離し痕は回転ヘラ切り後ナデ ロクロ打こ欠け 7世紀後半 No.21とセット	
第16回	25	No.86, 87	3号墓 前底部	須恵器	环蓋	口径12.6 器高3.7	細砂粒(少) 良石(少) 角閃石 (少) 小石粒(少) 白色粒(少)	良	灰	灰	回転ナデ ヘラケズリ後ナデ 回転ナデ	ロクロ打こ欠け 7世紀後半 No.20とセット	
第16回	26	一括	3号墓 前底部	須恵器	环蓋	口径13.2 器高4.1	細砂粒(少) 小石粒(少)	良	にぶい穂	褐色	回転ナデ ヘラケズリ後回転ナ デ	ロクロ打こ欠け 7世紀後半 No.20とセット	
第16回	27	No.44	3号墓 前底部	須恵器	环蓋	口径13.4 器高4.0	細砂粒(少) 小石粒(少)	良	オーリーブ	褐色	回転ナデ ヘラケズリ後回転ナ デ	ロクロ打こ欠け 7世紀後半 No.20とセット	
第16回	28	No.74	3号墓 前底部	須恵器	环蓋	口径11.5 器高3.6	細砂粒(少) 白色粒(少)	良	灰	灰	回転ヘラケズリ後ナデ 回転ナデ	ロクロ打こ欠け 7世紀後半 No.21とセット	
第16回	29	No.115, 一括	3号墓 前底部	須恵器	环蓋	口径12.0 器高4.1	細砂粒(少) 白色粒(少)	良	灰	暗青灰	回転ナデ ヘラケズリ後回転ナ デ	ロクロ打こ欠け 7世紀後半 No.21とセット	
第16回	30	一括	3号墓 前底部	須恵器	环蓋	口径11.4 器高3.7	細砂粒(少) 雲母(多)	やや良	暗黄	暗黄	回転ナデ ヘラケズリ後回転ナ デ	ロクロ打こ欠け 7世紀後半 No.21とセット	
第16回	31	一括	3号墓 前底部	須恵器	环蓋	口径11.8 器高3.5	細砂粒(少) 白色粒(少)	良	暗灰	暗灰	回転ナデ ヘラケズリ後回転ナ デ	ロクロ打こ欠け 7世紀後半 No.21とセット	
第16回	32	No.126, 一括	3号墓 前底部	須恵器	环蓋	口径11.8 器高3.8	細砂粒(少) 良石(少) 小石粒(少)	良	オーリーブ	オーリーブ	回転ナデ ヘラケズリ後回転ナ デ	ロクロ打こ欠け 7世紀後半 No.21とセット	
第17回	33	No.111	3号墓 前底部	須恵器	环蓋	口径12.0 器高3.8	細砂粒(少) 小石粒(少)	やや良	暗オリーブ	暗オリーブ	回転ナデ ヘラケズリ後回転ナ デ	ロクロ打こ欠け 7世紀後半 No.21とセット	
第17回	34	一括	3号墓 前底部	須恵器	环蓋	口径12.0 器高4.0	細砂粒(少) 角閃石(少) 良石 (少) 白色粒(少) 雲母(少)	良	灰	灰	回転ナデ ヘラケズリ後回転ナ デ	ロクロ打こ欠け 7世紀後半 No.21とセット	
第17回	35	No.131, 133	3号墓 前底部	須恵器	环蓋	口径13.3 器高3.9	細砂粒(少) 白色粒(少)	良	灰	灰	回転ナデ ヘラケズリ後回転ナ デ	ロクロ打こ欠け 7世紀後半 No.21とセット	
第17回	36	No.103, 一括	3号墓 前底部	須恵器	环蓋	口径12.3 器高4.1	細砂粒(少) 白色粒(少)	やや良	暗青灰	暗青灰	回転ナデ ヘラケズリ後回転ナ デ	ロクロ打こ欠け 7世紀後半 No.21とセット	
第17回	37	No.85	3号墓 前底部	須恵器	环蓋	口径11.4 器高3.9	細砂粒(少) 雲母(多)	やや良	暗黄	暗黄	回転ナデ ヘラケズリ後回転ナ デ	ロクロ打こ欠け 7世紀後半 No.21とセット	
第17回	38	No.32	3号墓 前底部	須恵器	环蓋	口径10.0 器高3.1	細砂粒(少) 角閃石(少) 小石 粒(少) 白色粒(少) 雲母(多)	やや良	灰	灰	回転ナデ ヘラケズリ後回転ナ デ	全体的に剥離が見ている 切り離し痕は回転ヘラ切り後ナデ ロクロ打こ欠け 7世紀後半 No.39とセット	
第17回	39	一括	3号墓 前底部	須恵器	环身	口径10.8 器高3.6	細砂粒(少) 白色粒(少)	やや良	にぶい穂	暗黄	回転ヘラケズリ後回転ナ デ	ロクロ打こ欠け 7世紀後半 No.39とセット	
第17回	40	一括	3号墓 前底部	須恵器	环身	口径12.4 器高3.2	細砂粒(少) 白色粒(少) 精良	良	黄灰	灰	回転ヘラケズリ後回転ナ デ	ロクロ打こ欠け 7世紀後半 No.40とセット	
第17回	41	一括	3号墓 前底部	須恵器	环身	口径12.3 器高4.6	細砂粒(少) 白色粒(少)	良	灰	灰白	回転ナデ ヘラケズリ後回転ナ デ	ロクロ打こ欠け 7世紀後半 No.41と同一產地	
第17回	42	No.82	3号墓 前底部	須恵器	环身	口径10.8	細砂粒(少)	やや良	灰白	灰白	回転ナデ ヘラケズリ後回転ナ デ	ロクロ打こ欠け 7世紀後半 No.42と同一產地	
第17回	43	No.99, 一括	3号墓 前底部	須恵器	环身	口径11.3 器高4.1	細砂粒(少) 白色粒(少)	良	灰黄	灰黄	回転ナデ ヘラケズリ後ナデ 回転ナデ ナデ	1/4程度欠存 脊部は丁寧 TK43並行期 No.54と同一產地	
第18回	44	No.100	3号墓 前底部	須恵器	环身	受部径12.6 器高4.4	細砂粒(少) 白色粒(少)	良	褐色	褐色	回転ナデ ヘラケズリ後ナデ 回転ナデ ナデ	歪みがあるが受部径は12.6~13.7cmとなる ロクロ打こ欠け 2体部は完全に残る TK43並行期 八女産?	
第18回	45	No.124	3号墓 前底部	須恵器	环身	口径8.4 残存高3.3+	細砂粒(少) 良石(少) 小石粒(少) 白色粒(少)	良	褐色	暗灰黃	回転ヘラケズリ後回転ナ デ	1/2程度残存 TK217並行期	
第18回	46	一括	3号墓 前底部	須恵器	环身	口径11.6 残存高3.3	細砂粒(少) 白色粒(少)	やや良	明褐灰	にぶい穂	回転ナデ ヘラケズリ後ナデ 回転ナデ	受部1/5程度残存 底部欠損	
第18回	47	No.104, 一括	3号墓 前底部	須恵器	环身	口径10.9 残存高4.0+	細砂粒(少) 白色粒(少)	良	褐色	灰	回転ナデ ヘラケズリ後ナデ 回転ナデ	受部1/5程度残存 底部欠損	
第18回	48	一括	3号墓 前底部	須恵器	环身	口径9.0 器高3.0	細砂粒(少) 白色粒(少) 雲母(多)	やや良	にぶい穂	暗黄	回転ヘラケズリ後回転ナ デ	切り離し痕は回転ヘラ切り後ナデ ロクロ打こ欠け TK217並行期 八女産?	
第18回	49	一括	3号墓 前底部	須恵器	环身	口径11.4 残存高4.0+	細砂粒(少) 良石(少) 白色粒(少)	良	灰	灰	回転ナデ ナデ	ロクロ打こ欠け 7世紀後半 TK209並行期	
第18回	50	No.104, 108, 一括	3号墓 前底部	須恵器	环身	口径11.8 器高4.3	細砂粒(少) 良石(少) 小石粒(少) 白色粒(少)	良	灰	灰	回転ナデ ヘラケズリ後回転ナ デ	ロクロ打こ欠け 7世紀後半 TK209並行期	
第18回	51	No.149	3号墓 前底部	須恵器	环身	口径10.6 器高3.8	細砂粒(少) 白色粒(少)	やや良	明青灰	明青灰	回転ナデ ヘラケズリ後ナデ 回転ナデ	切り離し痕は回転ヘラ切り後ナデ ロクロ右回り 完形 TK209並行期	
第18回	52	一括	3号墓 前底部	須恵器	环身	口径11.7 器高4.1	細砂粒(少) 良石(少) 白色粒(少)	良	灰	灰	回転ナデ ヘラケズリ後ナデ 回転ナデ	ロクロ打こ欠け 7世紀後半 TK209並行期	
第18回	53	3号墓 前底部 No.67	3号墓 前底部	須恵器	环身	口径9.1 器高4.1	細砂粒(少) 良石(少) 小石粒(少)	良	灰	灰白	回転ナデ ヘラケズリ後回転ナ デ	ロクロ打こ欠け 7世紀後半 TK209並行期	
第18回	54	3号前部 No.3, 102 4号前部 4号前部	3号墓 前底部	須恵器	环身	受部径12.0 器高3.7+	細砂粒(少) 白色粒(少)	良	灰	灰黃	回転ナデ ヘラケズリ後ナデ 回転ナデ	ロクロ打こ欠け 7世紀後半 TK43並行期 No.43と同一產地	
第18回	55	一括	3号墓 前底部	須恵器	环身	口径12.8 残存高3.2+	細砂粒(少) 良石(少) 小石粒(少)	良	灰	灰	回転ナデ ナデ	ロクロ打こ欠け 7世紀後半 TK209並行期 八女産?	
第18回	56	No.144	3号墓 前底部	須恵器	环身	口径10.8 器高4.5	細砂粒(少) 白色粒(少)	良	灰	灰	回転ナデ ナデ	ロクロ打こ欠け 7世紀後半 TK209並行期	
第18回	57	No.113, 一括	3号墓 前底部	須恵器	环身	口径10.5 器高4.0	細砂粒(少) 白色粒(少)	良	灰	灰	回転ナデ ナデ	ロクロ打こ欠け 7世紀後半 TK209並行期	

第2表 土器観察表

3号墓 土器観察表

掲図 番号	遺物 番号	取上番号	出土地点	器種	器形	法量	胎土	焼成	色調		調整		備考
									外画	内画	外画	内画	
第18回 58	一括	3号墓 前庭部	浜恩器	环身	口径10.7 器高4.0	細砂粒(多)	良石(少)	やや 良	灰	灰	回転ナデ ヘラケズリ	回転ナデ ナデ	体部外面にヘラ記号有り 外面腹部付近に自然輪付着 ロクロ右回り ほぼ完形 TK209並行期 八女産?
第19回 59	No.83、101	3号墓 前庭部	浜恩器	环身	口径10.0 器高4.3	細砂粒(多)	良石(少) 雲母(少)	良	灰	灰褐色	回転ヘラケズリ後ナデ	回転ナデ後ナデ	体部外面にヘラ記号有り 切り離し痕は回転ヘラ切り後ナデ 外縁半円板目压痕 ほぼ完形 TK209並行期 八女産?
第19回 60	No.106	3号墓 前庭部	浜恩器	环身	口径10.1 器高4.8	細砂粒(多)	小石粒(少)	やや 良	灰	灰赤	回転ナデ ヘラケズリ	回転ナデ 回転ナデ後ナデ	体部外面にヘラ記号有り ロクロ右回り 完形 TK209並行期 八女産
第19回 61	No.112	3号墓 前庭部	浜恩器	环身	口径10.5 器高4.3	細砂粒(多)	雲母(少)	やや 良	青灰	青灰	回転ナデ ヘラケズリ	回転ナデ ナデ	体部外面にヘラ記号有り ロクロ右回り ほぼ完形 TK43並行期 在地?
第19回 62	No.125	3号墓 前庭部	浜恩器	环身	口径9.2 器高3.7	細砂粒(多)	小石粒(少)	やや 良	灰 赤褐色	灰 にぶい カキ目	回転ナデ ヘラケズリ	回転ナデ ナデ	体部外面にヘラ記号有り ロクロ右回り ほぼ完形 TK209並行期 八女産?
第19回 63	No.116、一括	3号墓 前庭部	浜恩器	环身	口径9.6 器高3.6	細砂粒(少)	良石(少) 小石粒(少)	良	灰黄	灰黄	回転ナデ 回転ヘラケズ リ後ナデ	ナデ	体部外面にヘラ記号有り 切り離し痕は回転ヘラ切り後ナデ TK209並行期 八女産? 口縁部打ち欠き
第19回 64	一括	3号墓 前庭部	浜恩器	环身	口径9.6 器高4.5	細砂粒(多)	良石(少) 小石粒(多)	良	灰褐色	赤褐色	回転ヘラケズリ後回転ナ デ	回転ナデ ナデ	体部外面にヘラ記号有り 切り離し痕は回転ヘラ切り後ナデ ロクロ1/3程度残存 TK43並行期 八女産
第19回 65	No.38	3号墓 前庭部	浜恩器	环身	口径11.5 器高4.2	細砂粒(多)	良石(少) 白色粒(少)	良	灰	灰	回転ナデ	回転ヘラケズリ	体部外面にヘラ記号有り 切り離し痕は回転ヘラ切り ほば完形 TK209並行期 口縁部打ち欠き
第19回 66	渠道部No.61 前庭部No.71	3号墓 前庭部	浜恩器	环身	口径11.2 器高4.0	細砂粒(多)	角閃石(少) 小石粒(少)	良	明オリー ブ灰	白	回転ヘラケズリ後回転ナ デ	回転ナデ	体部外面にヘラ記号有り 切り離し痕は回転ヘラ切り後ナデ ほば完形 TK209並行期 八女産?
第19回 67	No.84	3号墓 前庭部	浜恩器	环身	口径10.7 器高3.9	細砂粒(少)	良石(少) 角閃石(少)	良	灰	灰	回転ヘラケズリ後回転ナ デ	回転ナデ ナデ	体部外面にヘラ記号有り 切り離し痕は回転ヘラ切り後ナデ ロクロ1/3以下欠損 TK209並行期
第20回 68	一括	3号墓 前庭部	浜恩器	环身	口径10.2 器高4.0	細砂粒(多)	角閃石(少) 白色粒(少)	良	灰白	灰 オリーブ	回転ヘラケズリ後回転ナ デ	回転ナデ	体部外面にヘラ記号有り 切り離し痕は回転ヘラ切り後ナデ ほば完形 TK209並行期 口縁部打ち欠き
第20回 69	一括	3号墓 前庭部	浜恩器	环身	口径10.3 器高4.0	細砂粒(多)	良石(少) 小石粒(少)	良	褐灰	褐灰	回転ナデ ヘラケズリ	回転ナデ ナデ	体部外面にヘラ記号有り 1/3程度欠損 TK209並行期
第20回 70	一括	3号墓 前庭部	浜恩器	环身	口径11.5 器高3.8	細砂粒(多)	良石(少) 小石粒(少)	良	灰黄	灰黄	回転ヘラケズリ後回転ナ デ	回転ナデ ナデ	体部外面にヘラ記号有り 切り離し痕は回転ヘラ切り後ナデ ロクロ1/3以下欠損 TK209並行期
第20回 71	No.129	3号墓 前庭部	浜恩器	环身	口径14.4 器高6.1	細砂粒(多)	良石(少) 雲母(少)	良	棕	棕	回転ナデ カキ目	回転ナデ ナデ	切り離し痕は回転ヘラ切り後ナデ ロクロ1/2以下
第20回 72	No.139	3号墓 前庭部	土師器	高环	残存高2.3+ 底径10.1	細砂粒(多)	角閃石(少) 白色粒(少)	やや 赤褐色	にぶい 赤褐色	アデ	ナデ	ナデ	未発見土器 环部内外面と脚部外面に赤彩 环部上半と脚部のほとんどが欠損
第20回 73	No.110、一括	3号墓 前庭部	土師器	高环	口径 (10.8) 器高11.1 底径10.1	細砂粒(多)	良石(少) 角閃石(少) 白色粒(少)	赤褐色 明赤褐色	赤褐色 灰褐色	霜き後ヨコナデ 殻方向 のヘラカズリ後ヨコナデ	霜き後ヨコナデ ハラカ ズリ後ヨコナデ	霜き後ヨコナデ 殻方向 のヘラカズリ後ヨコナデ	輪部1/6程度残存 脚部2/3程度残存
第20回 74	No.98	3号墓 前庭部	浜恩器	高环	口径 (14.6) 残存高6.7+ 底径6.7+	細砂粒(多)	角閃石(少) 白色粒(少)	良	棕	棕	回転ナデ	回転ナデ ナデ	ロクロ1/3程度残存 脚部は途々迄残存
第20回 75	No.129、一括	3号墓 前庭部	土師器	高环	口径 (14.4) 残存高4.0+ 底径6.7+	細砂粒(多)	良石(少) 雲母(少)	良	棕 浅黄褐色	浅黄褐色	回転ナデ	回転ナデ	脚部のみ残存 稀有名器形
第20回 76	No.78	3号墓 前庭部	土師器	高环	口径 (10.8) 器高11.1 底径12.5	細砂粒(多)	角閃石(少) 白色粒(少)	やや 良	灰 洗黄褐色	洗黄褐色	輪方向のヘラカズリ後タ ナデ カコナデ	ヘラカズリ後ヨコナデ	脚部のみ残存
第20回 77	No.124	3号墓 前庭部	土師器	高环	口径 (14.6) 残存高6.5+ 底径10.4	細砂粒(多)	角閃石(少) 白色粒(少)	良	赤褐色 赤褐色	赤褐色 赤褐色	手縫ナデ 脚部ヘラカズ リ後ヨコナデ	手縫ナデ ナデ	内面とも赤彩の跡跡がある ロクロ1/2程度欠損
第20回 78	No.43	3号墓 前庭部	浜恩器	高环	口径 (16.0) 器高16.7 底径13.8	細砂粒(多)	角閃石(少) 小石粒(少)	良	黄褐色	黄褐色	回転ナデ カキ目	ナデ	ロクロ1/2程度欠損
第21回 79	No.136、一括	3号墓 前庭部	浜恩器	高环	口径 (11.2) 器高16.0 底径15.1	細砂粒(多)	角閃石(少) 白色粒(少)	やや 良	灰 洗黄褐色	洗黄褐色	輪方向のヘラカズリ後タ ナデ カコナデ ヨコナデ	ヨコナデ	脚部のみ残存
第21回 80	No.147	3号墓 前庭部	土師器	高环	口径 (11.1) 残存高7.1+ 底径10.2	細砂粒(多)	良石(多) 角閃石(少) 白色粒(少)	良	棕 洗黄褐色	洗黄褐色	輪方向のヘラカズリ後ヨ コナデ	ヘラカズリ後ナデ	环部と脚部の内外面に赤彩 环部欠損
第21回 81	一括	3号墓 前庭部	土師器	高环	口径 (14.0) 残存高4.0+ 底径14.6	細砂粒(多)	良石(多) 雲母(少)	やや 良	棕 洗黄褐色	洗黄褐色	手縫ナデ 脚部ヘラカズ リ後ヨコナデ	ヨコナデ	内面とも赤彩の跡跡がある ロクロ1/3程度欠損
第21回 82	一括	3号墓 前庭部	浜恩器	高环	口径 (16.7) 残存高5.5+ 底径15.5	細砂粒(多)	角閃石(少) 白色粒(少)	良	棕 洗黄褐色	洗黄褐色	回転ナデ カキ目	ナデ	脚部外面下にヘラ記号有り 自然輪付着 ロクロ右回り 未発見土器
第21回 83	一括	3号墓 前庭部	土師器	高环	口径 (15.7) 残存高6.0+ 底径16.0	細砂粒(多)	角閃石(少)	良	明赤褐色 明赤褐色	明赤褐色 明赤褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	内面とも赤彩 未発見土器、底部欠損
第21回 84	No.138	3号墓 前庭部	浜恩器	麦	口径 (6.2) 器高7.1 底径8.3	細砂粒(多)	良石(少) 白色粒(少)	良	灰 暗緑色灰	灰	回転ナデ	回転ナデ ナデ	外腹側部にヘラ記号有り 脚部は途々迄残存
第21回 85	No.146	3号墓 前庭部	浜恩器	麦	口径 (7.0) 残存高5.5 底径8.5	細砂粒(多)	良石(少)	やや 良	暗緑色	暗緑色	回転ナデ ヘラカズリ	回転ナデ	脚部外面下にヘラ記号有り 自然輪付着 ロクロ右回り 完形
第21回 86	一括	3号墓 前庭部	土師器	麦	口径 (9.3) 残存高5.2+ 底径8.5	細砂粒(多)	雲母(少)	良	赤褐色	棕	ヨコナデ	ヨコナデ タテナデ	脚部半円衝所に透かし有り 环部外腹下方にカキ目後縁描き カキ目後縁描き ヨコナデ
第21回 87	No.39	3号墓 前庭部	浜恩器	平瓶	口径5.7+ 底径10.2 脚部径12.4	細砂粒(多)	角閃石(少) 白色粒(少)	良	灰 淡黄褐色	淡黄褐色	輪方向のヘラカズリ後ヨ コナデ	ヨコナデ	外腹側部にヘラ記号有り 底部欠損
第21回 88	一括	3号墓 前庭部	土師器	麦	口径5.9+ 底径17.7+ 脚部径14.8	細砂粒(多)	良石(少) 角閃石(少) 白色粒(少)	やや 良	棕 洗黄褐色	洗黄褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	脚部外面に指紋有り 可能性がある
第21回 89	前庭部No.36 道路中央一括	3号墓 前庭部	浜恩器	麦	口径12.6 残存高11.0+ 底径11.5	細砂粒(多)	良石(少)	良	にぶい 棕 洗黄褐色	洗黄褐色	回転ナデ	回転ナデ	脚部外面下にヘラ記号有り 自然輪付着 ロクロ右回り 未発見土器
第21回 90	No.79、123	3号墓 前庭部	浜恩器	麦	口径 (13.5) 残存高12.7 底径17.2	細砂粒(多)	良石(少)	良	灰 赤褐色	赤褐色	回転ナデ ヘラカズリ	シボリ痕有り	脚部を巡らせる ロクロ右回り 内腹側部下まで赤彩 脚部~脚部底迄残存
第22回 91	No.131、132	3号墓 前庭部	浜恩器	环	口径8.5 器高2.8	細砂粒(多)	小石粒(少) 白色粒(少)	やや 良	にぶい 黄褐色	黄褐色	回転ナデ後回転ナ デ カキ目	ヨコナデ	外腹側部にヘラ記号有り 底部欠損
第22回 92	No.65	3号墓 渡越	浜恩器	环身	口径9.7 器高3.4	細砂粒(多)	良石(少)	やや 良	灰	暗褐色	回転ナデ ヘラカズリ	回転ナデ ナデ	脚部外面に四隅部に多くの沈線を有する ロクロ右回り 脚部欠損 高台が付く可能性がある
第22回 93	No.68	3号墓 渡越	浜恩器	环身	口径10.9 器高4.4	細砂粒(多)	小石粒(少) 精良	不良	灰白	灰白	回転ナデ後回転ナ デ カキ目	ヨコナデ	脚部外面下にヘラ記号有り 1/3程度欠損
第22回 94	No.64	3号墓 渡越	浜恩器	环身	口径10.4 器高3.6	細砂粒(多)	良石(少)	やや 良	灰	灰	回転ナデ ヘラカズリ	回転ナデ ナデ	体部外面にヘラ記号有り ロクロ右回り
第22回 95	No.63	3号墓 渡越	浜恩器	环身	口径9.0 器高4.6	細砂粒(多)	小石粒(少) 白色粒(少)	良	赤褐色	褐灰	回転ナデ ヘラカズリ	回転ナデ ナデ	ロクロ右回り ほぼ完形
第22回 96	No.27、61、一括	3号墓 渡越	浜恩器	环身	口径 (10.4) 残存高1.0+ 底径 (7.4)	細砂粒(多)	角閃石(少) 器高4.1	良	赤褐色 黑褐色	暗褐色	回転ナデ後回転ナ デ カキ目	ナデ	ロクロ右回り 1/3程度欠損
第22回 97	No.57	3号墓 渡越	浜恩器	罐	口径5.6 残存高11.1 底径11.1	細砂粒(多)	小石粒(少)	良	灰	灰	回転ナデ カキ目 ケズ リ後ナデ	ナデ	脚部~全部分程度欠損
第22回 98	No.54、一括	3号墓 渡越	土師器	环身	口径 (14.2) 残存高5.5+ 底径 (7.3)	細砂粒(多)	白色粒(少)	良	にぶい 黄褐色	黄褐色	ヘラカズリ後ナデ ナデ	ミガキ	ロクロ右回り 1/3程度欠損
第22回 99	No.56	3号墓 渡越	浜恩器	麦	口径 (12.3) 残存高15.3	細砂粒(多)	良石(少)	やや 良	灰褐色	灰褐色	カキ目後縁描き波状文 カキ目 回転ナデ	ナデ	脚部~脚部底迄残存 ロクロ右回り
第22回 100	No.55	3号墓 渡越	浜恩器	麦	口径7.8 胸部径14.4 器高17.3	細砂粒(多)	小石粒(少)	良	灰	灰	回転ナデ カキ目	回転ナデ	脚部~脚部底迄残存
第23回 101	No.127、一括	3号墓 前庭部	浜恩器	麦	口径35.5 残存高15.0+ 底径 (7.4)	細砂粒(多)	良石(少)	良	浅黄褐色	浅黄褐色	ナデ	ナデ	外腹側部に波状文と横縞波状文有り ロクロ右回り 1/3程度欠損
第23回 102	No.130、一括	3号墓 前庭部	浜恩器	麦	口径23.8 胸部径4.36 器高46.5	細砂粒(多)	良石(少)	良	青灰	暗青灰	ロクロ右回り 1/3程度欠損	ナデ	ロクロ右回り 1/3程度欠損
第23回 103	一括	3号墓 前庭部	土師器	麦	口径 (7.4) 胸高1.2 器高5.6	細砂粒(多)	雲母(少)	やや 良	にぶい 黄褐色	黄褐色	回転ナデ	ナデ	ロクロ右回り 1/3程度欠損
第23回 104	一括	3号墓 前庭部	土師器	麦	口径 (8.5) 胸高1.4 器高5.6	細砂粒(多)	雲母(少)	やや 良	にぶい 黄褐色	黄褐色	ナデ	ナデ	ロクロ右回り 1/4程度欠損
第23回 105	一括	3号墓 前庭部	土師器	麦	口径 (7.6) 胸高1.3 器高5.6	細砂粒(多)	雲母(少)	やや 良	にぶい 黄褐色	黄褐色	ナデ	ナデ	ロクロ右回り 1/4程度欠損
第23回 106	一括	3号墓 前庭部	土師器	麦	口径 (7.4) 胸高1.1+ 器高5.0	細砂粒(多)	雲母(少)	不良	にぶい 黄褐色	黄褐色	回転ナデ	ナデ	ロクロ右回り 1/4程度欠損
第23回 107	No.8. 9、一括	3号墓 通路	浜恩器	高台付焼	口径12.8 残高7.2 高台付 (7.6)	細砂粒(多)	角閃石(少) 白色粒(少)	良	にぶい 黄褐色	黄褐色	回転ナデ	ナデ	高台内の切り離し痕は回転ヘラ切り後ナデ ロクロ右回り 1/3程度欠損 高台部1/6程度残存 9世紀?
第23回 108	一括	3号墓 前庭部	土師器	环?	口径 (7.6) 器高2.6 底径9.0	細砂粒(多)	良石(少) 白色粒(少)	良	淡黄褐色	淡黄褐色	回転ナデ	ヨコナデ ナデ	ロクロ右回り 1/3程度欠損
第23回 109	一括	3号墓 前庭部	土師器	麦	口径 (15.6) 器高2.6 底径 (12.9)	細砂粒(多)	白色粒(少)	不良	淡黄褐色	淡黄褐色	ヨコナデ ナデ	ナデ	ロクロ右回り 1/3程度欠損

5号墓 土器観察表

掲図 番号	遺物 番号	取上番号	出土地点	器種	器形	法量	胎土	焼成	色調	外 面	内 面	調整	備考
第28回 1	No.60、一括	5号墓 前庭部	浜恩器	环身	口径11.6 器高4.1	細砂粒(多)	小石粒(少)	良	灰白色	灰白色	回転ナデ	ナデ	ロクロ右回り ほぼ完形 TK43並行期
第28回 2	No.48	5号墓 前庭部	浜恩器	环身	口径13.4 器高4.0	細砂粒(多)	良石(少)	良	灰白	灰白	回転ナデ ヘラカズリ	ナデ	ロクロ右回り 完形 TK43並行期
第28回 3	No.92	5号墓 前庭部	浜恩器	环身	口径14.6 器高4.9	細砂粒(多)	雲母(少)	良	灰白	灰白	回転ナデ ヘラカズリ		

第2表 土器観察表

5号墓 土器観察表

探査 番号	通物 番号	取上番号	出土地点	器種	器形	法量	胎土	焼成	色調		調整		備考
									外面	内面	外面	内面	
第28段	5	No.50	5号墓 前庭部	須恵器	壺蓋	口径12.2 高さ4.5	細砂粒(多) 精良	やや 良	灰白	灰白	回転ナデ ヘラケズリ	回転ナデ ナデ	体部外面にへう記号有り ロクロ右回り ほぼ完形 TK43並行期
第28段	6	No.28, 51, 56 82, 一括	5号墓 前庭部	須恵器	壺蓋	口径13.8 高さ4.5	細砂粒(多) 白色小石(多)	良	赤褐色	赤褐色	回転ナデ 天井部回転ナ デ後ヘラケズリ	回転ナデ ナデ	体部外面にへう記号有り ロクロ左回り ほぼ完形 MT85並行期
第28段	7	No.58, 一括	5号墓 前庭部	須恵器	壺蓋	口径11.2 高さ3.8	白色細砂粒(多) 白色小石(少)	良	灰	灰	回転ナデ	回転ナデ ナデ	体部外面にへう記号有り ロクロ左回り 口縁部1/6程度欠損 TK217並行期
第28段	8	No.57	5号墓 前庭部	須恵器	壺身	口径11.3 高さ4.5	細砂粒(多) 小石粒(多)	やや 良	にぶい 赤褐色	回転ナデ ヘラケズリ後 ナデ	回転ナデ ナデ	ロクロ右回り ほぼ完形 TK43並行期	
第28段	9	No.26	5号墓 前庭部	須恵器	壺身	口径11.9 高さ4.9	細砂粒(多)	やや 良	灰白	灰白	回転ナデ ヘラケズリ	回転ナデ ナデ	ロクロ右回り 完形 TK43並行期
第28段	10	No.60	5号墓 前庭部	須恵器	壺身	口径11.8 残存高3.0+	細砂粒(多)	良	灰	暗紅	回転ナデ	回転ナデ	口縁部1/3以下 八女産?
第28段	11	No.27	5号墓 前庭部	須恵器	壺身	口径10.7 高さ4.2	細砂粒(多)	やや 良	暗赤褐色	暗赤褐色	回転ナデ ヘラケズリ	回転ナデ ナデ	体部外面にへう記号有り 体部外面に自然釉付着 ロクロ右回り 完形 TK43並行期 八女産
第28段	12	No.52	5号墓 前庭部	土師器	壺身	口径13.0 高さ3.3	細砂粒(多) 霧母(少)	良	にぶい 良	にぶい霧 母(少)	回転ナデ ヘラケズリ後 ナデ	回転ナデ ナデ	残存度1/2
第28段	13	No.58	5号墓 前庭部	土師器	壺身	口径12.6 残存高5.3+	細砂粒(多)	やや 良	明赤褐色 浅黄褐色	明赤褐色 浅黄褐色	横方向の磨き	横方向の磨き	内外面とも赤彩 ロ縁部1/2以上
第28段	14	No.22, 50, 一括	5号墓 前庭部	土師器	壺身	口径11.8 高さ3.8	細砂粒(多) 白色粒(少) 雲母(少)	良	淡黃 良	淡黃 良	ヨコナデ ヘラケズリ後 ナデ	ヨコナデ ナデ	内外面に僅かに黒ウルシ塗布の痕跡有り ロ縁部1/4程度欠損
第28段	15	No.93	5号墓 前庭部	土師器	壺身	口径12.6 高さ4.6	細砂粒(多) 長石(少) 白色粒(多) 雲母(多)	良	にぶい 良	黒 良	手持ちヘラケズリ後不定 方向のナデ	ヨコナデ 不定向のナ デ	内外面に黒ウルシ塗布の痕跡有り 内面にへう記号有り 完形
第29段	16	No.55	5号墓 前庭部	須恵器	高環	径高(9.4) 残存高6.2+	細砂粒(多) 白色粒(多)	良	灰白色	灰白色	回転ナデ	回転ナデ	脚部にカス有り 外面に一条の弦線を逃らせる ロクロ右回り 环部欠損 脚部1/2残存
第29段	17	No.25, 一括	5号墓 前庭部	須恵器	高環	残存高9.9+	細砂粒(多) 白色粒(多)	良	淡黃褐色	淡黃褐色	回転ナデ カキ目 シボリ盛り有り	回転ナデ	环部上半欠損 底部欠損
第29段	18	No.23	5号墓 前庭部	土師器	台付小型壺	口径4.5 器高8.8 底径7.3	細砂粒(多) 褐色粒(少) 雲母(少)	やや 良	淡黃褐色 明赤褐色	淡黃褐色 明赤褐色	手持ちヘラズリ後ナデ 腹方向のカクシ後ナデ	ナデ	内面に赤彩の痕跡が有る 腹部にシリコン痕が有る ほぼ完形
第29段	19	No.24, 一括	5号墓 前庭部	土師器	短頸壺	口径10.6 壶部径14.5 高さ12.2	細砂粒(多) 黒褐色粒(多) 雲母(少)	良	橙	淡黃 良	ミガキ ハンドルヘラケズ リ後磨き カキ目	ミガキ	外面部と口縫部内面に化粧土塗布 内面にへう記号有り 完形
第29段	20	No.59, 一括	5号墓 前庭部	須恵器	壺	口径(20.2) 壶部径39.3 高さ42.5	細砂粒(少) 白色粒(多)	良	灰白	暗紅	ナデ 平行タキ	平行タキ後丁寧なナデ	ロ縁部1/2程度欠損
第30段	21	No.64, 65, 一括	5号墓 前庭部	須恵器	壺蓋	口径14.2 高さ4.7	細砂粒(多) 小石粒(多) 角閃 石(多) 白色粒(多) 雲母(多)	良	褐 良	褐 良	回転ナデ ヘラケズリ後回転ナ デ	回転ナデ	ロ縁部1/2程度残存 体部はほぼ残存 内面に化粧土塗布の痕跡が有る
第30段	22	No.31	5号墓 前庭部	須恵器	壺身	口径12.1 高さ3.9	細砂粒(多)	やや 良	灰白	暗褐色 暗褐色	回転ナデ ヘラケズリ	回転ナデ ナデ	体部外面にへう記号有り ロクロ右回り ほぼ完形 TK43並行期 八女産?
第30段	23	No.33, 一括	5号墓 前庭部	須恵器	壺蓋	口径12.2 高さ3.6	細砂粒(多) 白色小石(少)	良	にぶい 良	赤褐色 赤褐色	回転ナデ ヘラケズリ 天井部回転ナデ	回転ナデ ナデ	体部外面にへう記号有り ロクロ右回り ロ縁部1/2程度欠損 TK43並行期~TK209並行期 八女産?
第30段	24	No.95	5号墓 前庭部	須恵器	壺身	口径12.2 高さ4.4	細砂粒(多)	やや 良	灰白	灰白	回転ナデ ヘラケズリ	回転ナデ ナデ	ロクロ右回り ハンドル一部欠損 TK43並行期 口縫部打こみ欠
第30段	25	No.29	5号墓 前庭部	須恵器	壺身	口径12.0 高さ4.7	細砂粒(多) 角閃石(少) 雲母(少)	不良	灰白	灰白	回転ナデ ヘラケズリ	回転ナデ ナデ	ロクロ右回り 环部一部欠損 TK43並行期~TK209並行期
第30段	26	No.94	5号墓 前庭部	須恵器	壺身	口径12.5 高さ5.9	細砂粒(多)	やや 良	にぶい 良	回転ナデ ヘラケズリ	回転ナデ	ロクロ右回り ケズリ時は左回り ほぼ完形 MT85並行期	
第30段	27	No.32	5号墓 前庭部	須恵器	壺蓋	口径10.5 高さ4.0	細砂粒(多) 小石粒(多)	やや 良	青灰	青灰	回転ナデ ヘラケズリ	回転ナデ ナデ	体部外面にへう記号有り ロクロ右回り ほぼ完形 TK43並行期~TK209並行期
第30段	28	No.30	5号墓 前庭部	須恵器	壺身	口径11.0 高さ4.9	細砂粒(多)	やや 良	灰白	灰白	回転ナデ ヘラケズリ	回転ナデ ナデ	体部外面にへう記号有り ロクロ右回り ほぼ完形 TK43並行期 八女産?
第30段	29	No.66	5号墓 前庭部	須恵器	壺	口径10.6 高さ5.9	細砂粒(多)	やや 良	灰白	灰白	回転ナデ ヘラケズリ	回転ナデ ナデ	ロクロ右回り 1/4程度欠損 TK43並行期?
第30段	30	No.67, 68, 69, 70 一括	5号墓 前庭部	須恵器	高環	口径15.0 器高13.1 底径10.2	細砂粒(多) 小石粒(多) 白色粒(少) 雲母(多)	良	橙	橙	回転ナデ 环部下カキ 目後ナデ シボリ盛り有り	回転ナデ ナデ	ロ縁部1/4以上欠損 脚部1/4程度欠損
第30段	31	No.69, 一括	5号墓 前庭部	須恵器	横瓶	口径28.7 高さ28.7	細砂粒(少) 角閃石(少) 白色粒(少)	良	灰白	灰白	回転ナデ シボリ盛り有り	回転ナデ	ロ縁部外面にへう記号有り ロクロ右回り ロ縁部1/10程度欠損
第30段	32	No.68, 一括	5号墓 前庭部	土師器	高環	口径15.4 残存高9.8+	細砂粒(多) 長石(少) 白色粒(少) 雲母(多)	やや 良	淡黃褐色	淡黃褐色	タナデ後ナデ	タナデ後ナデ	外縫部欠損 裂け口1/10程度欠損 外面に赤彩の痕跡がすかに残る
第31段	33	No.45, 一括	5号墓 前庭部	須恵器	壺蓋	口径14.9 高さ5.5	細砂粒(多) 小石粒(少) 白色粒(少)	良	灰黃褐色	灰黃褐色	回転ナデ ヘラケズリ後回転ナ デ	回転ナデ	切り離し痕は回転ヘラ切り ほぼ完形 TK43並行期 八女産?
第31段	34	No.43	5号墓 前庭部	須恵器	壺蓋	口径12.6 高さ4.5	細砂粒(多)	やや 良	灰白	暗紅	回転ナデ ヘラケズリ	回転ナデ ナデ	体部外面にへう記号有り ロクロ右回り ほぼ完形 TK43並行期?
第31段	35	No.44	5号墓 前庭部	須恵器	壺身	口径10.5 高さ3.9	細砂粒(多) 角閃石(少) 白色粒(少)	やや 良	にぶい 白	黒褐色 白	回転ナデ ヘラケズリ	回転ナデ ナデ	体部外面にへう記号有り ロクロ右回り ほぼ完形 TK43並行期
第31段	36	No.39, 42	5号墓 前庭部	須恵器	壺	口径12.0 残存高5.1+	細砂粒(多) 白色粒(多)	良	灰	灰	回転ナデ	回転ナデ	ロ縁部1/2以下 脚部に欠損
第31段	37	No.45, 一括	5号墓 前庭部	須恵器	壺	残存高3.8+	細砂粒(多) 白色粒(多)	良	暗青灰 暗褐色	暗褐色	回転ナデ ヘラケズリ後回転ナ デ	回転ナデ	底部付近残存
第31段	38	No.74, 一括	5号墓 前庭部	土師器	高環	口径(13.7) 残存高7.1+	細砂粒(多) 白色粒(少) 雲母(少)	良	明赤褐色 浅黃褐色	明赤褐色 浅黃褐色	鏡面のヘラケズリ後ヨコナデ 外縫部打こみ	ヨコナデ ヘラケズリ後ヨコナデ	鏡面のヘラケズリ後ヨコナデ 外縫部打こみ
第31段	39	No.74, 一括	5号墓 前庭部	土師器	高環	口径13.0 残存高7.1+	細砂粒(多) 白色粒(多) 雲母(少)	やや 良	にぶい 白	灰褐色 黑褐色	ヨコナデ ヘラケズリ後ナデ ヘラズリ	ヨコナデ ヘラケズリ後ナデ ヘラズリ	外縫部に赤彩の痕跡有り 脚部欠損 底部1/5程度欠損
第31段	40	No.74-1括	5号墓 前庭部	土師器	高環	口径12.6 器高13.0 残存高7.1+	細砂粒(多) 長石(少) 雲母(少)	やや 良	明赤褐色 深黃褐色	明赤褐色 深黃褐色	手持ちヘラケズリ後ナデ 腹方向のケズリ後ナデ	ヨコナデ ヘラケズリ後ナデ ヨコナデ ヘラケズリ後ナデ	外縫部背面と脚部外縫部に赤彩 脚部ケズリ後ナデ
第31段	41	No.98	5号墓 前庭部	須恵器	壺	口径13.6 高さ13.6	細砂粒(多) 小石粒(少)	良	暗青灰 暗褐色	暗青灰 暗褐色	回転ナデ カキ目 ケズリ	回転ナデ ナデ	脚部外面にへう記号有り ロクロ右回り ほぼ完形 TK43並行期
第31段	42	No.96	5号墓 前庭部	須恵器	壺	口径13.3 高さ15.5	細砂粒(少) 小石粒(少)	良	褐	褐	回転ナデ カキ目 ケズリ後ナデ	回転ナデ	脚部外面にへう記号有り ロクロ右回り 体部1/2程度欠損 TK43並行期 八女産?
第31段	43	No.97	5号墓 前庭部	須恵器	壺	口径12.4 高さ17.3	細砂粒(多)	良	灰	灰	回転ナデ ヘラケズリ 整不明瞭	回転ナデ ナデ	脚部にカス有り 脚部外面にカス有り 脚部にカキ目後烈点文を逃らせる 高さ1/2ニード所穿孔を施す ロクロ左回り ロ縁部1/2欠損
第31段	44	No.73	5号墓 前庭部	須恵器	壺	口径12.4 高さ14.8	細砂粒(多) 黒褐色粒(少) 赤褐色粒(少)	良	灰	灰	回転ナデ ヘラケズリ カキ目	回転ナデ ナデ	脚部外面にへう記号有り 脚部のカス所に穿孔を施す 上に烈点文を施らせる ロクロ右回り 体部1/3欠損 TK43並行期
第32段	45	No.89、一括	5号墓 前庭部	須恵器	壺蓋	口径12.8 高さ3.8	白色細砂粒(多) 白色小石(多)	良	灰	灰	回転ナデ	回転ナデ ナデ	ロクロ右回り ほぼ完形 TK43並行期
第32段	46	No.81、一括	5号墓 前庭部	須恵器	壺蓋	口径13.4 高さ3.8	細砂粒(多) 白色小石(少)	良	灰白色	灰白色	回転ナデ	回転ナデ	ロクロ右回り 1/4程度欠損
第32段	47	一括	5号墓 前庭部	須恵器	壺蓋	口径12.6 残存高3.4+	細砂粒(少)	良	灰	灰	回転ナデ	回転ナデ	脚部外面にへう記号有り 脚部打こみ
第32段	48	一括	5号墓 前庭部	須恵器	壺蓋	口径14.2 高さ4.2	細砂粒(多) 雲母(多)	良	灰白	灰白	回転ナデ ヘラケズリ後回転ナ デ	回転ナデ ナデ	脚部外面にへう記号有り ロクロ右回り ロ縁部1/5程度欠存
第32段	49	一括	5号墓 前庭部	須恵器	壺蓋	口径12.4 高さ3.3	白色細砂粒(多) 小石粒(少)	良	にぶい 赤褐色	回転ナデ ヘラケズリ後ナデ	回転ナデ ナデ	脚部外面にへう記号有り ロクロ右回り 1/2程度欠損 TK209並行期?	
第32段	50	一括	5号墓 前庭部	須恵器	壺蓋	口径12.2 高さ3.9	細砂粒(多) 白色小石(少)	良	灰	灰	回転ナデ	回転ナデ ナデ	脚部外面にへう記号有り ロクロ右回り ロ縁部1/3程度欠損 TK209並行期
第32段	51	一括	5号墓 前庭部	土師器	壺身	受部径(13.6) 高さ4.4	細砂粒(多)	良	浅黃褐色	浅黃褐色	回転ナデ ヘラケズリ	回転ナデ	脚部外面にへう記号有り ロクロ右回り ロ縁部1/2程度欠存
第32段	52	No.74、78、一括	5号墓 前庭部	須恵器	壺蓋	口径14.0 高さ5.4	細砂粒(多) 小石粒(少)	良	荷	荷	回転ナデ	回転ナデ ナデ	脚部外面にへう記号有り ロクロ右回り ロ縁部1/2程度欠損 TK209並行期?
第32段	53	No.80、一括	5号墓 前庭部	須恵器	壺蓋	口径13.0 高さ4.2	細砂粒(多) 白色小石(多)	良	灰	灰	回転ナデ	回転ナデ ナデ	内面にへう記号有り ロクロ右回り ほぼ完形 TK43並行期 牛頭座?
第32段	54	No.63	5号墓 前庭部	土師器	壺蓋	口径14.0 高さ4.1	細砂粒(多) 長石(少) 小石粒(少) (少)白色粒(少) 雲母(少)	良	にぶい 白	にぶい 白	ヨコナデ テ	ヨコナデ ナデ	内面にてもう1層ウルシ塗布の痕跡が有る ロ縁部の一部欠損 内面にへう記号有り
第32段	55	No.1-括	5号墓 前庭部	須恵器	壺身	口径12.0 器高4.0 高さ4.0	細砂粒(少) 小石粒(少)	良	灰	灰	回転ナデ ヘラケズリ	回転ナデ ナデ	白色小石を多く含む ロクロ左回り ロ縁部1/2程度欠損 TK43並行期
第32段	56	No.76	5号墓 前庭部	須恵器	壺身	口径11.4 高さ4.6	細砂粒(多)	やや 良	灰白	灰白	回転ナデ ヘラケズリ	回転ナデ ナデ	受部付に薄く自然付着 ロクロ右回り 完形 TK43並行期
第32段	57	No.59	5号墓 前庭部	須恵器	壺身	口径10.8 高さ4.1	細砂粒(多) 白色小石(多)	良	灰	灰	回転ナデ	回転ナデ ナデ	ロクロ右回り 1/2程度欠存 TK43並行期~TK209並行期
第33段	58	No.56	5号墓 前庭部	須恵器	壺身	口径10.4 高さ4.0	細砂粒(多)	やや 良	灰白	灰白	回転ナデ ヘラケズリ	回転ナデ ナデ	脚部外面にへう記号有り ロクロ右回り ロ縫部打ち欠 け ほぼ完形 TK43並行期 八女産?
第33段	59	No.70	5号墓 前庭部	須恵器	壺身	口径10.4 高さ4.0	細砂粒(多)	良	荷	荷	回転ナデ ヘラケズリ	回転ナデ ナデ	脚部外面にへう記号有り ロクロ右回り TK209並行期
第33段	60	No.88	5号墓 前庭部	須恵器	壺身	口径9.5 高さ3.3	細砂粒(多) 角閃石(少)	やや 良	荷	荷	回転ナデ	回転ナデ ナデ	脚部外面にへう記号有り 切り離し痕は回転ヘラ切り ロ縫部1/2程度欠損 TK209並行期
第33段	61	No.47	5号墓 前庭部	須恵器	壺身	口径10.0 器高3.1 高さ3.4	細砂粒(多) 白色小石(少)	良	明綠灰	明綠灰	回転ナデ	回転ナデ ナデ	脚部外面にへう記号有り ロクロ右回り 1/3程度欠損 TK217並行期

第2表 土器観察表

5号墓 土器観察表

探査 番号	遺物 番号	取上番号	出土地点	器種	器形	法量	胎土	焼成	色調		調 整		備 考
									外 面	内 面	外 面	内 面	
第33回	63	一括	5号墓 前庭部	須恵器	环身	口径(9.4) 残存高3.2+	細砂粒(多) 白色粒(多)	良	オーリーブ 灰	にぶい緑	回転ナデ	回転ナデ	体部外面にへア記号有り 口縁部/3段程度残存 TK43並行期~TK209並行期 八女産?
第33回	64	No.22、一括	5号墓 前庭部	須恵器	环身	口径10.8 高さ4.1	細砂粒(多)	良	灰	灰白色	回転ナデ	回転ナデ 後廻き	体部外面にへア記号有り ロクロ右回り 1/4程度欠損 TK43並行期 八女産?
第33回	65	No.50	5号墓 前庭部	須恵器	环身	口径10.6 高さ4.9	細砂粒(多) 小石粒(多)	良	灰白色	明瞭灰	回転ナデ 後廻き	回転ナデ	体部外面にへア記号有り ロクロ右回り ほぼ完形 TK43並行期~TK209並行期 八女産?
第33回	66	No.41、一括	5号墓 前庭部	須恵器	环身	口径11.4 高さ4.9	細砂粒(多)	良	灰白色	灰白色	回転ナデ	回転ナデ 後へ ラズミ	体部外面にへア記号有り ロクロ右回り 口縁部/5段程度欠損 TK43並行期 八女産?
第34回	67	一括	5号墓 前庭部	須恵器	环身	口径(11.4)	細砂粒(多) 石英(少) 骨粉(少)	良	灰	灰	回転ナデ	回転ナデ	ロクロ右回り 体部外面にへア記号有り 口縁部/7段程度欠損
第34回	68	一括	5号墓 前庭部	須恵器	环身	口径(11.0)	細砂粒(多) 長石(少)	良	淡黄褐色	淡黃褐色	回転ナデ	ナデ	切り離し痕は回転ナデで切り後ナデ ロクロ右回り 内面部剥離部有り 残存度1/3
第34回	69	一括	5号墓 前庭部	土師器	环身	口径(12.0)	細砂粒(多) 石英(少) 骨粉(少)	良	にぶい緑 明赤褐色	にぶい緑	回転ナデ	回転ナデ	内面部赤彩 調整した内面とも画面開けの為不明瞭 底部欠損 残存度1/3
第34回	70	一括	5号墓 前庭部	土師器	环身	口径11.4 高さ4.7	細砂粒(多) 白色粒(少)	やや 良	燒 褐 黑	にぶい黄 明赤褐色	回転ナデ	ヘラケズリ後 ナデ	内面部外縁部に黒ウルン塗布の痕跡有り 口縁部/2段程度欠損
第34回	71	No.52、一括	5号墓 前庭部	土師器	环身	口径(10.8)	細砂粒(多) 白色粒(少)	良	褐灰	にぶい緑	回転ナデ	ヘラケズリ後 ナデ	内面部外縁部に黒ウルン塗布の土器 受部/底部1/2以上残存
第34回	72	No.88	5号墓 前庭部	土師器	环身	口径(10.8) 高さ4.5	細砂粒(多) 石英(少) 骨粉(少)	良	褐灰	にぶい緑	回転ナデ	ナデ 後廻き	内面部外縁部に黒ウルン塗布の土器 口縁部/1段程度欠損
第34回	73	No.62、一括	5号墓 前庭部	土師器	环身	口径(12.4) 高さ3.8	細砂粒(多)	やや 良	褐灰 黑褐色	にぶい黄 黒	回転ナデ	ナデ	口縁部/底部板片
第34回	74	一括	5号墓 前庭部	土師器	环身	口径(12.4)	細砂粒(多)	やや 良	褐灰 黑褐色	にぶい黄 黒	回転ナデ	ナデ	内面にへア記号有り 内面~外縁部に黒ウルン塗布の痕跡 有り 残存度1/5以下
第34回	75	No.59、60、一括	5号墓 前庭部	須恵器	高环	口径13.4 底径11.0 高さ15.4	細砂粒(多)	良	灰白	灰白	回転ナデ	カキ目	脚部の口縁部に沈線跡を有する 环部に沈線跡に凹線 二条を有らせる ロクロ右回り 口縁部/2段程度 指輪部の一部欠損 环部外面に透かしを開け た際の工具痕が残る TK43並行期
第34回	76	一括	5号墓 前庭部	須恵器	越	口径(10.0) 残存高3.3+	細砂粒(多) 白色粒(多)	良	灰白	灰白	回転ナデ	回転ナデ	外面部口縁部下に一条の沈線を巡らせる 脚部に凹線
第34回	77	No.46	5号墓 前庭部	須恵器	高环	口径(11.4) 残存高3.5+	細砂粒(多) 白色粒(多)	良	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	回転ナデ	カキ目	体部外面下位に一段の凸帯を巡らせる
第34回	78	No.37	5号墓 前庭部	土師器	高环	口径(14.6)	細砂粒(多) 石英(少) 骨粉(少)	良	褐 灰 黑	褐 灰 黑	回転ナデ	ナデ	内面部にも赤彩?
第34回	79	一括	5号墓 前庭部	土師器	高环	口径(12.8)	細砂粒(多) 小石粒(多) 角閃 高さ4.4+	やや 良	淡黄褐色	淡黃褐色	回転ナデ	ヨコナゲ	脚部のみ残存 底部1/2以下 化粧土器部の痕跡がある
第34回	80	一括	5号墓 前庭部	土師器	高环	口径21.0 高さ14.0+	細砂粒(多) 白色粒(多) 骨粉(多)	良	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	ヘラケズリ後方縦方向の磨 き跡ナデ	ナデ	脚部外面に黒ウルン塗布の痕跡有り 环部欠損
第35回	81	一括	5号墓 前庭部	須恵器	短頸壺	口径5.8 残存高6.6+ 脚部径(11.5)	細砂粒(多)	良	灰 黑 黒	にぶい 黄褐色	回転ナデ	カキ目	体部外面にへア記号有り ロクロ右回り 1/2段程度残存
第35回	82	一括	4号墓 前庭部 5号墓 前庭部	須恵器	越	脚部径5.6 残存高6.4+	細砂粒(多) 白色粒(多)	良	灰 褐 灰	灰 褐 灰	回転ナデ	ナデ	脚部の口縁部に三條の細い凸帯を巡らせる 外縁に横描き文 中位に二条の 沈線を有らせる
第35回	83	一括	5号墓 前庭部	須恵器	壺	口径(21.0)	細砂粒(多) 長石(多) 小石粒(多)	良	灰白	カキ目	回転ナデ	ナデ	外縁に横描き文 口縁部1/2以下 体部欠損
第35回	84	No.90	5号墓 前庭部	須恵器	壺	口径6.2+ 高さ4.2+	細砂粒(多) 長石(少)	良	灰	灰	回転ナデ	ナデ	外面部横描き状文及施す 口縁部に自然釉 付着 口縁部破片
第35回	85	一括	5号墓 前庭部	須恵器	甕	口径(16.2) 残存高12.5+	細砂粒(多)	良	灰白	灰白色	回転ナデ	カキ目	脚部外縁に横描き波状文有り
第35回	86	一括	5号墓 前庭部	土師器	壺	口径36.0 高さ4.0	細砂粒(多)	良	褐灰	褐灰	回転ナデ	ナデ	口縁部~肩部1/4残存 口部欠損
第35回	87	一括	5号墓 前庭部	土師器	小型壺	口径(4.0) 残存高4.7+ 脚部径(6.4)	細砂粒(多)	やや 良	淡黄褐色	淡黃褐色	ヨコナゲ	ヘラケズリ後ヨコナゲ	脚台付の可能性有り 底部欠損
第35回	88	一括	5号墓 前庭部	土師器	皿	口径7.7 器高1.4 底径6.2	細砂粒(多) 角閃石(多) 白色粒(多) 骨粉(多)	やや 良	褐 灰 黑	褐 灰 黑	回転ナデ	回転ナデ	切り離し痕は回転系切り 口縁部2/3段程度欠損 中世
第35回	89	一括	5号墓 前庭部	土師器	皿	口径(8.8) 器高1.4 底径(7.6)	細砂粒(多) 角閃石(多) 骨粉(多)	やや 良	にぶい 黄	褐 灰 黑	回転ナデ	回転ナデ	切り離し痕は回転系切り 残存度1/4以下 中世

6号墓 土器観察表

探査 番号	遺物 番号	取上番号	出土地点	器種	器形	法量	胎土	焼成	色調		調 整		備 考
									外 面	内 面	外 面	内 面	
第39回	1	No.9	6号墓 前庭部	須恵器	环	口径12.3 高さ3.8	細砂粒(多) 長石(少) 白色粒(少)	良	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	回転ナデ	回転ナデ	体部外面にへア記号有り 3/4段程度残存 TK209並行期 八女産?
第39回	2	No.5	6号墓 前庭部	須恵器	环身	口径10.4 高さ4.6	細砂粒(多) 小石粒(少) 白色粒(少)	良	灰	灰	回転ナデ	回転ナデ	体部外面にへア記号有り ロクロ右回り 1/4程度残存 TK43並行期 八女産?
第39回	3	No.6	6号墓 前庭部	須恵器	高环	口径16.4 器高11.6 底径10.5	細砂粒(少)	良	灰	灰	回転ナデ	カキ目後回転	回転ナデ
第39回	4	No.3、一括	6号墓 前庭部	土師器	环身	口径4.8 高さ3.8	細砂粒(多) 白色粒(少)	良	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	ヘラケズリ後ナデ	ナデ 磨き	No.5、6と同地点から出土 残存度1/6以下
第39回	5	No.3	6号墓 前庭部	土師器	环身	口径(12.6)	細砂粒(多) 角閃石(少) 白色粒(少) 骨粉(多)	良	褐 灰 黑	にぶい 褐 灰 黑	回転ナデ	タキ目	No.6と同地点から出土 残存度1/2以下
第39回	6	No.3	6号墓 前庭部	土師器	环身	口径(12.8)	細砂粒(多) 角閃石(少) 高さ4.0	良	にぶい 褐 灰 黑	にぶい 褐 灰 黑	回転ナデ	ナデ 磨き後ナデ	No.5と同地点から出土 残存度1/3以下
第39回	7	No.20, 21、一括	6号墓 前庭部	須恵器	壺	口径13.2 脚部径19.8 高さ17.4	細砂粒(少)	やや 良	綠 黑	綠 黑	回転ナデ	カキ目	脚部にへア記号有り ロクロ右回り 肩部~脚部半1/4欠損
第39回	8	No.41, 42, 43	6号墓 前庭部	須恵器	壺	口径12.2 脚部径19.9 高さ18.3+	細砂粒(少)	やや 良	青 黑	青 黑	回転ナデ	タキ目	脚部外縁に横描き波状文有り 脚部~肩部1/4欠損
第39回	9	No.27、一括	6号墓 前庭部	須恵器	高环	口径9.8 器高9.3 底径7.8	細砂粒(多) 黒色粒(多)	不良	灰白	灰白	回転ナデ	回転ナデ	脚部外縁に横描き波状文有り 脚部のみ残存
第39回	10	No.27	6号墓 前庭部	須恵器	越	口径4.3+ 高さ4.3+	細砂粒(少) 小石粒(少)	不良	灰白	灰白	回転ナデ	カキ目	脚部外縁に横描き波状文有り 脚部のみ残存
第39回	11	No.12	6号墓 前庭部	須恵器	高环	口径5.6 残存高5.0+	細砂粒(多) 白色粒(少)	不良	褐	褐	回転ナデ	回転ナデ	脚部のみ残存
第39回	12	No.24、一括	6号墓 前庭部	須恵器	高环	口径(17.8) 器高13.0 底径9.8	細砂粒(多) 角閃石(少) 小石粒(少)	良	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	回転ナデ	カキ目	脚部外縁に横描き波状文有り 脚部~肩部1/4欠損
第39回	13	No.44	6号墓 前庭部	須恵器	高环	口径8.4 器高10.5 底径7.8	細砂粒(少) 白色粒(多)	良	灰 白	灰 白	回転ナデ	ナデ	脚部外縁に五条の沈線を巡らせる 口縁部~底部1/3
第39回	14	No.44, 45、一括	6号墓 前庭部	須恵器	高环	口径7.8 底径6.8	細砂粒(少) 白色粒(少)	良	黄 灰	黄 灰	回転ナデ	カキ目	脚部外縁に自然釉付着 脚部のみ残存
第40回	15	6号墓 前庭部No.10 3号墓 前庭部一括	6号墓 前庭部	須恵器	甕	口径35.5 脚部径5.47 高さ63.6	細砂粒(多) 小石粒(多) 白色粒(多)	良	淡 黄 灰	灰	回転ナデ	回転ナデ	脚部外縁に自然釉付着 脚部のみ残存
第40回	16	No.49、一括	6号墓 前庭部	須恵器	甕	口径22.4 脚部径3.98 高さ46.1	細砂粒(少) 白色粒(多)	良	明 オリー 灰 灰	青 灰	回転ナデ	カキ目	脚部外縁に自然釉付着 脚部~肩部1/4程度欠損
第40回	17	No.39	6号墓 前庭部	須恵器	甕	口径11.2 高さ3.4	細砂粒(少) 白色小石(少)	良	灰 白	灰 白	回転ナデ	ナデ	脚部外縁に横描き波状文有り 脚部~肩部1/4欠損
第40回	18	No.39	6号墓 前庭部	須恵器	甕	口径10.9 高さ5.5	細砂粒(少) 白色粒(少)	良	褐 灰	褐 灰	回転ナデ	ナデ	脚部外縁に自然釉付着 脚部のみ残存
第40回	19	一括	6号墓 前庭部	須恵器	环身	口径(11.0)	細砂粒(少)	良	明 オリー 灰 灰	オリー 灰 灰	回転ナデ	回転ナデ	脚部外縁に自然釉付着 脚部~肩部1/5以上
第40回	20	6号墓 前庭部No.14 3号墓 前庭部一括	6号墓 前庭部	須恵器	环身	口径10.3 高さ4.4	細砂粒(少) 白色粒(少)	良	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	回転ナデ	ナデ	脚部外縁にへア記号有り 口縁部1/2以下 TK43並行期 八女産?
第40回	21	一括	6号墓 前庭部	須恵器	环身	口径10.2 高さ3.4	細砂粒(少) 白色粒(少)	良	灰	灰	回転ナデ	ヘラケズリ後 ナデ	脚部外縁にへア記号有り TK209並行期?
第40回	22	No.30、一括	6号墓 前庭部	須恵器	高环?	口径(14.3)	細砂粒(少) 白色粒(少)	やや 良	淡 黄 褐色	褐 灰	回転ナデ	カキ目後ナデ	脚部外縁にへア記号有り 脚部~肩部1/4欠損
第40回	23	一括	6号墓 前庭部	須恵器	高环	底径6.8 高さ4.3+	細砂粒(少) 白色粒(少)	やや 良	褐 灰	褐 灰	回転ナデ	ナデ	脚部外縁にへア記号有り 脚部のみ残存
第40回	24	No.29	6号墓 前庭部	土師器	高环	底径8.0 高さ6.4	細砂粒(少) 白色粒(少)	不良	淡 黄 褐色	淡 黄 褐色	ナデ	ヨコナゲ	脚部外縁にへア記号有り 脚部のみ残存
第41回	25	No.28、一括	6号墓 前庭部	須恵器	越	口径(8.9) 高さ12.6	細砂粒(少)	良	灰	灰	回転ナデ	カキ目	脚部外縁にへア記号有り 脚部~肩部1/4欠損
第41回	26	一括	6号墓 前庭部	須恵器	甕	脚部径(17.0) 高さ4.9+	細砂粒(少) 白色粒(少)	良	褐 灰	褐 灰	回転ナデ	ナデ	脚部外縁にへア記号有り 脚部~肩部1/5以上
第41回	27	一括	6号墓 前庭部	須恵器	甕	脚部径(15.4)	細砂粒(少) 白色粒(少)	良	褐 灰	褐 灰	回転ナデ	ナデ	脚部外縁にへア記号有り 脚部~肩部1/4欠損
第41回	28	一括	6号墓 前庭部	土師器	坏?	底径(8.6) 高さ1.9+	細砂粒(少) 角閃石(多)	良	にぶい 黄	にぶい 黄	回転ナデ	ナデ	脚部外縁にへア記号有り 脚部~肩部1/4欠損
第41回	29	一括	6号墓 前庭部	須恵器	坏?	底径(17.0)	細砂粒(少) 白色粒(少)	良	褐 灰	褐 灰	回転ナデ	ナデ	脚部外縁にへア記号有り 脚部~肩部1/5以上
第41回	30	一括	6号墓 前庭部	須恵器	坏?	底							

第3表 鉄製品観察表

3号墓 鉄製品観察表

挿図 番号	遺物 番号	取上番号	出 土 地 点	種 別	器 種	全長 (cm)	最大幅 (cm)	厚み (cm)	備 考	
第24図	110	No.134	3号墓 前庭部	武器	鉄鏃（方頭鏃）	(6.5)	(2.5)	(0.6)	茎部下部欠損	
第24図	111	No.122	3号墓 前庭部	武器	鉄鏃（圭頭鏃）	7.9	2.2	0.3	茎部の一部欠損	
第24図	112	一括	3号墓 前庭部	武器	鉄鏃（長頸鏃）	(6.9)	0.9	0.4	茎部の一部欠損	
第24図	113	一括	3号墓 前庭部	武器	鉄鏃	(5.5)	0.7	0.4	茎部のみ残存 樹皮が残存？	
第24図	114	No.143	3号墓 前庭部	馬具	轡	(6.1)	(0.8)	(0.8)	銜の連接部分か銜と引手の連接部分と思われる	
第24図	115	No.135	3号墓 前庭部	馬具	轡	(10.6)	(2.3)	(1.2)	上部欠損 引手 摘りが見られる	
第24図	116	一括	3号墓 前庭部	馬具	鏡の舌状金具？	(5.2)	(1.7)	(0.1)	舌状金具の上部のみ残存？	
第24図	117	一括	3号墓 前庭部	馬具	不明鉄製品	6.4	1.8	0.2	馬具か？	
第24図	118	一括	3号墓 前庭部	馬具	轡？	径 (5.2)	0.8	0.4	1/2程度残存 素環状鏡板？	
第24図	119	No.72	3号墓 前庭部	馬具	轡	引手 (15.5) 鏡板 (5.0) 銜 (6.7)	(0.9) (8.2) (0.8)	(0.9) (0.7) (0.8)	複連兵庫鎖連結小型矩形立間造り環状鏡板 鏡板に銜及び引手が付く 鏡板は偏円形 鏡板から離れた状態の引手が残る 岡安編年第二段階 TK43並行期？	
第24図	120	No.143	3号墓 前庭部	馬具	轡	(4.5)	2.4	1.2	引手壺と銜の連接部分か？ No.121と同一個体か？	
第24図	121	No.143	3号墓 前庭部	馬具	轡	(19.6) 鏡板 径 5.2	引手1.1	引手1.1	鏡板に立聞は付かない 引手は繩状に捩じられている 銜先に引手と鏡板が連結している No.120と同一個体か？	
第25図	122	No.17	3号墓 美門～玄門通路	武器	鉄鏃（方頭鏃）	(5.6)	2.5	0.5	茎部の一部欠損	
第25図	123	一括	3号墓 通路	武器	鉄鏃	(4.4)	(1.3)	(0.7)	先端部は鶴が確認できる 鏡身部～頸部の上部残存	
第25図	124	一括	3号墓 通路	武器	鉄鏃	(4.2)	(1.0)	(0.5)	鏡身部の一部と頸部の一部	
第25図	125	一括	3号墓 通路	武器	鉄鏃	(4.0)	(1.2)	(0.5)	鏡身部～頸部の上部残存	
第25図	126	No.16	3号墓 通路	武器	鉄鏃 茎部分	(8.1)	(0.8)	0.8	鏡身部の一部と茎部の一部を欠損	
第25図	127	No.10	3号墓 通路	武器	鉄鏃 茎部分	(5.6)	0.7	0.5	茎部分残存両端は欠損	
第25図	128	No.20	3号墓 美門～玄門通路	武器	鉄鏃 茎部分	(5.3)	(1.0)	(0.4)		
第25図	129	一括	3号墓 通路	武器	鉄鏃	(3.8)	(1.0)	(0.8)	頸部の下部～茎部上部残存	
第25図	130	一括	3号墓 通路	武器	鉄鏃	(5.3)	(1.0)	(0.8)	頸部の下部～茎部上部残存	
第25図	131	一括	3号墓 通路中央付近	武器	鉄鏃	(2.8)	(0.6)	(0.8)	木質が残存 樹皮を巻く	
第25図	132	一括	3号墓 通路中央付近	武器	鉄鏃 矛柄先端部分	(2.5)	1.0	0.8	木質に樹皮が巻かれている 石灰質の被膜に覆われている	
第25図	133	一括	3号墓 通路中央	武器	鉄鏃 茎部分	(1.8)	(0.6)	(0.6)	木質残存	
第25図	134	No.11	3号墓 通路	工具	刀子	(6.1)	(0.7)	(0.4)	刃の一部 口金 柄の一部が残存 柄は木質が残存	
第25図	135	No.25	3号墓 閉塞石掘方	工具	刀子	(9.5)	(2.2)	(0.5)		
第25図	136	No.23	3号墓 美門～玄門通路	工具	刀子	13.0	1.9	(0.6)	完全形	
第25図	137	No.1	3号墓 通路	馬具	轡の引手？	(11.0)	(0.5)	(0.5)	引手壺を欠損	
第25図	138	No.2	3号墓 通路	馬具	轡	(13.2)	(1.2)	(1.2)	轡の引手と銜の一部？	
第25図	139	No.3	3号墓 通路	馬具	轡	5.6	1.2	0.6	空連素環状鏡板 立聞を持たない	
第25図	140	No.4	3号墓 通路	馬具	轡	6.4	1.2	0.6	空連素環状鏡板 立聞を持たない	
第25図	141	No.18	3号墓 美門～玄門通路	馬具	鏡の舌状金具	(4.8)	2.2	1.5	1/2程度残存	
第25図	142	No.19	3号墓 美門～玄門通路	馬具	鏡の舌状金具	(5.1)	(2.1)	(0.1)	舌状金具の一部	
第26図	143	No.22	3号墓 美門～玄門通路	馬具	鏡	絞具 7.7 兵庫鎖 8.0	5.3 2.9	0.6 0.9	絞具は完全形 兵庫鎖も三連はほぼ完全形 前庭部出土のNo.142とセット 兵庫鎖と絞具	
第26図	144	No.142	3号墓 前庭部	馬具	鏡	絞具 (7.1) 兵庫鎖 (7.1) 舌状金具 (3.6)	(0.8) (0.7) (0.5)	(0.8~2.0)	No.22とセット 兵庫鎖と絞具と舌状金具	
第26図	145	No.26	3号墓 閉塞石掘方	馬具		(2.7)	1.9	(0.7)	皮帶金具の可能性がある 留め具か？	
第26図	146	一括	3号墓 通路	不明鉄製品		(3.7)	(1.6)	(0.2)		
第26図	147	一括	3号墓 玄室左屍床入口側	武器	鉄鏃	(7.6)	(0.7)	(0.6)	茎部分残存両端は欠損	
第26図	148	No.24	3号墓 閉塞石掘方	馬具	鏡？	6.8	4.9	2.2	皮帶を留める筋が付くか？	
第26図	149	No.21	3号墓 美門～玄門通路	馬具	鏡	絞具 6.9 兵庫鎖 11.0	5.0 3.2	0.7 0.7	兵庫鎖二本 絞具一つ 完形 前庭部出土のNo.150とセット	
第26図	150	No.97	3号墓 前庭部	馬具	鏡 兵庫鎖と絞具	絞具 7.0 兵庫鎖 8.9	4.5 3.2	0.5 0.6	サビのため絞具と兵庫鎖の連結部は不明 美門～玄門通路出土のNo.149とセット	
第27図	151	No.51	3号墓 美道部	武器	鉄鏃（圭頭鏃）	9.5	2.8	0.6	茎部の下部欠損	
第27図	152	一括	3号墓 美道部	武器	鉄鏃（飛燕式鉄鏃）	(7.2)	(4.8)	(0.4)	鏡身部の一部と茎部の一部を欠損	
第27図	153	一括	3号墓 美道部	武器	鉄鏃（長頸鏃）	(12.9)	(1.3)	0.6	茎部の一部欠損	
第27図	154	No.62	3号墓 美道部	武器	鉄鏃（長頸鏃）	(8.1)	(1.2)	(0.2)	二つに折れている	
第27図	155	No.50	3号墓 美道部	武器	鉄鏃	(11.8)	0.7	0.3	鏡身部の上部の一部欠損	
第27図	156	No.60	3号墓 美道部	武器	鉄鏃	(9.7) (3.9)	(0.7) (0.6)	(0.1~0.6)	木質の残存、樹皮が巻かれている 三つに折れている	
第38図	157	No.28	3号墓 美門～玄門通路	武器	鉄鏃 茎から矢柄	(3.2)	(0.9)	(0.9)	木質残存 鏡身部は欠損	
第27図	158	一括	3号墓 美道部	武器	鉄鏃 茎部分	(2.6)	(0.9)	(0.7)		
第27図	159	No.48	3号墓 美門～玄門通路	馬具	絞具	5.5	0.4	0.4	全体の1/8程度欠損か？	
第27図	160	No.45	3号墓 閉塞石掘方近く	馬具	鏡の舌状金具	(7.9)	(1.7)	2.0	鏡が2本ある	
第27図	161	No.46	3号墓 閉塞石掘方近く	馬具	鏡の舌状金具？	(5.4)	(1.7)	2.0	鏡が2本ある	
第27図	162	No.47	3号墓 閉塞石掘方近く	馬具	鏡の舌状金具	(10.8)	1.4	2.0	鏡が二本ある 木質残存か？	
第27図	163	No.52	3号墓 美道部	馬具	鏡 兵庫鎖と絞具	絞具 (7.0) 兵庫鎖 (7.5)	4.3 3.0	0.6 0.6	サビのため絞具と兵庫鎖の連結部は不明 前庭部出土のNo.164とセット	
第27図	164	No.120	3号墓 前庭部	馬具	鏡 兵庫鎖と絞具	絞具 8.3 兵庫鎖 8.0	4.5 2.8	0.8 0.7	兵庫鎖 絞具とともに完形 美道部出土のNo.163とセット	

4号墓 鉄製品観察表

挿図 番号	遺物 番号	取上番号	出 土 地 点	種 別	器 種	全長 (cm)	最大幅 (cm)	厚み (cm)	備 考	
第36図	90	No.1	4号墓 美門部	武器	鉄鏃（長頸鏃）	(10.5)	1.0	0.4	茎部欠損	

5号墓 鉄製品観察表

挿図 番号	遺物 番号	取上番号	出 土 地 点	種 別	器 種	全長 (cm)	最大幅 (cm)	厚み (cm)	備 考	
第36図	91	No.53	5号墓 前庭部	武器	鉄鏃（方頭鏃）	13.5	3.7	0.5	完形	
第36図	92	No.71	5号墓 前庭部	武器	鉄鏃（方頭鏃）	10.3	4.2	0.4	茎部欠損	
第36図	93	No.79	5号墓 前庭部	武器	鉄鏃（圭頭鏃）	(7.9)	5.8	0.5	茎部の一部欠損	

第3表 鉄製品観察表

5号墓 鉄製品観察表

挿図番号	遺物番号	取上番号	出土地点	種別	器種	全長	最大幅	厚み	備考
						(cm)	(cm)	(cm)	
第36図	94	No.54	5号墓 前庭部	武器	鉄鎌(圭頭鎌)	(6.9)	(2.5)	(0.7)	木質残存
第36図	95	No.86	5号墓 前庭部	武器	鉄鎌(圭頭鎌)	(8.1)	2.9	(0.6)	茎部の一部欠損
第36図	96	一括	5号墓 前庭部	武器	鉄鎌	(3.3)	(1.5)	(0.5)	別個体の鉄片が銹着している
第36図	97	一括	5号墓 前庭部	武器	鉄鎌	(6.4)	(1.2)	(1.0)	頭部～茎部の上半部残存 木質残存
第36図	98	一括	5号墓 前庭部	武器	鉄鎌	(5.3)	(0.7)	(0.5)	頸部の下部～茎部残存
第36図	99	一括	5号墓 前庭部	武器	鉄鎌 矢柄装着部分	(3.0)	0.8	0.8	木質及び樹皮の残存 内部に茎が残っている様である
第36図	100	一括	5号墓 前庭部	武器	鉄鎌	(2.0)	(0.6)	(0.5)	上部及び下部欠損 棒状を呈する
第36図	101	一括	5号墓 前庭部	武器	鉄鎌 茎部分	(2.3)	(0.6)	(0.5)	木質残存
第36図	102	一括	5号墓 前庭部	不明鉄製品		(5.1)	(0.9)	0.3	用途不明
第36図	103	一括	5号墓 前庭部	不明鉄製品		(2.4)	(0.6)	(0.4)	上部及び下部欠損 棒状を呈する
第36図	104	No.74	5号墓 前庭部	不明鉄製品		(1.6)	(0.9)	(0.3)	薄い板状の鉄製品
第36図	105	一括	5号墓 通路入口側	武器	鉄鎌	(11.4)	3.0	0.6	矢柄の木質及び樹皮の残存 茎部の一部欠損
第36図	106	一括	5号墓 通路入口側	武器	鉄鎌(長頸鎌)	(7.6)	1.0	0.5	茎部欠損
第36図	107	一括	5号墓 通路入口付近	武器	鉄鎌	(4.6)	(0.7)	(0.6)	茎部のみ残存
第36図	108	一括	5号墓 通路入口付近	武器	鉄鎌	(2.8)	(1.6)	(0.4)	鎌身下半部のみ残存 基部に木質及び樹皮の残存
第36図	109	一括	5号墓 通路入口側	不明鉄器		(3.7)	(0.9)	0.5	鉄鎌の茎部分？断面は台形を呈する
第36図	110	一括	5号墓 通路入口付近	不明鉄器		(2.4)	(0.4)	(0.3)	上部及び下部欠損 木質残存 棒状を呈する
第36図	111	一括	5号墓 通路入口付近	武器	鉄鎌	(1.9)	(0.7)	(0.6)	茎部のみ残存
第37図	112	No.16	5号墓 右屍床	武器	鉄鎌(長頸鎌)	(17.3)	1.2	1.3	茎部に木質と樹皮が残存 茎部下端欠損
第37図	113	No.13	5号墓 右屍床	武器	鉄鎌(長頸鎌)	(15.5)	1.0	0.9	矢柄との接合部に木質と樹皮が残存
第37図	114	No.6	5号墓 右屍床	武器	鉄鎌(長頸鎌)	(15.6)	1.1	0.4	茎部下端欠損 木質及び樹皮の残存
第37図	115	No.19	5号墓 右屍床	武器	鉄鎌(長頸鎌)	(14.6)	1.2	0.8	矢柄との接合部に木質及び樹皮が残存 茎が見える
第37図	116	No.7	5号墓 右屍床	武器	鉄鎌(長頸鎌)	(14.2)	1.0	0.8	矢柄との接合部に樹皮が残存 矢柄内部に茎が見える
第37図	117	No.2	5号墓 右屍床	武器	鉄鎌(長頸鎌)	(13.4)	1.0	0.7	茎部欠損 矢柄の木質残存
第37図	118	一括	5号墓 右屍床入口側	武器	鉄鎌(長頸鎌)	(13.8)	1.0	0.5	茎部欠損 木質がわずかに残存
第37図	119	No.18	5号墓 右屍床	武器	鉄鎌(長頸鎌)	(12.3)	1	0.6	茎部欠損
第37図	120	一括	5号墓 右屍床入口側	武器	鉄鎌(長頸鎌)	(12.1)	1.1	0.4	茎部欠損
第37図	121	No.4	5号墓 右屍床	武器	鉄鎌(長頸鎌)	(11.5)	0.9	0.4	茎部欠損
第37図	122	No.9	5号墓 右屍床	武器	鉄鎌(長頸鎌)	(10.4)	1.0	0.6	茎部欠損
第37図	123	一括	5号墓 右屍床入口側	武器	鉄鎌(長頸鎌)	(5.5)	0.9	0.9	木質及び樹皮の残存 内部に茎が残っている様である
第37図	124	No.15	5号墓 右屍床	武器	鉄鎌	(9.0)	(1.0)	(1.0)	矢柄に木質と樹皮残存 植物繊維残存
第37図	125	No.14	5号墓 右屍床	武器	鉄鎌	(6.6)	1.2	1.1	茎部に樹皮が残存 内部に茎が残存
第37図	126	No.12	5号墓 右屍床	武器	鉄鎌	(5.5)	(0.9)	(0.9)	鉄部分は僅かに残り空洞化する 矢柄に木質と樹皮残存
第37図	127	一括	5号墓 右屍床	武器	鉄鎌	(2.7)	0.8	0.6	木質の矢柄内部に茎の一部が残存
第37図	128	一括	5号墓 右屍床奥側	武器	鉄鎌	(7.2)	0.5	0.5	茎部に樹皮が残存 鎌身部の一部と茎部の一部は欠損
第37図	129	一括	5号墓 右屍床奥側	武器	鉄鎌	(2.0)	0.4	0.3	茎部に樹皮が残存 鎌身部は欠損
第38図	130	No.20	5号墓 右屍床	馬具	轡？	径6.2～6.6	0.9	0.7	素環状鏡板の可能性がある
第38図	131	No.21	5号墓 右屍床	馬具	轡？	9.1	0.7	0.7	衝か？両端は欠損したと思われる
第38図	132	No.1	5号墓 右屍床	工具	刀子	(12.5)	(1.7)	(0.3)	刃部・柄部とともに一部欠損
第38図	133	No.3	5号墓 右屍床	馬具	轡	(14.2)	(0.6)	(0.8)	衝と引手の共連結？ 衝先の一部欠損
第38図	134		5号墓 不明	武器	鉄鎌(長頸鎌)	(16.2)	1.4	0.4	茎部に木質 植物繊維 樹皮が残存 茎部下端欠損
第38図	135		5号墓 不明	武器	鉄鎌(長頸鎌)	(12.3)	1.1	0.5	茎部欠損
第38図	136		5号墓 不明	武器	鉄鎌	(4.6)	(0.7)	(0.5)	茎部のみ残存 木質残存

6号墓 鉄製品観察表

挿図番号	遺物番号	取上番号	出土地点	種別	器種	全長	最大幅	厚み	備考
						(cm)	(cm)	(cm)	
第41図	29	No.33	6号墓 前庭部	工具	刀子	(3.9)	1.2	0.3	切先部分のみ残存
第41図	30	No.46	6号墓 前庭部	武器	鉄鎌(方頭鎌)	(5.5)	2.6	0.5	茎部欠損

不明遺構 鉄製品観察表

挿図番号	遺物番号	取上番号	出土地点	種別	器種	全長	最大幅	厚み	備考
						(cm)	(cm)	(cm)	
第41図	31		不明	武器	鉄鎌(飛燕式鉄鎌)	(6.9)	(4.2)	(0.3)	鎌身部の一部欠損
第41図	32		不明	武器	鉄鎌(飛燕式鉄鎌)	(7.6)	(3.4)	(0.5)	茎部欠損
第41図	33		不明	武器	鉄鎌(飛燕式鉄鎌)	(10.1)	(5.2)	(0.2)	刃部の一部と茎部下端欠損

第4表 耳環・石製品観察表

3号墓 耳環観察表

挿図番号	遺物番号	取上番号	出土地点	メッキの材質	綫幅 (mm)	横幅 (mm)	断面径 (mm)	開口部幅 (mm)	重さ (g)	備考
第23図	182	No.58	3号墓 美道部左壁面	金	19	20.0	6.0	1.0	6.0	No.182とNo.183は同じ大きさで対になる可能性がある 完形
第23図	183	No.148	3号墓 美道部左壁面	金	19	20.0	6.0	1.0	6.0	No.183とNo.182は同じ大きさで対になる可能性がある 完形
第23図	184	一括	3号墓 通路中央付近	不明	(24.0)		5.5	2.0	1/2程度欠損	
第23図	185	一括	3号墓 通路	銀	26	28.0	8.0	1.5	13.0	No.185とNo.186は同じ大きさで対になる可能性がある 完形
第23図	186	一括	3号墓 通路	銀	26	28.0	8.0	1.5	15.0	No.186とNo.185は同じ大きさで対になる可能性がある 完形

5号墓 耳環観察表

挿図番号	遺物番号	取上番号	出土地点	メッキの材質	綫幅 (mm)	横幅 (mm)	断面径 (mm)	開口部幅 (mm)	重さ (g)	備考
第38図	145	No.83	5号墓 前庭部	銀	28.0	32.0	8.0	1.0	21.0	完形
第38図	146	No.84	5号墓 前庭部	不明	23.0	25.0	6.0	2.0	5.0	欠けている部分がある
第38図	147	No.85	5号墓 前庭部	銀	25.0	27.0	9.0	1.0	14.0	完形
第38図	148	No.11	5号墓 右屍床 床直面	銀	24.0	27.0	6.0	3.0	6.0	開口部のメッキが剥げ銅の芯が露出

5号墓 石製品観察表

挿図番号	遺物番号	取上番号	出土地点	種類	材質	色調	径 (mm)	厚み (mm)	孔径 (mm)	備考
第38図	149	一括	5号墓 前庭部	石製錦座	不明	黒色	41.0	14.0	8.0	穿孔は上面一方向より加工 ほぼ円形

第4表 耳環・石製品観察表

6号墓 耳環観察表

挿図 番号	遺物 番号	取上番号	出土地點	メッキ の材質	縦幅	横幅	断面径	開口部幅	重さ (g)	備考
					(mm)	(mm)	(mm)	(mm)		
第41図	86	No.1	6号墓 羨道部 閉塞石近く	銀	26.0	29.0	8.0	1.0	15.0	
第41図	87	No.2	6号墓 羨道部 閉塞石下	金	22.0	23.0	8.0	1.0	10.0	No.87とNo.88は同じ大きさで対になる可能性が有る
第41図	88	一括	6号墓 羨門部 閉塞石下	金	22.0	23.0	8.0	1.0	8.0	No.88とNo.87は同じ大きさで対になる可能性が有る
第41図	89	一括	6号墓 通路入口側	銀	21.0	22.0	8.0	0.3	8.0	開口部はかなり狭い
第41図	90	一括	6号墓 左屍床中央付近	金	20.0	21.0	7.0	1.0	8.0	No.90とNo.91は平面と断面が同じ大きさで対になる可能性が有る
第41図	91	一括	6号墓 左屍床奥側	金	20.0	21.0	7.0	1.0	9.0	No.91とNo.90は平面と断面が同じ大きさで対になる可能性が有る
第41図	92	一括	6号墓 左屍床奥側	不明	20.0	22.0	9.0	0.8	9.0	No.91と同じ大きさで同地点から出土 対になる可能性が有る

第5表 玉類観察表

3号墓 玉類観察表

挿図 番号	遺物 番号	取上番号	出土地點	種類	材質	色調	径 (mm)	厚み (mm)	孔径 (mm)	備考
第23図	165	一括	3号墓 羨道部	滑石製小玉	滑石		8.0	5.0	2.0	
第23図	166	一括	3号墓 通路中央付近	ガラス製小玉	ガラス	濃紺色	3.0	2.0	1.0	
第23図	167	一括	3号墓 通路中央付近	ガラス製小玉	ガラス	濃青色	6.0	3.0	1.5	
第23図	168	一括	3号墓 通路中央付近	ガラス製小玉	ガラス	青色	4.0	3.0	1.5	
第23図	169	一括	3号墓 通路中央付近	ガラス製小玉	ガラス	紺色	6.0	5.0	2.0	
第23図	170	一括	3号墓 通路中央付近	土製小玉	土	黒色	6.0	4.0	1.5	
第23図	171	一括	3号墓 通路中央付近	土製小玉	土	黒色	6.0	5.0	1.5	
第23図	172	一括	3号墓 通路中央付近	土製小玉	土	黒色	6.0	5.0	1.0	
第23図	173	一括	3号墓 通路中央付近	土製小玉	土	黒色	6.0	5.0	1.0	
第23図	174	一括	3号墓 通路中央付近	土製小玉	土	黒色	5.5	4.5	1.0	
第23図	175	一括	3号墓 通路中央付近	土製小玉	土	黒色	7.0	5.0	1.0	
第23図	176	一括	3号墓 通路中央付近	土製小玉	土	黒色	6.0	5.0	1.5	
第23図	177	一括	3号墓 通路奥側	土製小玉	土	黒色	6.0	5.0	1.5	
第23図	178	一括	3号墓 奥屍床右側	滑石製小玉	滑石		9.0	5.0	2.0	
第23図	179	一括	3号墓 奥屍床中央付近	土製小玉	土	黒色	6.0	4.0	1.0	
第23図	180	一括	3号墓 奥屍床左側	土製小玉	土	黒色	5.5	5.0	1.0	
第23図	181	一括	3号墓 奥屍床	ガラス製小玉	ガラス	紺色	4.0	3.0	1.5	

5号墓 玉類観察表

挿図 番号	遺物 番号	取上番号	出土地點	種類	材質	色調	径 (mm)	厚み (mm)	孔径 (mm)	備考
第38図	137	一括	5号墓 前庭部	土製管玉	土	黒色	8.0	高さ19	1.0	
第38図	138	一括	5号墓 前庭部	土製丸玉	土	黒色	8.0	7.0	1.5	
第38図	139	一括	5号墓 前庭部	土製丸玉	土	黒色	10.0	6.0	2.0	
第38図	140	一括	5号墓 前庭部	土製丸玉	土	黒色	10.0	7.0	1.0	
第38図	141	一括	5号墓 前庭部	ガラス製小玉	ガラス	青色	4.0	3.5	1.0	
第38図	142	一括	5号墓 羨門部	ガラス製小玉	ガラス	緑青色	5.0	4.0	1.5	
第38図	143	一括	5号墓 左屍床入口側	土製丸玉	土	黒色	8.0	8.0	1.5	
第38図	144	一括	5号墓 右側屍床	滑石製小玉	滑石		7.0	6.0	2.0	

第5表 玉類觀察表

6号墓 玉類觀察表

挿図 番号	遺物 番号	取上番号	出土地點	種類	材質	色調	径 (mm)	厚み (mm)	孔径 (mm)	備考
第41図	34	一括	6号墓 羨門部閉塞石下	ガラス製丸玉	ガラス	緑色	10.0	9.0	3.0	風化で状態が悪化し一部が白色化
第41図	35	一括	6号墓 通路入口側付近	ガラス製丸玉	ガラス	濃緑色	9.0	7.0	3.0	
第41図	36	一括	6号墓 通路入口側付近	土製小玉	土	黒色	6.0	5.0	1.0	
第41図	37	一括	6号墓 通路入口側付近	土製小玉	土	黒色	4.0	4.0	1.0	
第41図	38	一括	6号墓 通路入口側付近	土製小玉	土	黒色	6.0	5.0	1.0	
第41図	39	一括	6号墓 通路入口側付近	ガラス製小玉	ガラス	黄白色	7.0	4.0	3.0	風化による劣化で白色化 元の色は不明
第41図	40	一括	6号墓 通路入口側付近	ガラス製丸玉	ガラス	白色	9.0	6.0	4.0	風化による劣化で白色化 元の色は不明
第41図	41	一括	6号墓 通路入口側付近	ガラス製小玉	ガラス	白色	7.0	4.0	1.5	風化による劣化で白色化 元の色は不明
第41図	42	一括	6号墓 通路中央付近	土製小玉	土	黒色	4.5	3.0	1.0	
第41図	43	一括	6号墓 通路奥側	土製小玉	土	黒色	7.0	4.0	1.0	
第41図	44	一括	6号墓 通路奥側	土製小玉	土	黒色	4.5	3.5	1.0	
第41図	45	一括	6号墓 通路奥側	土製小玉	土	黒色	4.0	3.0	1.0	
第41図	46	一括	6号墓 通路奥側	土製小玉	土	黒色	4.0	3.0	1.0	
第41図	47	一括	6号墓 通路奥側	土製小玉	土	黒色	4.0	3.0	1.0	
第41図	48	一括	6号墓 通路奥側	土製小玉	土	黒色	4.0	3.0	1.0	
第41図	49	一括	6号墓 通路奥側	土製小玉	土	黒色	4.0	3.0	1.0	
第41図	50	一括	6号墓 通路奥側	土製小玉	土	黒色	4.0	3.0	1.0	
第41図	51	一括	6号墓 通路奥側	土製小玉	土	黒色	5.0	3.0	1.0	
第41図	52	一括	6号墓 通路奥側	土製小玉	土	黒色	6.0	4.0	1.5	
第41図	53	一括	6号墓 通路奥側	土製小玉	土	黒色	4.0	3.0	1.0	
第41図	54	一括	6号墓 通路奥側	土製小玉	土	灰黒色	5.0	3.5	1.0	
第41図	55	一括	6号墓 通路奥側	土製小玉	土	黒色	4.0	3.0	1.0	
第41図	56	一括	6号墓 通路奥側	土製小玉	土	黒色	5.0	4.0	1.0	
第41図	57	一括	6号墓 通路奥側	土製小玉	土	黒色	4.0	4.0	1.0	
第41図	58	一括	6号墓 通路奥側	土製小玉	土	黒色	4.5	4.0	1.0	
第41図	59	一括	6号墓 通路奥側	土製小玉	土	黒色	6.0	4.0	1.0	
第41図	60	一括	6号墓 通路奥側	土製小玉	土	黒色	4.5	4.0	1.0	
第41図	61	一括	6号墓 通路奥側	土製小玉	土	黒色	4.0	3.0	1.0	
第41図	62	一括	6号墓 通路奥側	土製小玉	土	黒色	4.0	4.0	1.0	
第41図	63	一括	6号墓 通路奥側	土製小玉	土	黒色	4.5	4.0	1.0	
第41図	64	一括	6号墓 通路奥側	土製小玉	土	黒色	4.5	4.0	1.0	
第41図	65	一括	6号墓 通路奥側	土製小玉	土	黒色	6.0	4.5	1.5	
第41図	66	一括	6号墓 通路奥側	土製小玉	土	黒色	7.0	4.0	1.5	縁の一部が欠損
第41図	67	一括	6号墓 通路奥側	土製小玉	土	黒色	5.0	4.0	1.0	
第41図	68	一括	6号墓 通路奥側	土製小玉	土	黒色	6.0	4.0	1.0	
第41図	69	一括	6号墓 通路奥側	土製小玉	土	黒色	6.0	4.0	1.5	縁の一部が欠損
第41図	70	一括	6号墓 通路奥側	土製小玉	土	黒色	4.5	4.0	1.0	縁の一部が欠損
第41図	71	一括	6号墓 通路奥側	土製小玉	土	黒色	6.0	5.0	1.0	縁の一部が欠損
第41図	72	一括	6号墓 右屍床中央付近	土製小玉	土	黒色	6.0	4.0	1.0	
第41図	73	一括	6号墓 右屍床奥側	ガラス製丸玉	ガラス	緑色	8.0	7.0	2.0	
第41図	74	一括	6号墓 右屍床奥側	土製小玉	土	黒色	4.0	3.0	1.0	
第41図	75	一括	6号墓 左屍床中央付近	土製小玉	土	黒色	4.0	3.0	1.0	
第41図	76	一括	6号墓 左屍床中央付近	土製小玉	土	黒色	4.0	3.0	1.0	
第41図	77	一括	6号墓 左屍床中央付近	土製小玉	土	黒色	4.0	3.0	1.0	
第41図	78	一括	6号墓 左屍床中央付近	土製小玉	土	黒色	5.0	4.0	1.0	
第41図	79	一括	6号墓 通路中央付近	土製小玉	土	黒色	4.0	3.0	1.0	
第41図	80	一括	6号墓 通路中央付近	土製小玉	土	黒色	4.0	3.0	1.0	
第41図	81	一括	6号墓 通路中央付近	土製小玉	土	黒色	4.0	3.0	1.0	全体の約半分程度が欠損
第41図	82	一括	6号墓 左屍床奥側	土製小玉	土	黒色	4.0	4.0	1.0	
第41図	83	一括	6号墓 左屍床奥側	土製小玉	土	黒色	5.0	3.0	1.0	
第41図	84	一括	6号墓 左屍床奥側	ガラス製丸玉	ガラス	黄白色	9.0	6.0	2.0	
第41図	85	一括	6号墓 奥屍床左側	ガラス製丸玉	ガラス	緑色	9.0	6.0	3.0	

## 第IV章 まとめ

本横穴群の調査では、調査期間の制限により土層堆積の観察が行えなかったことから層位的な発掘調査ができなかった。しかし、前庭部から多量の遺物が出土しており、出土位置の記録から葬送儀礼を考察した。また、墓室の形態から変遷の時期について述べたい。

出土遺物は、土師器より須恵器が圧倒的に多く、八女産須恵器が目立つことが分かった。高坏は、有蓋高坏が無く、全て無蓋高坏であった。さらに、ヘラ記号のある須恵器が多いという特徴がある。<sup>註1)</sup>

3号墓は、玄室から土器の出土が無く、羨道から前庭部に散在する状況で出土した。また、羨門～玄門通路及び玄室通路からの出土遺物は、鉄製品のみに限られ、羨道から前庭部との出土状況と明確な差異を確認できた。前庭部右棚状施設からは、珍しい器形である俵壺形の土師器（No. 152）が出土している。羨道下段の左壁面隅において坏身（No. 54）、提瓶（No. 55・57）、壇（No. 56）の出土状況は、「再配置」いわゆる片付けを行った可能性が高く、壇は逆位での出土であった。散在した状況は、荒らされたような出土であるが、大形容器が右壁面側で出土している状況や甕（No. 127）の口縁～頸部が逆位になっている点から意図的に置かれたと考えたい。さらに打ち欠き口縁の坏が多いことからも破碎された可能性が高いと思われる。また、遺物の接合関係や馬具のセット関係の位置関係が離れており、意図的に破碎した土器を広範囲に撒く「破碎散布」の可能性も考えられるが、詳細な状況が分からぬため不明である。3号墓出土遺物の主体は、TK43～209並行期である。

5号墓の出土土器は、基本的に前庭部より出土した。前庭部左壁面に寄せてある状況であり、「再配置」であると考えられる。打ち欠き口縁の坏が少ないながらも確認された。概して4つの群が認められ、器形の構成は、甕ないし壺の大形容器と高坏や壇そして坏から成ることが推測される。坏（No. 32）を中心とした一群は、TK43～209並行期に相当する遺物が主である中、坏身（No. 94）のみがMT85並行期であった。また、調査区側の前庭部左壁面にもMT85並行期に相当する坏蓋（No. 28・51・56・82）が出土している。5号墓出土遺物の主体は、TK43並行期である。

6号墓は玄室内からの出土は無く、土器類は、前庭部より出土した。前庭部左棚状施設と前庭部右壁面において埋納の痕跡が確認された。この埋納された前庭部右壁面の甕2点と前庭部左壁面側の甕（No. 11）は、破碎された可能性が考えられる。前庭部中央の調査区壁面側から出土した壇は、内部に穿孔した粘土塊が残り振るとカラカラと音がすることから鈴を連想させる。これと同様の壇は、3号墓のNo. 56がある。6号墓の出土遺物の主体は、TK43～209並行期である。

以上のように、3・5・6号墓の出土遺物から「破碎」、「埋納」、「再配置」の可能性があることを推測した。1・2・4号墓からの出土遺物は、ほぼ皆無であったが、この出土状況の差は、時期差または階層差であるのか不明である。3・5・6号墓から出土した古代（9世紀後半）から中世の遺物は追善供養が行われていたことを示す。出土遺物の接合関係は、特に3号墓で多く認められた。その中でも3号墓と6号墓で接合していることは、「つつじヶ丘横穴群」報告書で指摘されている破碎後の破片に二次的な意義付けがあったものと同様であると考えられる。<sup>註2)</sup>

3号墓出土の轡（No. 72）は、「複連兵庫鎖連結小型矩形立闇造り環状鏡板」であり、熊本県山鹿市の湯ノ口横穴群179号墓と類似しており、岡安編年第2段階のTK43以前の時期と考えられる。鉄鏹では、出土地点が不明ながら飛燕式鉄鏹が3点出土した。

次に、墓室の構造から変遷の時期について述べたい。本横穴群の屍床部は、コ字形の「肥後型」が主体であった。玄室の主軸方向は、3・5・6号墓と1・2・4号墓が異なる。また3・5・6号墓は、羨道部が明瞭で、前庭部は、外側に開く形態であるのに対し、1・2・4号墓は、羨道部がない。さらに飾縁や羨門の形態において残存状況の差異はあるものの、1・2・6号墓が橢円に近い形状であるのに対し、3～5号墓は、縦長の橢円で、形状が異なる。

天井部の形態は、切妻の屋根型が主体であり、寄棟の屋根型が認められない。また、天井部断面はアーチ、ドーム形を呈しており、天井屋根型が省略化され、崩れている時期に相当する。<sup>註3)</sup> 5号墓以外の玄室通路は、奥屍床に向かい傾斜が上がり、狭くなる。

出土遺物から想定される築造時期及び最終追葬時期について述べたい。3号墓の築造時期は、TK43並行期、最終追葬時期は、7世紀後半と考えられる。5号墓の築造時期は、MT85並行期の坏が2点のみであるため遅くとも

TK43 並行期で、本横穴群において最も古い。最終追葬時期は、TK217 並行期と考えられる。6号墓の築造時期は、TK43 並行期、最終追葬時期は、TK209 並行期とみられる。玄室の主軸方向の差は時期差として捉え、3・5・6号墓が古く、1・2・4号墓が新しいと想定した。3・5・6号墓の築造時期は、出土遺物から TK43 並行期であり、この3基で最も古いのは、玄室通路が平坦で通路が奥屍床側へ狭くならない点から 5号墓と考えられる。1・2・4号墓の築造時期は、TK43 並行期以降となるが、出土遺物が少なく、残存状況があまり良くないため分からず。4号墓は、同じ塩浸川水系の源流にある豊岡宮本横穴群の7世紀前半に築造されたと推測される 12号墓に類似することからその時期に近いものとしておきたい。<sup>註4)</sup>

最後に、本横穴群における墓室形態の変遷を示したい。玄室平面形は、台形から方形へ変化する。また、天井部中央において縦位方向の断面が平坦から湾曲へ、玄室の横断形は、直立から内傾ぎみに立ち上がる壁面から外側に開き、湾曲を呈する形に変化する。今回、前庭部から多くの遺物が出土したことから墓室の形態とも合わせることで築造時期まで考えることができた。しかし、墓室の形態については、天井形態の省略化が始まる6世紀後半以降、小地域や同一集団内においても差が大きい可能性も考えられる。今後の発掘調査に期待したい。

#### 註

註 1) 木村龍生氏（熊本県教育文化課）によりご教示頂いた。

註 2) 美濃口雅朗 2002『つつじヶ丘横穴群』熊本市教育委員会

註 3) 美濃口雅朗 2001「地域の概要 - 肥後 -」『九州の横穴墓と地下式横穴墓 第1分冊』九州前方後円墳研究会

註 4) 米村大・杉井涼子 2006「豊岡宮本横穴群」熊本県合志町文化財調査報告書第2集 合志町教育委員会

#### 参考文献

岡安光彦 1984「いわゆる「素環の轡」について—環状鏡板付轡の型式学的分析と編年」『日本古代文化研究』創刊号

高木正文 1985『古城横穴群墓』熊本県文化財調査報告第74集 熊本県教育委員会

中村幸史郎 1990『湯の口横穴群（Ⅲ）』山鹿市教育委員会

西住欣一郎 1991「肥後における横穴墓について」『おおいた考古』第4集 大分県考古学会

中原幹彦 1996「熊本宇城窯跡郡の古墳時代須恵器」『肥後考古』第9号 肥後考古学会

増田直人 2010「粕道遺跡 鬼迫横穴群」『植木町文化財調査報告 第22集』植木町教育委員会

後藤克博 2013「北岡横穴群」『熊本県文化財調査報告 第290集』熊本県教育委員会

木村龍生 2013「須恵器から見た地域間交流の一様相—特に八女産須恵器・宇城産須恵器を中心に—」

『古墳時代の地域間交流 1』九州前方後円墳研究会